

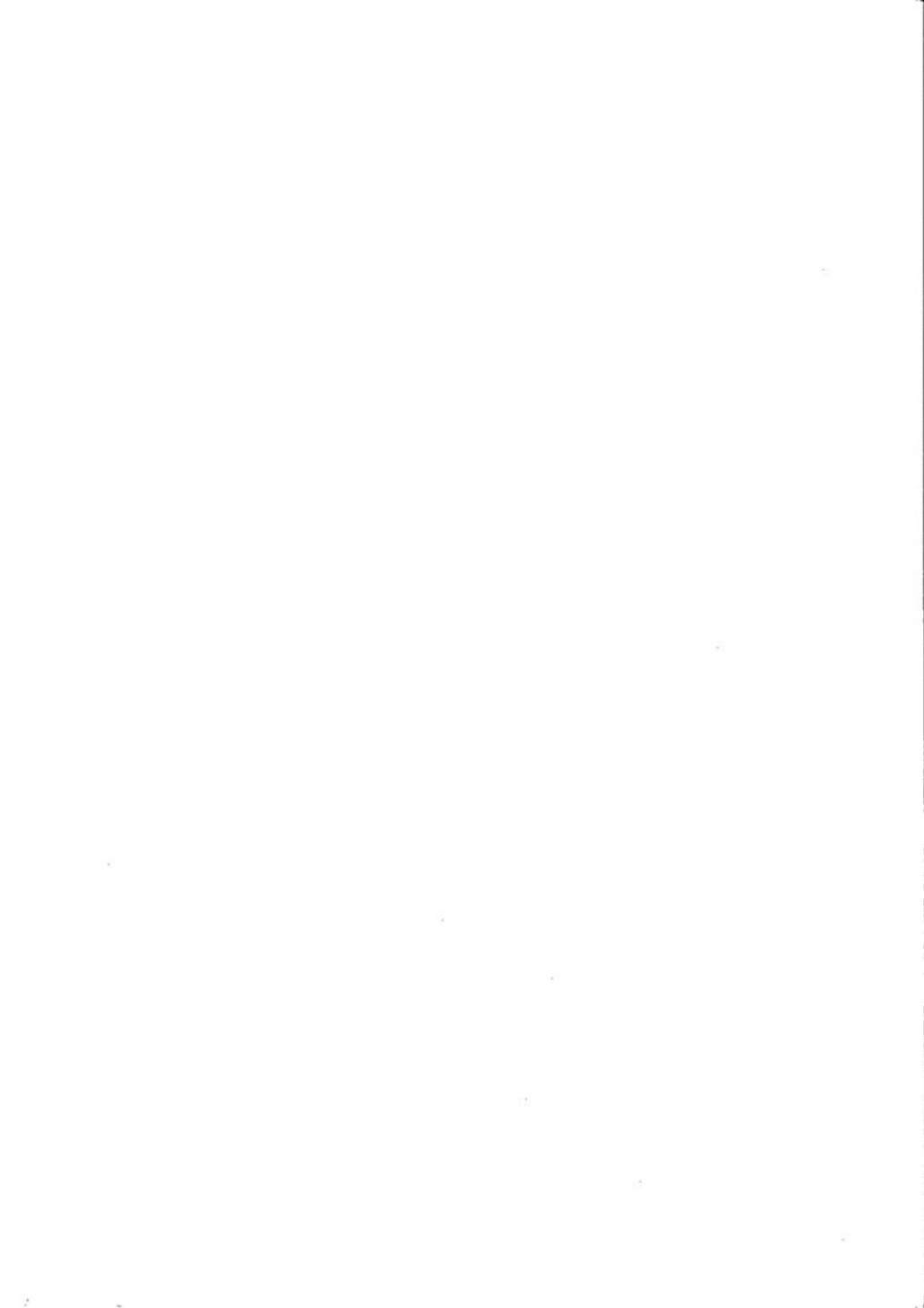
福 万 寺 遺 跡

— 上之島町北3丁目22-1の調査 —



1990.6

財団 八尾市文化財調査研究会
法人



福万寺遺跡正誤表

本書作成に当たり下記正誤表のとおり、誤記が生じたのでお詫びいたします。

頁	行	誤	正
6	27	東西の柱間は約2.0 ~1.8 _	東西の柱間は約2.0 ~1.8 m
9	2	北調査区東南側で検出し	北調査区西南側で検出し
61	10	出土した。試掘坑の位置を検討	出土した。試掘坑の位置を検討
61	図77	照寧元宝	照寧元宝
79	4	河内郡条里と高安郡条里との	河内郡条里と高安郡条里との
79	5	の郡界に一致している。	の郡界に一致している。
79	23	12世紀代の経塚に伴例が古くよ	12世紀代の経塚に伴う例が古くよ
79	25	龍泉窯系青磁碗皿類が見当た	龍泉窯系青磁碗皿類が見当た
80	4	その後玉櫛の荘は 逋園 家として	その後玉櫛の荘は逋園家 逋 として
80	27	達であったことを掘状の施設や	達であったことを掘状の施設や
81	21	佐藤昭嗣「大山裕司」「草戸千軒	佐藤昭嗣_大山裕司「草戸千軒
81	24	早くも7年の歳月が経過した。	早くも7年の歳月が経過した。

福 万 寺 遺 跡

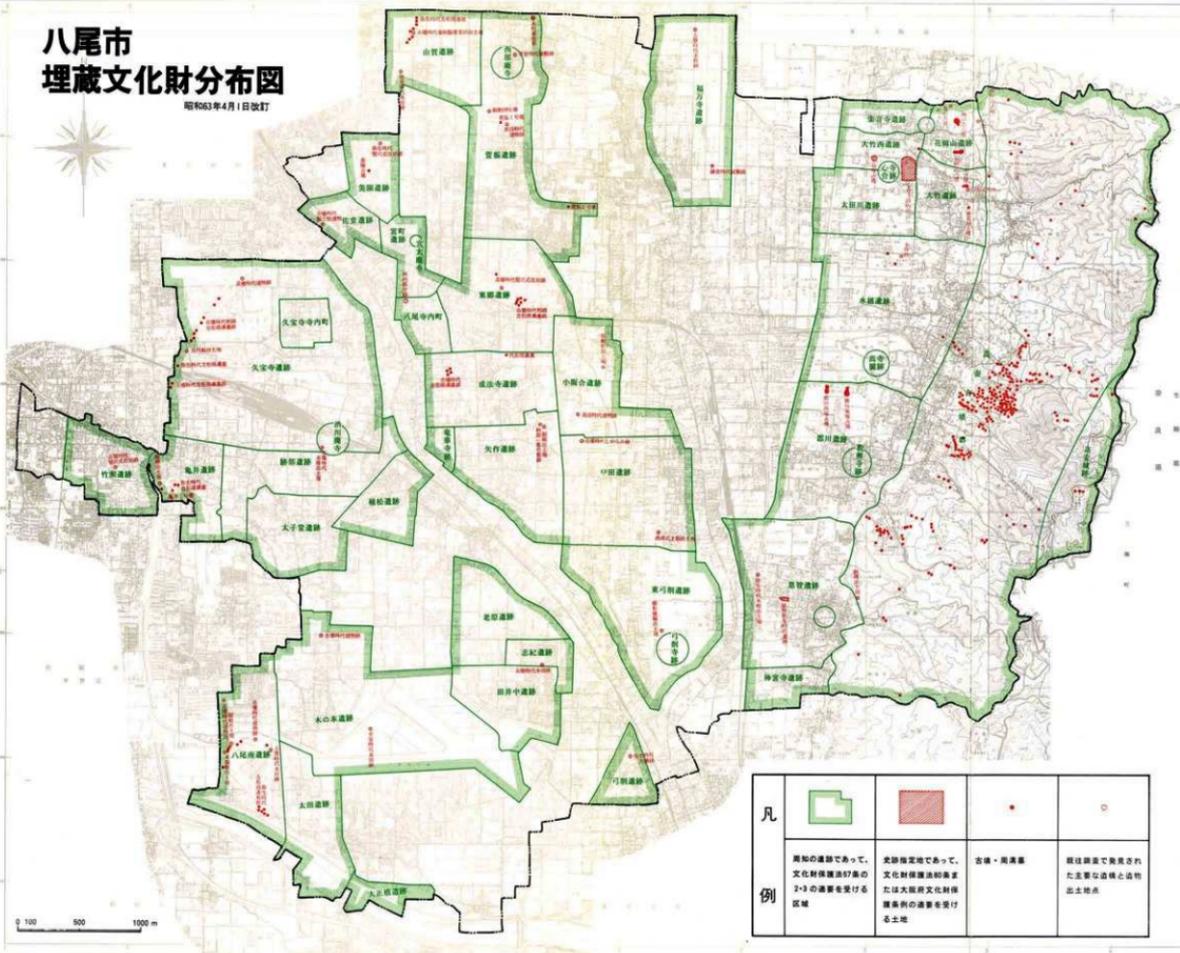
— 上之島町北3丁目22-1の調査 —

1990.6

財団法人 八尾市文化財調査研究会

八尾市 埋蔵文化財分布図

昭和63年4月1日改訂



凡 例				
	周知の遺跡であって、文化財保護法第36条の2-3の遺跡を受ける区域	史跡指定地であって、文化財保護法第36条第1項又は大規模文化財保護条例の遺跡を受ける土地	古墳・周溝墓	経緯線上で発見された主要な遺構と遺物出土地点

0 100 500 1000 m

はじめに

八尾市は、古来より難波と人を結ぶ水陸交通の要地として発展した歴史と伝統の町であり、近年においては、大都市大阪に隣接して、著しく都市化が進んでいるところであります。

このような中で、本市では、埋蔵文化財をはじめとする古くからの文化遺産の保全をはかり、調査研究を行なう為に、(財)八尾市文化財調査研究会が昭和57年に発足し、今日まで市域の開発に伴う発掘調査等に当たってまいりました。しかし発足当初の調査体制では、学術報告書の刊行が遅れざるを得ない状況でありました。

遅ればせながら、ここに福万寺遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなった次第であります。

願わくば、本書が今後の考古学の発展と地域解明の資料として活用されることを切に希望します。

平成2年6月30日

(財)八尾市文化財調査研究会

理事長 福 島 孝

例 言

1. 本書は八尾市上之島北3丁目22-1所在、市立上之島小学校建設に伴う福万寺遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査に当たっては、八尾市長、八尾市教育委員会、(財)八尾市文化財調査研究会が三者で協定を締結した後、(財)八尾市文化財調査研究会が主体となって実施した。
3. 現地調査は(財)八尾市文化財調査研究会調査員(当時)米田敏幸を担当者として、昭和57年11月4日から12月30日までの期間で実施した。
4. 調査の実施については、駒沢敦 穠山譲二 山中慎 菊田成 池田まゆみ他調査補助員諸君の参加を得た。
5. 出土遺物、調査図面の整理作業は、調査終了後直ちに実施する予定であったが諸般の事情で実施が不可能となった為昭和63年度と平成元年度の2年にまたがり整理作業を行なうこととなった。
6. 整理作業は徳谷尚子、岡田清一、横山妙子、松浦明美が補助をして実施した。
7. 本書の編集、執筆は米田、徳谷が分担し、図面レイアウト、トレースは徳谷が、遺物写真撮影は岡田が行った。
8. 調査及び本書の編集については、下記の諸氏の御指導、御助言を受けた。

大阪府教育委員会 大野薫、岸本道昭、小山田宏一、阪田育功

奈良女子大学 坪之内徹

八尾市歴史民俗資料館 小谷利明

樟蔭東短期大学 森田康夫

(敬称略)

凡 例

☆遺構名には次の分類記号を用いた。

S B 建物 S D 溝 S E 井戸 S G 池状遺構 S K 土坑 S R 道路状遺構

☆遺物実測図には通し番号を用い、1/4スケールを原則とし、大型小型の遺物は縮尺を変更して掲載した。

☆調査座標は大阪府教育委員会が実施した池島遺跡の調査との関連により国土座標を用い、方位は真北を示す。

☆上色、遺物の色調は観察者の主観による。

☆中国磁器については観察表に太宰府の分類を記した。 横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4 1978参照

本文目次

第1章	地理的歴史的環境	1
第2章	調査の経過	2
第3章	調査の概要	5
I	層位と調査方法	5
II	遺構の概要	5
	1. 建物遺構	5
	2. 井戸状遺構	8
	3. 溝状遺構	26
	4. 土坑	38
	5. 池状遺構	43
	6. 道路状遺構	46
III	出土遺物	51
	1. 瓦器筒	51
	2. 瓦器皿	54
	3. 土師器皿	54
	4. 羽釜	54
	5. 東播系須恵器	55
	6. 中国磁器	55
	7. 木製品	58
	8. 石製品	61
	9. 金属製品	61
第4章	まとめ	83

插图目次

图1	埋藏文化財分布图	表紙裏
图2	調査位置图	1
图3	試掘調査出土遺物	2
图4	調査区配置图	4
图5	基本層序图	5
图6	S B 1 遺構平面図	5
图7	S B 2 遺構平面図	6
图8	S B 4 遺構平面図	6
图9	S B 3 遺構平面図	7
图10	S B 5 遺構平面図	8
图11	S E 1 遺構平面断面図	8
图12	S E 2 遺構平面断面図	8
图13	S E 3 遺構平面断面図	9
图14	S E 3 出土遺物実測図	9
图15	S E 4 遺構平面断面図	9
图16	S E 5 遺構平面断面図	10
图17	S E 6 遺構平面断面図	10
图18	S E 6 出土遺物実測図 1	10
图19	S E 6 出土遺物実測図 2	11
图20	S E 7 遺構平面断面図	11
图21	S E 8 遺構平面断面図	11
图22	S E 9 遺構平面断面図	12
图23	S E 9 出土遺物実測図	12
图24	S E 10 遺構平面断面図	13
图25	S E 10 出土遺物実測図	13

图26	SE11遺構平面断面図	14
图27	SE12遺構平面断面図	14
图28	SE11出土遺物実測図1	15
图29	SE11出土遺物実測図2	16
图30	SE13遺構平面断面図	17
图31	SE14遺構平面断面図	17
图32	SE14出土遺物実測図	17
图33	SE13出土遺物実測図1	18
图34	SE13出土遺物実測図2	19
图35	SE15遺構平面断面図	20
图36	SE16遺構平面断面図	20
图37	SE16出土遺物実測図1	21
图38	SE16出土遺物実測図2	22
图39	SE16出土遺物実測図3	23
图40	SE16出土遺物実測図4	24
图41	SE16出土遺物実測図5	25
图42	SE17遺構平面断面図	25
图43	SE17出土遺物実測図	25
图44	SD1出土遺物実測図	27
图45	SD2出土遺物実測図	28
图46	SD8出土遺物実測図	28
图47	SD4出土遺物実測図	29
图48	SD12出土遺物実測図	29
图49	SD9出土遺物実測図1	30
图50	SD9出土遺物実測図2	31
图51	SD9出土遺物実測図3	32
图52	SD11出土遺物実測図	33

图53	S D 15出土器物实测图 1	34
图54	S D 15出土器物实测图 2	35
图55	S D 15出土器物实测图 3	36
图56	S D 16出土器物实测图	37
图57	S D 18出土器物实测图	37
图58	S K 2 出土器物实测图	38
图59	S K 2 遗構平面断面图	39
图60	S K 3 出土器物实测图	39
图61	S K 6 遗構平面断面图	40
图62	S K 6 出土器物实测图	41
图63	S K 7 遗構平面断面图	42
图64	S K 7 出土器物实测图	42
图65	S K 8 出土器物实测图	43
图66	S G 2 遗構平面断面图	43
图67	S G 1 出土器物实测图 1	44
图68	S G 1 出土器物实测图 2	45
图69	S G 2 出土器物实测图	45
图70	北調査区検出遺構配置图	47~48
图71	南調査区検出遺構配置图	49~50
图72	中国磁器实测图 1	56
图73	中国磁器实测图 2	57
图74	木製品实测图 1	58
图75	木製品实测图 2	59
图76	木製品实测图 3	60
图77	中国錢拓影	61
图78	金属製品实测图	62
图79	福万寺遺跡屋敷地田高復元图	81

表 目 次

表1	瓦器碗形式分類表	52
表2	主要遺構出土瓦器碗形式組成表	53
表3	羽釜の形式分類表	54
表4	検出遺構出土遺物一覧表	63
表5	遺物観察表1	64
表6	遺物観察表2	65
表7	遺物観察表3	66
表8	遺物観察表4	67
表9	遺物観察表5	68
表10	遺物観察表6	69
表11	遺物観察表7	70
表12	遺物観察表8	71
表13	遺物観察表9	72
表14	遺物観察表10	73
表15	遺物観察表11	74
表16	遺物観察表12	75
表17	遺物観察表13	76
表18	遺物観察表14	77
表19	遺物観察表15	78
表20	福万寺遺跡関係編年表	82

图 版 目 次

- 图版 1 北调查区西侧全景·北调查区东侧全景
- 图版 2 北调查区建物 (SB 1, SB 2)·北调查区土坑 (SK 2)
- 图版 3 北调查区井戸 (SE 5)·北调查区井戸 (SE 6)
- 图版 4 北调查区井戸 (SE 9)·北调查区井戸 (SE 10)
- 图版 5 南调查区全景·南调查区建物 (SB 3, 4)
- 图版 6 南调查区井戸 (SE 11)·南调查区井戸 (SE 12)
- 图版 7 南调查区井戸 (SE 13)·南调查区井戸 (SE 13井筒内)
- 图版 8 南调查区井戸 (SE 16)·南调查区井戸 (SE 16井筒内)
- 图版 9 北调查区里道 (SR 1)·南调查区里道 (SR 1)
- 图版 10 SE 3 瓦器皿·SE 6 瓦器皿、瓦器碗、砥石、曲物
- 图版 11 SE 9 羽釜·SE 10 瓦器碗、砥石
- 图版 12 SE 10 土師器皿
- 图版 13 SE 11 土師器皿
- 图版 14 SE 11 瓦器皿、瓦器碗、砥石
- 图版 15 SE 11 瓦器碗
- 图版 16 SE 13 土師器皿、瓦器碗
- 图版 17 SE 13 瓦器碗
- 图版 18 SE 13 曲物
- 图版 19 SE 16 瓦器碗
- 图版 20 SE 8 瓦器碗·SE 16 瓦器碗、土師器碗
- 图版 21 SE 16 片门鉢、砥石、三足釜
- 图版 22 SD 1 瓦器碗
- 图版 23 SD 1 瓦器皿、土師器皿·SE 1 土師器皿、瓦器碗
- 图版 24 SD 2 土師器皿、瓦器碗
- 图版 25 SD 4 土師器皿、瓦器碗、砥石·SD 12 瓦器碗

- 图版26 S D 8 土師器皿
- 图版27 S D 9 瓦器碗
- 图版28 S D 9 瓦器碗
- 图版29 S D 9 瓦器碗、土師器皿
- 图版30 S D 9 土師器皿
- 图版31 S D 11 土師器皿、瓦器碗
- 图版32 S D 15 瓦器碗
- 图版33 S D 15 瓦器碗
- 图版34 S D 15 瓦器碗、土師器皿
- 图版35 S D 16 土師器皿、瓦器碗 · S D 18 瓦器碗
- 图版36 S K 2 瓦器碗、S K 3 土師器皿 · S K 8 土師器皿、瓦器碗、ミニチュア足釜
- 图版37 S K 7 瓦器皿、土師器皿
- 图版38 S K 7 土師器皿
- 图版39 S G 1 瓦器碗
- 图版40 S G 1 土師器皿、瓦器碗、砥石
- 图版41 中国磁器
- 图版42 中国磁器
- 图版43 中国磁器
- 图版44 硯、漆器、櫛
- 图版45 下駄
- 图版46 下駄
- 图版47 下駄
- 图版48 宋錢、包丁
- 图版49 金属製品

第1章 歴史的、地理的環境

福万寺遺跡は、河内平野の東側、八尾市の東北部を南北に流れる玉串川と恩智川の間の低湿地に位置し、福万寺町、福万寺町北、福万寺町南、上之島町北に所在する弥生時代から中世に至る複合遺跡である。北東側は東大阪市の池島遺跡に接しており、近年までは、条里制がこの地域において良好に残存していたことで知られている。当該地は旧国郡制でいうと、河内国河内郡美野郷に属しているが、「河」「矢」「味」「走」の条里名が残る河内郡条里が福万寺で終わっており、また上之島は、高安郡条里の延長線上にあるという。このことから条里の上での郡界が福万寺町南と上之島町北との間に当たることから

本来はここに郡境があったとする説もある。また河内郡条里の南端は、一町分少なくなっており、高安郡条里に切られた恰好になっている。さらに上之島に所在する御野県主神社は、延喜式では、若江郡となっていることから、河川の氾濫の度に郡界の複雑な変遷がかつてあったことが想起される。また、中世においては、玉櫛庄が平安時代（初見は長和4年小右記に見える。）から室町時代に至るまでの間、摂関家領としてこの付近に展開していたと思われる。

古代においては、福万寺町北4丁目、恩智川治水緑地建設に伴い古墳時代の玉作り跡が大府教育委員会によって調査され、子持ち勾玉や滑石製品が多量に出土していることから玉串の由来とも関連する興味深い発見があった。この一連の調査では、弥生時代のしがらみや小区画水田跡、河川跡が検出され、弥生時代、古墳時代、中世、各時代の土器、石器や木製品等が出土し、各時代の遺構が検出されている。なお大府教育委員会では、事業の関連から池島遺跡福万寺地区という呼称を当遺跡に充てているが、調査地が八尾市域に所在することや遺跡の発見の経過から八尾市では、福万寺遺跡の呼称を使用することにした。

今回の調査地は、当遺跡の南部分に位置し、条里制でいう河内郡と高安郡条里の境界である福万寺南5丁



図2 調査位置図

目と上之島北3丁目の境界を挟んで南北の土地2800㎡である。調査地北側の福万寺南5丁目、河内郡条里の味11坪に当たる。

- 注 1 東大阪市遺跡保護調査会「池島町の条里跡遺構」1973 山井善太郎「河内国の条里制について」歴史研究13 1956
天功幸彦「上代遺跡の歴史地理的研究」1947 山本 博「中河内の条里制について」考古学雑誌32-6 1942
- 2 榊原利光「八尾の条里制」八尾市史紀要第6号 八尾市史編纂室 1976
- 3 森田康夫編「八尾福年史古代中世編」八尾市民文化会書No1 八尾市立図書館1980
- 4 大野薫、横山洋「池島遺跡発掘調査概要Ⅰ」大阪府教育委員会 1982 大野薫、阪田育功「池島遺跡発掘調査概要Ⅱ」大阪府教育委員会 1983 阪田育功「池島遺跡発掘調査概要Ⅲ」大阪府教育委員会 1986 岸本進昭「池島遺跡発掘調査概要Ⅳ」大阪府教育委員会 1986

第2章 調査の経過

昭和57年4月に、福万寺町5丁目及び上之島3丁目において、昭和57年度事業として、上之島小学校〔第3山本小学校〕新設を計画している旨の事前協議が八尾市教育委員会施設課を通じてあった。当該地については従来、遺跡として認識されていなかったが、開発規模が大規模であることにより、昭和57年9月30日に八尾市教育委員会文化財室によって遺構確認調査が実施されることとなった。その結果地表下2.5m付近に終末期の瓦器を多量に含む遺物包含層が計画地全域にわたって存在していることを確認した。そのため、昭和57年10月6日付けで遺跡発見届を文化庁宛に提出するとともに、文化財保護法57条の3による手続をとって、発掘調査実施の協議に入った。全面発掘を前提として助八尾市文化財調査研究会が実施することで協議を行ったが、工期的な都合により調査範囲を遺構の破壊される校舎、体育館の建設予定地部分

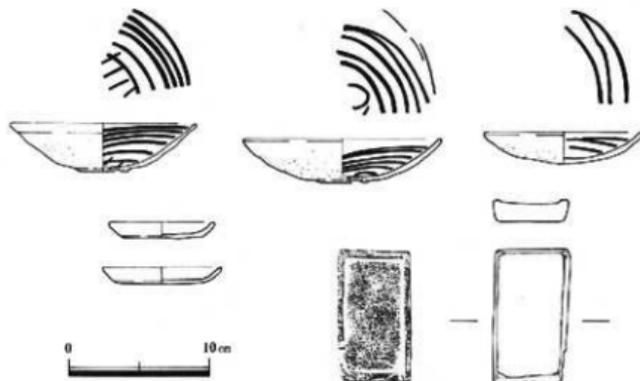


図3 試掘調査出土遺物

に留めるとともに、調査期間を実働60日に限定して12月末までに調査を終了することで協議が成立し、協定を締結して昭和57年11月4日より発掘調査に入った。調査の結果多数の遺構を検出したが、時間的に不十分な調査にならざるを得なかったことは否めない。調査は、昭和57年12月30日をもって終了した。なお遺物整理は、昭和63年度から平成元年7月まで実施し、本報告書を作成した。

調査日誌抄

11/4～10 調査準備工、府教委に支援依頼
 11/11～ 北区機械掘削開始 基準測量
 11/15 排水溝及び包含層掘削開始
 11/16 地区割設定
 11/17 排水溝掘削
 11/18～22 包含層掘削及び精査
 11/23 里道遺構検出漆器出土 包含層掘削
 11/24～26 建物、井戸検出実測 包含層掘削
 11/27 南区機械掘削開始
 11/28 北区全体写真撮影
 11/29 北区西部分写真撮影
 11/30～12/2 平面実測 包含層掘削
 12/2 府教委大野氏の視察教示を受ける。
 12/3～5 北区東側の調査、井戸等検出
 12/6 南区包含層掘削開始、北区部分実測
 12/7 北区東側遺構掘り、部分実測
 12/8 北区遺構掘り終了、東側全体写真撮影
 高安城を探る会北山本小PTA見学
 12/9～13 北区東側の実測
 12/14 本格的に南側の調査に移る。
 12/15 基準測量 溝、土坑検出
 12/16～18 井戸検出、溝の写真実測
 12/19～22 南区遺構掘削と西側包含層掘削
 里道の延長を確認
 12/23 プレス発表
 12/22～24 平面実測 西側包含層掘削

12/25 南区全体写真撮影、現地説明会
 12/26～12/28 井戸等部分実測、遺物取上げ
 12/29 さらに井戸検出
 12/30 遺構掘削、実測、写真
 1/6～10 器材撤収と調査地の測量



現地説明会風景

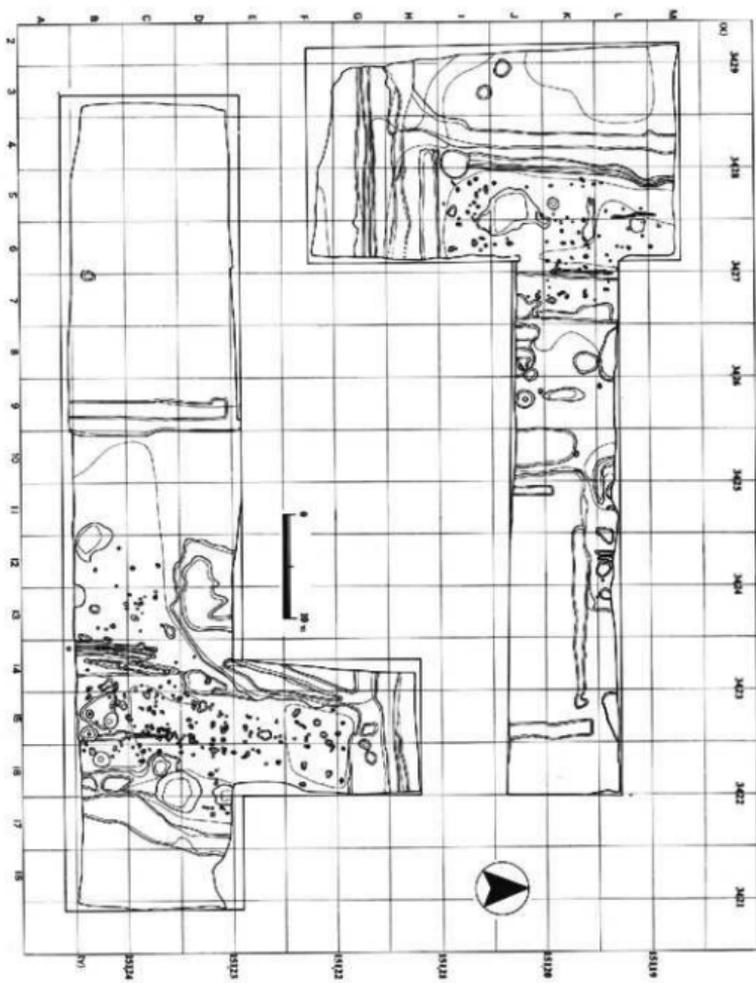


图4 调查区配置图

第3章 調査の概要

I 層位と調査方法

当遺跡の調査時の原地表は、海拔7.00m前後で、現況は水田であった。この地表より0.4~0.5mの砂まじりの水田耕土層を除去すると約1.0mの淡青灰色の砂層が厚く堆積する。この砂層には、中世の磨滅した土器が含まれ、中世以後の河川の氾濫によって堆積した土層であることがわかる。その底は青灰色粘土が堆積し、この粘土層を0.3m除去すると遺物を多量に包含する暗灰色の砂まじりの粘質土層に達する。遺構はこの層の下層である暗灰色粘質微砂及び灰色微砂層をベースとして掘り込まれており、海拔5m前後を遺構面としている。その下層は灰色粘土が厚く堆積する。

調査の方法は、建築工事により破壊が予測される校舎の建設予定部分と体育館の建設予定部分を対象として、南と北の調査区に分け、遺物包含層直上まで約1.7mを機械により掘削した後、0.3mの遺物包含層及び遺構面を対象として手掘りによる精査を実施した。

なお遺構の実測には国土座標を用いた。また遺物の取り上げには遺構番号を付けたものの他は座標X=34.300、Y=151.250を基準に5m方面の区割りを行い東西線に数字、南北線にアルファベットを用いて地区名を付して実施した。

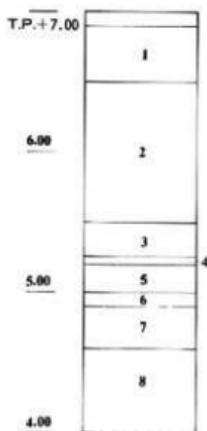
II 遺構の概要

本調査で検出した遺構は、建物跡・井戸・溝・土坑・池状遺構・道状遺構等で、北と南の各調査区でこれらの遺構によって構成される屋敷跡と思われるものをそれぞれ検出した。以下に遺構の詳細について記述する。

1. 建物遺構

SB1

北調査区西側屋敷地の中央で検出した東西2間×南北3間の建物で、東西3.6m~3.8m南北3.3~3.6mを測る。東西の柱間は約1.8m~2.0mと広く、南北の柱



1. 耕土
2. 淡青灰色砂
3. 青灰色粘土
4. 灰黄色粘質土
5. 暗灰色粘質土(包含層)
6. 暗灰色粘質微砂(遺構面)
7. 灰色微砂
8. 灰色粘土

図5 基本層序図

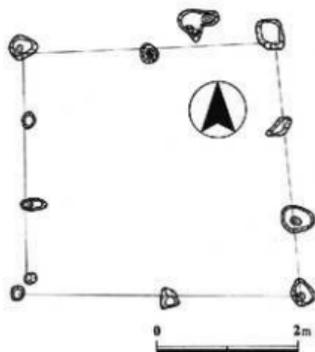


図6 SB1遺構平面図

間は1m～1.2mと狭くなっている。柱穴の掘り方は径0.2～0.4cm、深さは0.2～0.5mを測る。

SB 2

北調査区西側屋敷地の北付近で検出した東西2間×南北2間の東西方向の建物で、東西4.8m、南北3.2mを測る。東西の柱間は約2.4mと広く、南北の柱間は1.6mと狭くなっている。柱穴の掘り方は径0.2m以下で、深さは0.2～0.3mを測る。

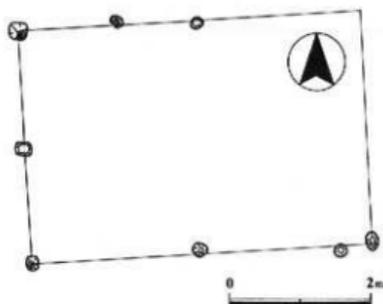


図7 SB 2遺構平面図

SB 3

南調査区東側屋敷地の北部分で検出した東西3間×南北3間～4間の南北方向の建物で、主軸はやや東に振っている。柱穴の重なりから3回以上の建て替えが考えられ、当初は総柱の建物であった可能性がある。規模は最大で東西7.7m、南北11mを測る。東西の柱間は約2.0～1.8mであるが、南北の柱間は2.5～3mと広がっている。柱穴の掘り方は径0.4m前後で、礎盤を持つものがあり、深さは0.2～0.4mを測る。

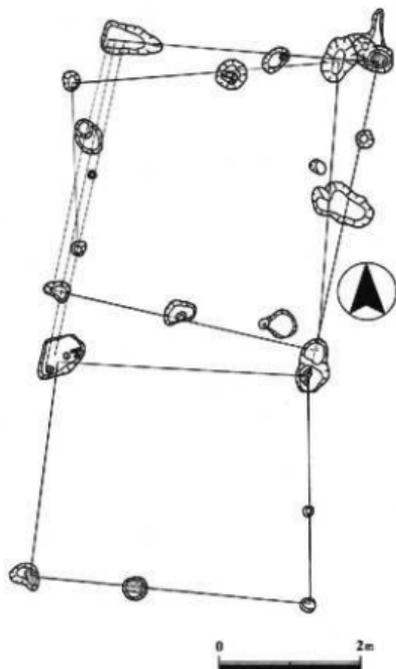


図8 SB 4遺構平面図

SB 4

南調査区東側屋敷地の南部分で検出した東西1～2間×南北2～3間の南北方向の建物で、主軸はやや東に振っている。柱穴の重なりから3回以上の建て替えが考えられる。規模は最大で東西4m、南北7.5mを測る。東西の柱間は約2.0～1.8mであるが、南北の柱間は2～3mとなっている。柱穴の掘り方は径0.2m～0.4m

前後で、深さは0.2m前後を測る。

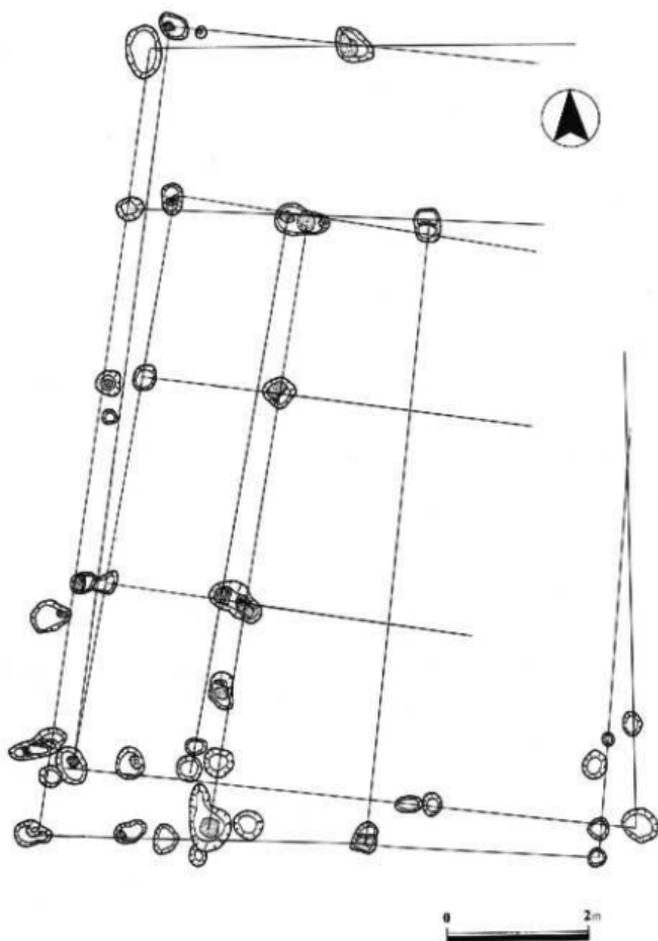


図9 SB3遺構平面図

SB5

南調査区東側屋敷地の西部分で検出した東西2間×南北2間の矩形の建物である。規模は東西5.6m、南北5.8mを測る。東西の柱間は約2.5m～3.5mであるが、南北の柱間は2.5～3mとなっている。柱穴の掘り方は径0.2m～0.4m前後で、深さは0.2m前後を測る。

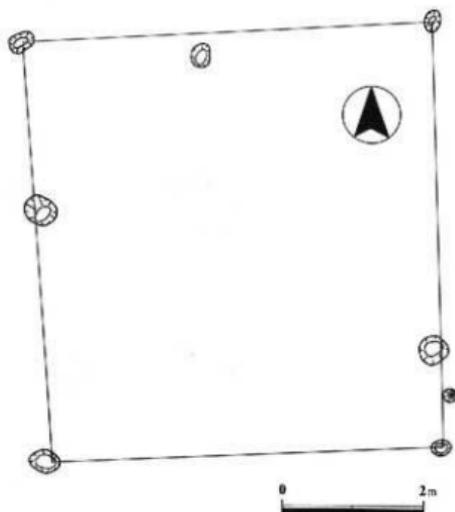
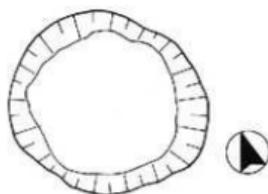


図10 SB5遺構平面図

2. 井戸遺構

SE1

北調査区西側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北1.3m東西1.4mの円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.35mを測り、逆台形の断面を呈する。埋土は灰青色のシルト～細砂である。

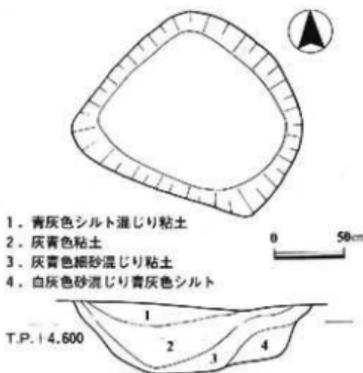


1. 灰青色粘土混じり細砂
2. 灰青色シルト
3. 灰青色粘土
4. 灰青色細砂混じりシルト
5. 白灰色細砂

灰青色粘土 0 50cm



図11 SE1遺構平面断面図



1. 青灰色シルト混じり粘土
2. 灰青色粘土
3. 灰青色細砂混じり粘土
4. 白灰色砂混じり青灰色シルト

図12 SE2遺構平面断面図

SE2

北調査区西側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北1.4m東西1.6mで、方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.47mを測り、碗状の断面形を呈する。埋土は灰青色のシルト～粘土である。

SE 3

北調査区東南側で検出した茶掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北2.9m東西2.7mで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6mを測り、皿状の断面形を呈する。遺構の埋土からは、土師器皿、刀子（388）が出土している。



図14 SE 3出土遺物実測図

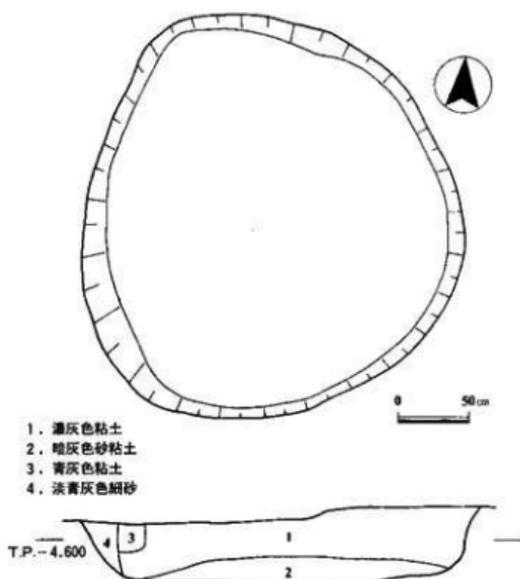


図13 SE 3遺構平面断面図

SE 4

北調査区西側中央付近で検出した茶掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北1.0m東西1.1mで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6mを測り、すり鉢状の断面形を呈する。

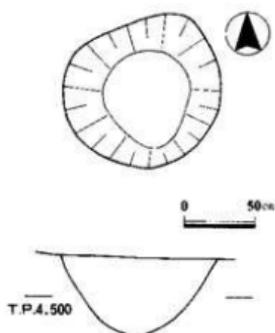
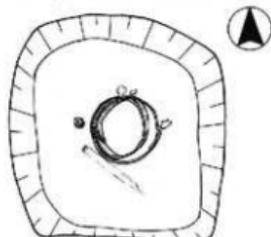


図15 SE 4遺構平面断面図

SE 5

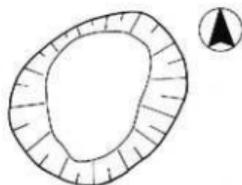
北調査区東側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北0.7m東西0.7mで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.55mを測り、U字形の断面形を呈する。遺構の埋土は、灰色～暗灰色の粘土である。



0 50cm



図17 SE 5 遺構平面断面図



0 50cm

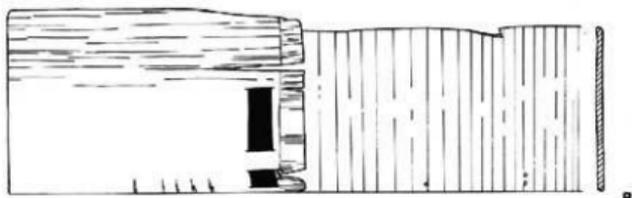


1. 灰色粘土
2. 暗灰色砂質粘土
3. 暗灰色シルト質粘土
4. 淡灰色礫砂

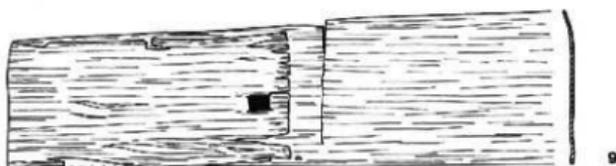
SE 6

北調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、南北1.6m東西1.5mで、方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.7mを測り、すり鉢状の断面形を呈する。掘方の中央に径50cmの曲物を重ねて井筒をつくる。遺構の埋土からは瓦器椀、瓦器皿、陶器壺、磁石が出土している。

図16 SE 5 遺構平面断面図



8



9

0 10cm

図18 SE 6 出土遺物実測図 1

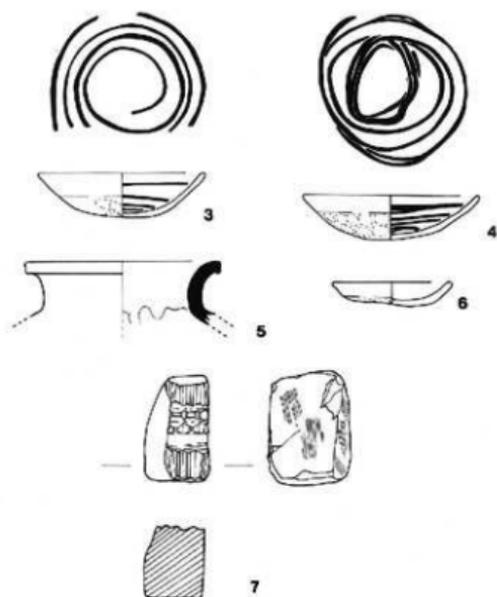


図19 SE 6 出土遺物実測図 2



SE 8

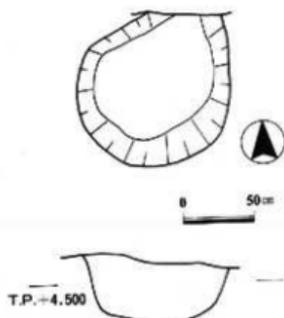


図21 SE 8 遺構平面断面図

SE 7

北調査区東側で検出した素掘りの井戸で、掘り方の大きさは、北側は調査区外に至り、東西1.1m以上の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6mを測り、逆台形の断面を呈する。遺構の埋土からは、暗灰色の砂粘土-シルト粘土が堆積している。

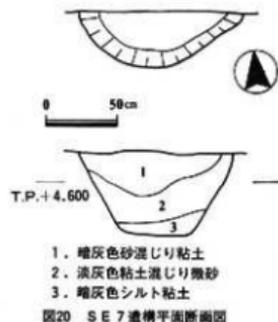


図20 SE 7 遺構平面断面図

北調査区東側で検出した素掘りの井戸で、掘り方の大きさは、南北1.1m東西1.1mで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.5mを測る。遺構の埋土からは、刀子(386)が出土している。

SE 9

北調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、東西2.0mで北は調査区外に至り、方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.65mを測る。井筒は、掘方の中央東側にあり、径30cmの曲物を2段に設置し、上に羽釜を乗せたものである。上層より下駄(378)が出土している。

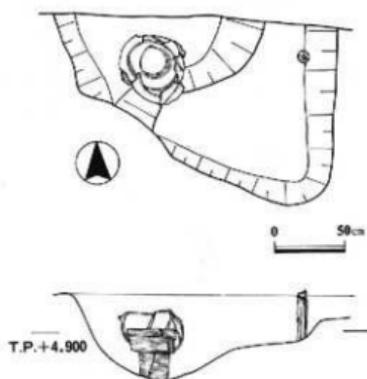


図22 SE 9 遺構平面断面図

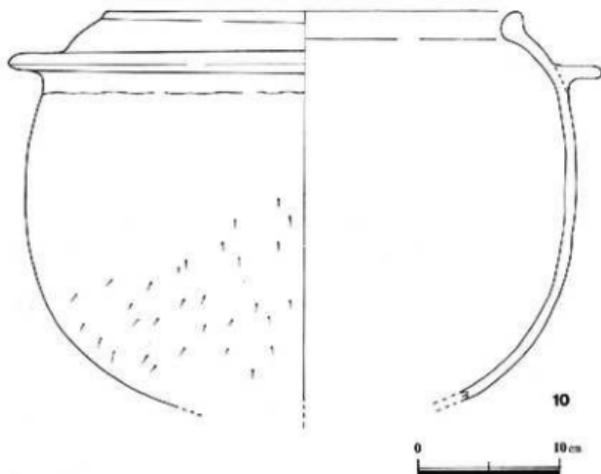
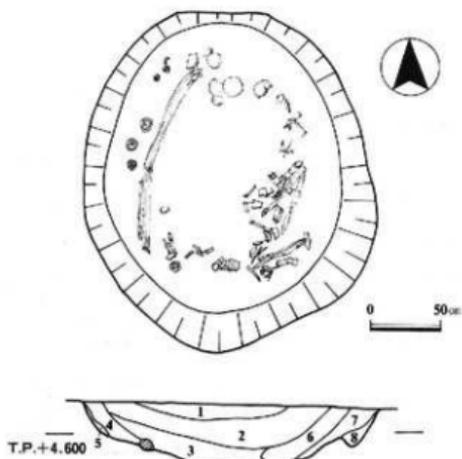


図23 SE 9 出土遺物実測図

SE 10

北調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、南北1.2m東西1.0mの円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.4mを測り、碗状の断面形を呈する。掘方内に竹を縦にさし、板材を用いた施設が存在したようである。遺構の埋土からは、瓦器碗、土師器皿、中国磁器片、砥石が出土している。



1. 青灰色砂質粘土
2. 暗青灰色砂質粘土
3. 濃灰色砂質粘土
4. 暗灰色砂質粘土
5. 綠灰色砂質粘土
6. 淡灰色微砂, 暗青灰色砂質土混じり
7. 灰色砂質土
8. 淡青灰色微砂

圖24 SE10遺構平面断面圖

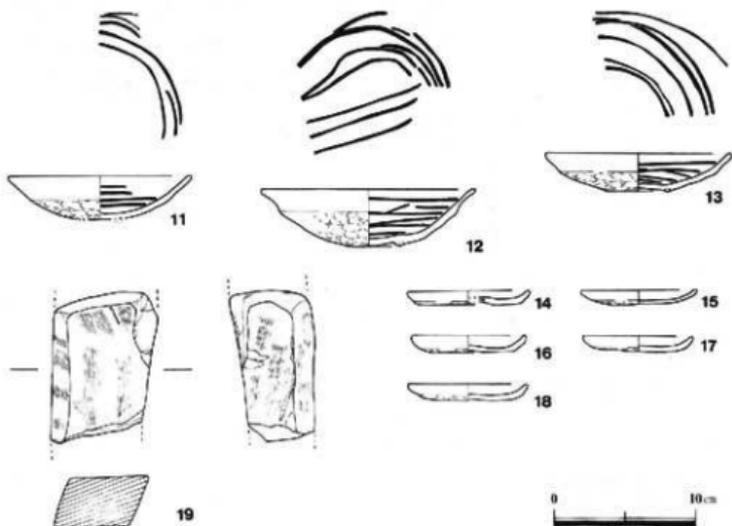


圖25 SE10出土遺物實測圖

SE11

南調査区東側で検出した素掘りの井戸で、掘り方の大きさは、南北1.8m東西1.95mで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.8mを測り、「じ」字状の断面形を呈する。遺構の埋土には暗褐色から暗灰色の粘質土が堆積し、2層には植物遺体を多量に包含している。これらの埋土からは、練り鉢、三足瓦質釜、土師器皿、砥石が出土している。

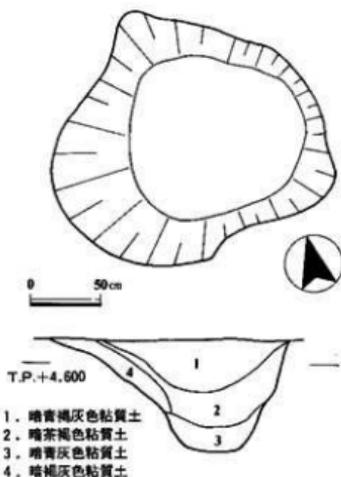


図26 SE11遺構平面断面図

SE12

南調査区東側で検出した素掘りの井戸で、掘り方の大きさは、南北1.55m東西1.5mで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.5mを測り、摺り鉢状の断面を呈する。遺構の埋土には暗褐色の砂質土が堆積しているが遺物はほとんど出土しなかった。

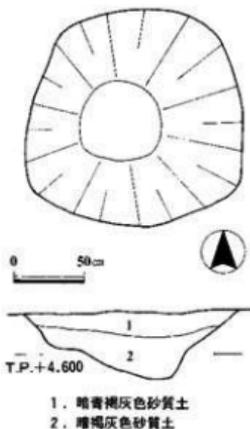


図27 SE12遺構平面断面図

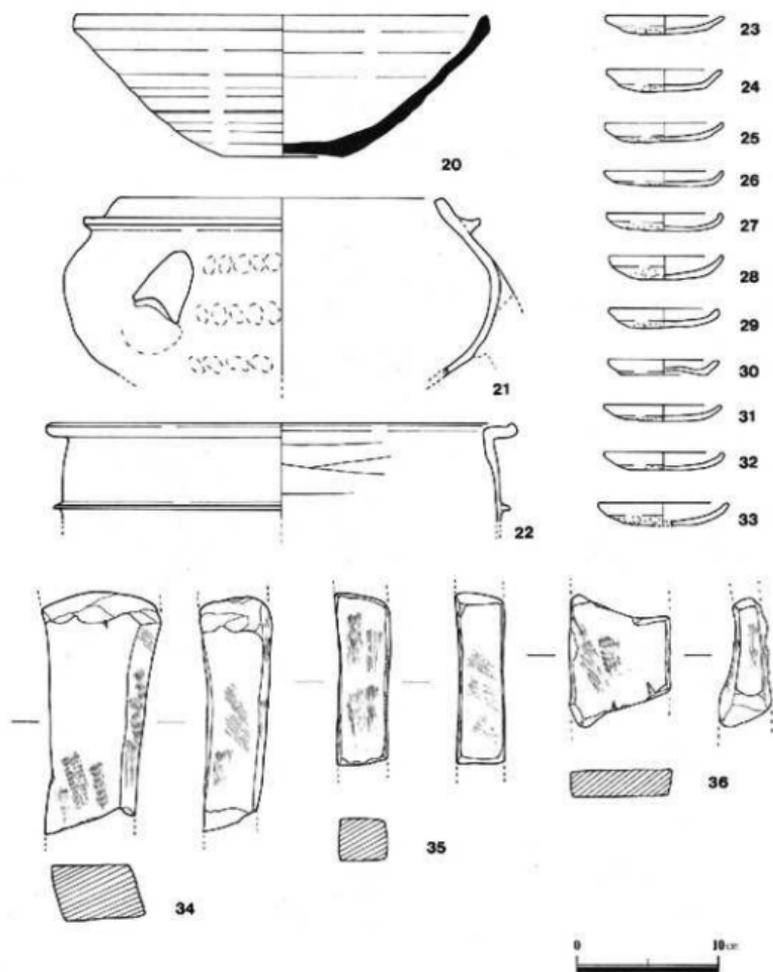


图28 SE11出土器物实例图1

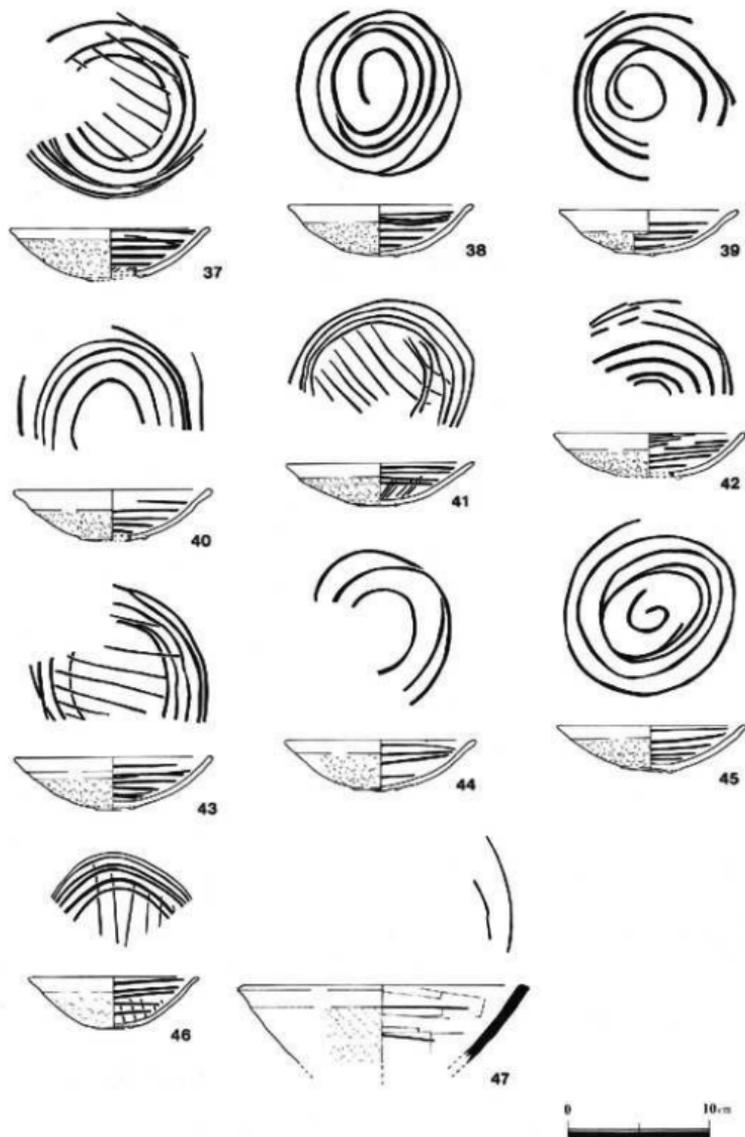


图29 SE11出土器物实例图2

SE 13

南調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、南北1.6m、東西1.5mの円形の平面形を呈する。掘方の中央検出面より0.4mのところから径0.5mの曲物の井筒が2段分残存しているのを検出した。井戸の底は、検出面からの深さ約1mを測る。井筒の埋土は砂質土、掘り方の埋土は灰色系のシルトまたは粘土で、井筒内からは、青白磁合子、瓦器、土師器皿、包丁(384)、針(380)が出土している。

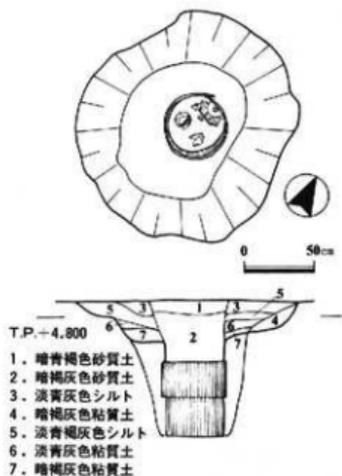


図30 SE 13遺構平面断面図

SE 14

南調査区東側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北1.2m東西1.5mの楕円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.55mを測り掘り鉢状の断面形を呈する。遺構の埋土からは出土遺物がほとんど検出できなかったが瓦器碗と土釜片が各1点出土している。

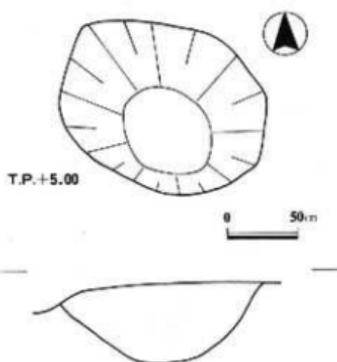


図31 SE 14遺構平面断面図

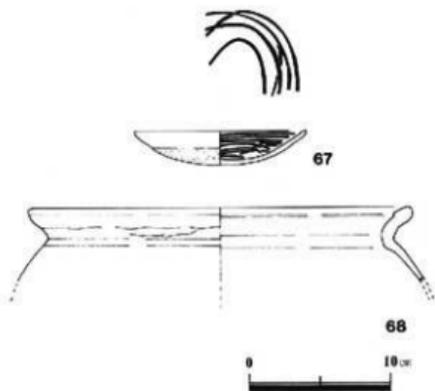


図32 SE 14出土遺物実測図

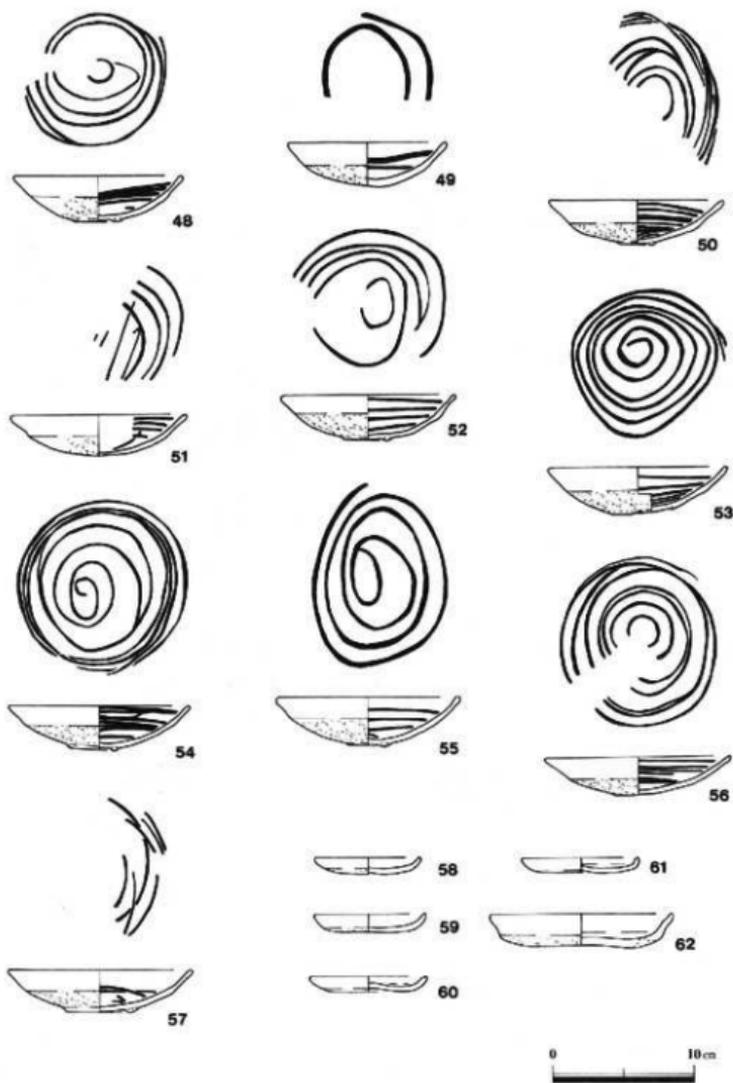
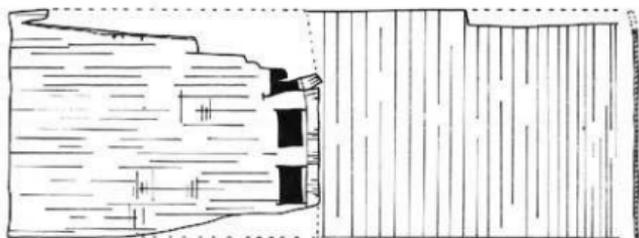


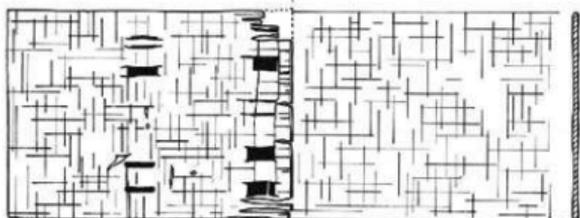
图33 SE13出土器物实测图1



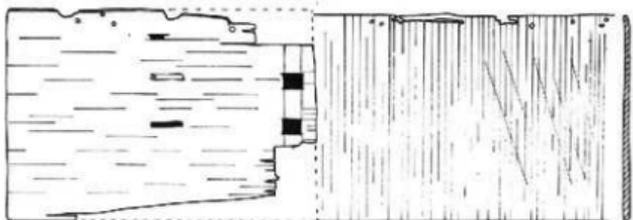
63



64



65



66



图34 SE13出土文物实测图2

S E 15

南調査区東側で検出した素掘りの井戸で、掘り方の大きさは、南北1 m、東西1.1 mの不整形形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.4 mを測る。遺構の埋土からの出土遺物はほとんど検出できなかった。

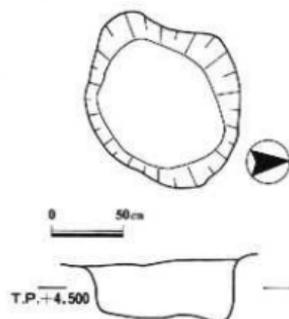


図35 S E 15遺構平面断面図

S E 16

南調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、南北1 m東西1 mの円形の平面形を呈する。検出面から深さは1.4 mを測る。掘り方の中央の検出面より0.4 m以下で径0.5 mの曲げ物の井筒を2段積んだ状態で検出した。井筒の埋土からは瓦器椀、瓦器皿、櫛(368)が出土している。また、井戸の上層には瓦器や土釜類摺鉢、砥石等が壊れた状態で集積して出土した。井戸を埋めた後に投棄したものであろう。

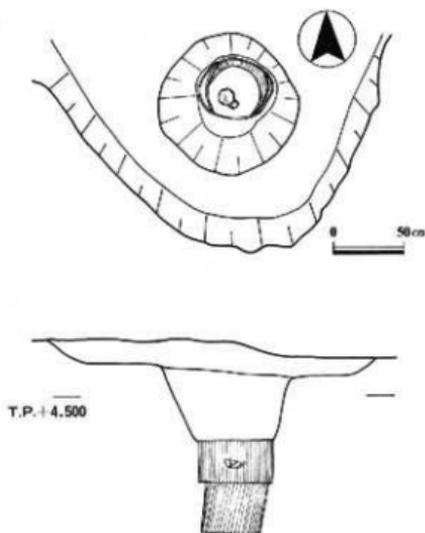


図36 S E 16遺構平面断面図

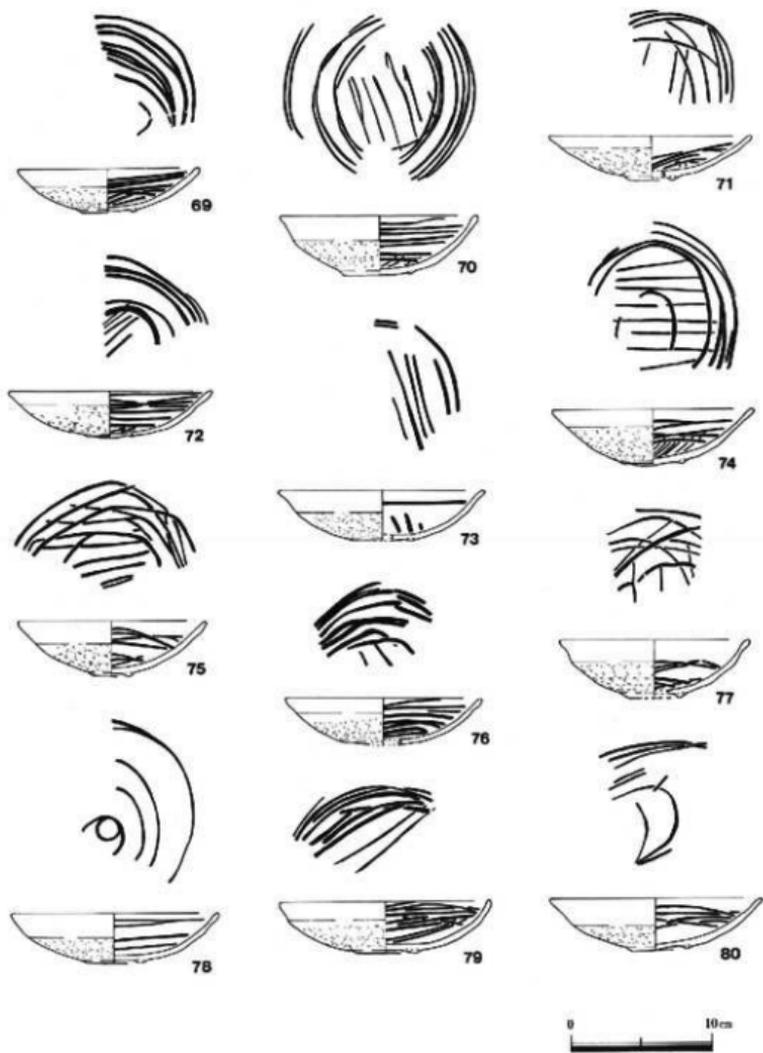


图37 SE16出土青铜器实例图1

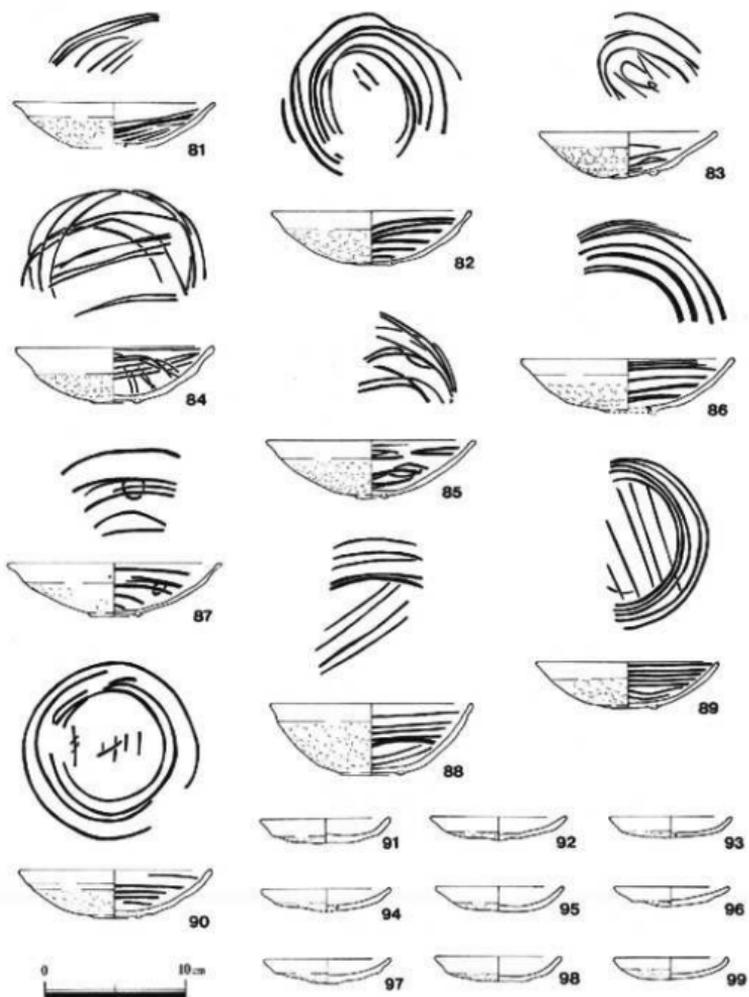


图38 SE16出土器物实测图2

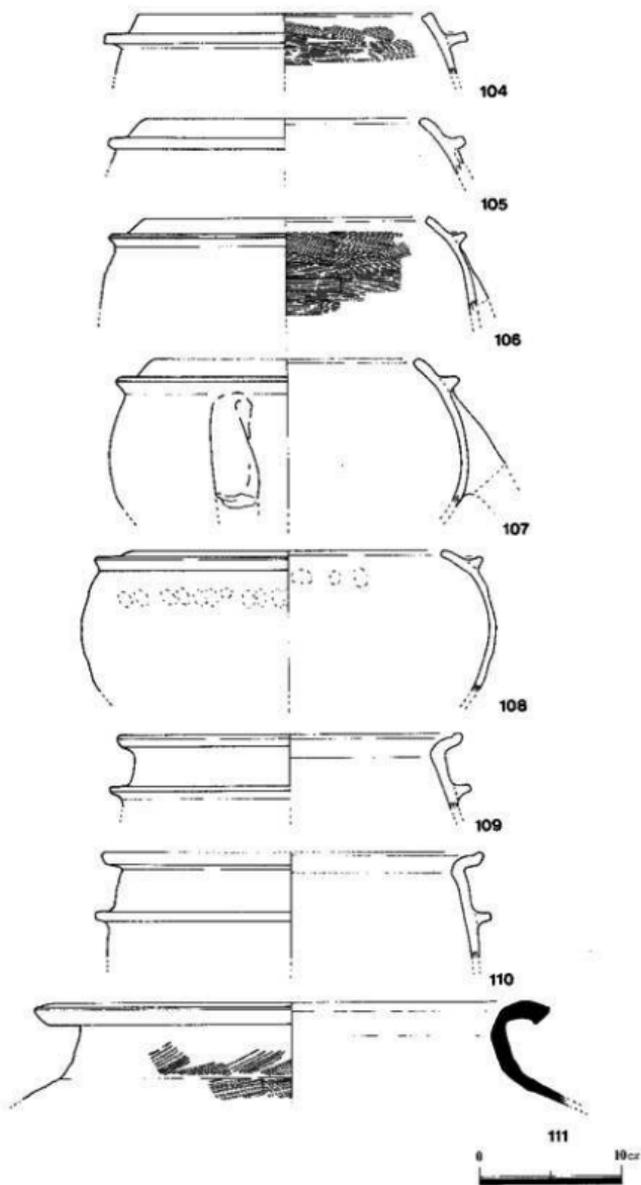


图39 S E 16出土器物实例图 3

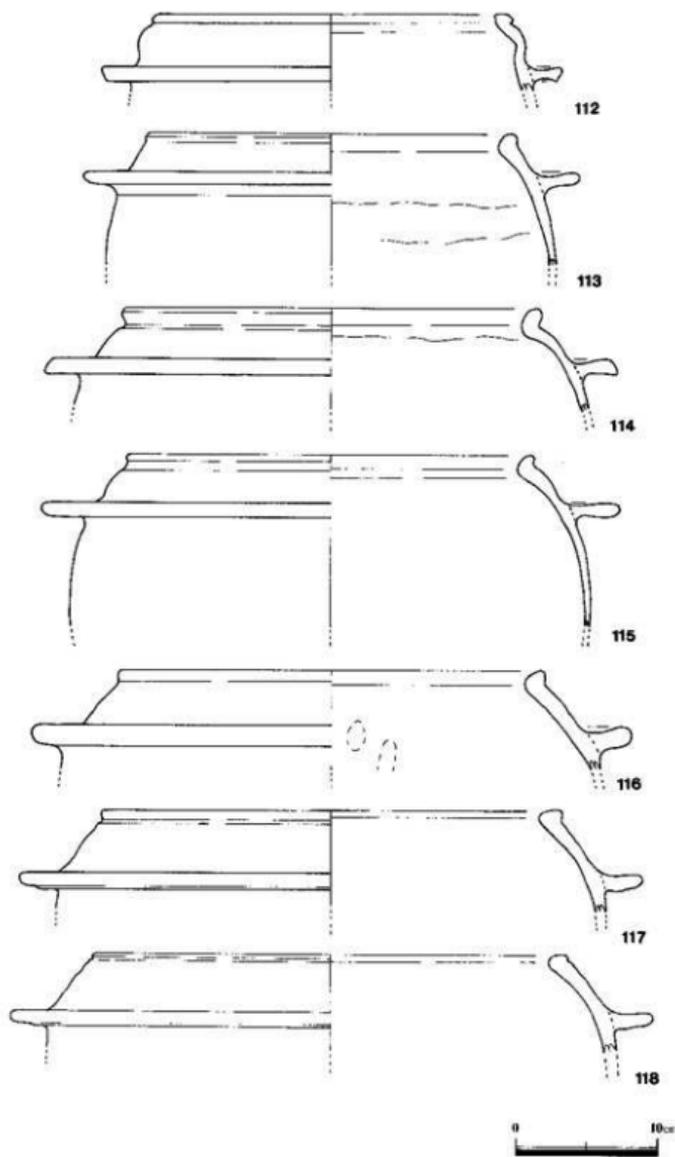


图40 S E16出土遗物实例图4

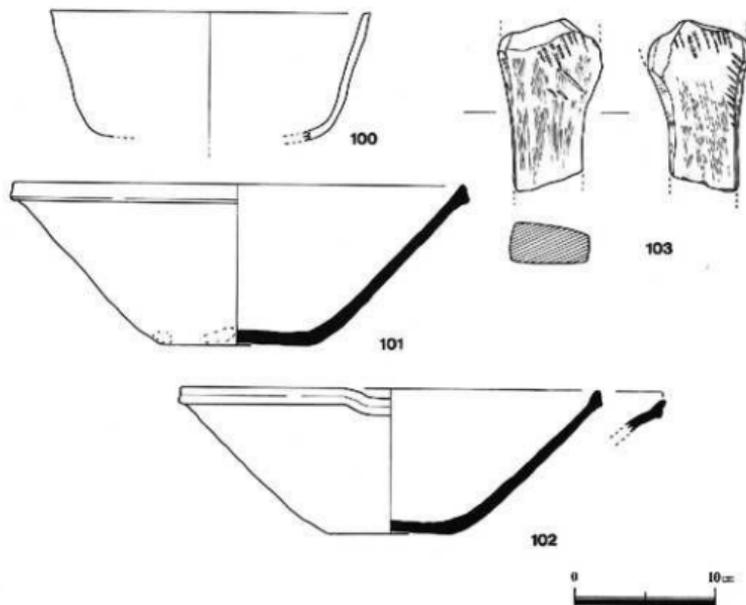


図41 SE16出土遺物実測図5

SE17

南調査区東側の南端で排水溝を掘削していた際に検出した井戸で、排水溝での掘り方の大きさは、南北0.5m、東西0.5mの平面形を呈する。掘方内には、曲物を用いた径0.4mの井筒を検出した。遺構面から推定される深さは0.6mを測る。遺構の埋土からは、瓦器碗、土師皿が出土している。

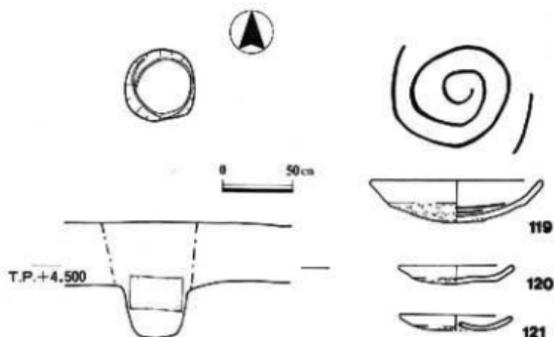


図42 SE17遺構平面断面図

図43 SE17出土遺物実測図

3. 溝状遺構

SD 1

北調査区西側の南端と北調査区東側の北端付近で検出した東西方向の溝で、里道の南側の側溝で、最大幅2mである。検出面からの深さ15cmで段を有し、さらにそこから里道に沿って0.7mの幅で掘りこまれている。最深部の深さは遺構面より0.35mを測る。遺構の埋土からは、瓦器碗、瓦皿、土師器皿、中国磁器碗、下駄(369・375)、漆器、石鍋片が出土している。

SD 2

北調査区西側の南端付近と北調査区東側の北端で検出した東西方向の溝で、里道の北側の側溝である。最大幅2mで、西端でSD 4と合流し、さらに広がっている。検出面からの深さは最深部で0.4mを測る。遺構の埋土からは、瓦器碗、土師器皿、下駄(372)、が出土している。

SD 3

北調査区西側で検出した南北方向の溝で、幅0.8m、東側の遺構面からの深さは0.2mを測る。遺構の埋土からは、棒状の木材片を検出しているが、用途は判らない。

SD 4

北調査区西側で検出したSD 3の西側を平行して走る南北方向の溝で、幅0.8m、遺構面からの深さは0.2mを測る。遺構の埋土からは、瓦器碗、土師器皿、砥石が出土している。

SD 5

北調査区東側で検出した南北方向の溝で、幅1.2m、長さ4m、検出面からの深さは0.1mを測る。出土遺物は認められない。

SD 6

北調査区中央付近で検出した南北方向の溝で、幅0.2m、検出面からの深さは0.1mを測る。SB 1の雨落ちまたは排水溝と考えられる。出土遺物は認められない。

SD 7

北調査区西側の北端付近で検出した南北方向の溝で、幅0.2m、長さ4m、検出面からの深

さは0.1mを測る。S B 3の雨落ちまたは排水溝と考えられる。出土遺物は認められない。

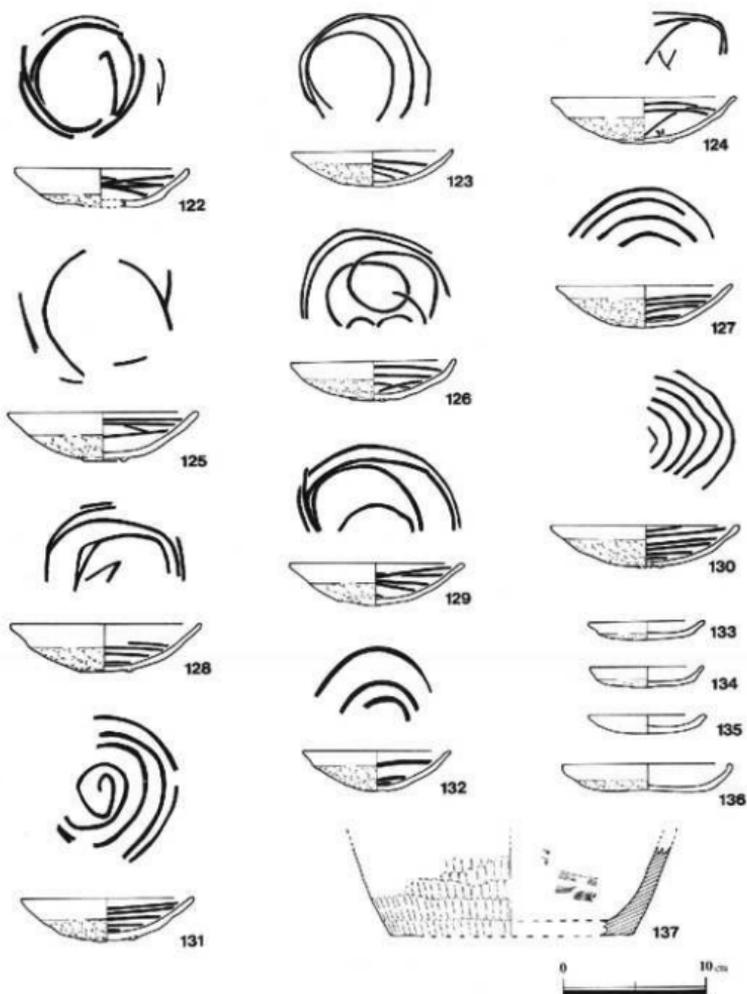


図44 S D 1 出土遺物実測図

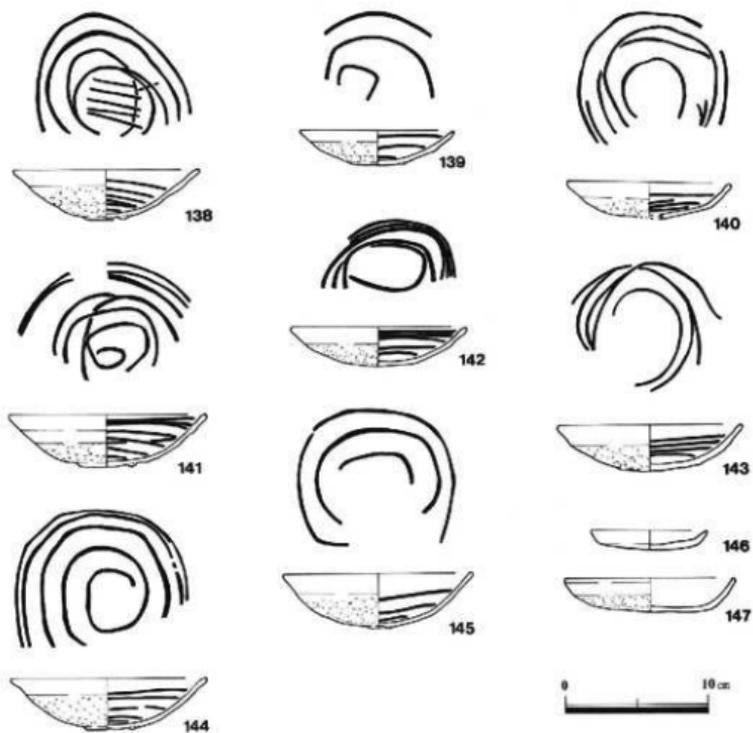


図45 SD 2出土遺物実測図

SD 8

北調査区西側の里道の北で検出した東西方向の溝で、幅1.6m、検出面からの深さは0.5mを測る。西側はコの字状に途切れる。遺構の埋土からは、土師器皿が出土している。

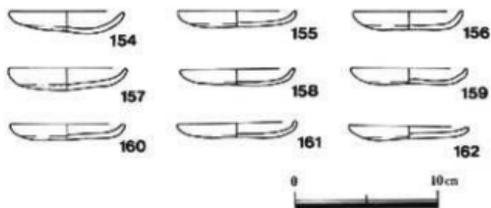


図46 SD 8出土遺物実測図

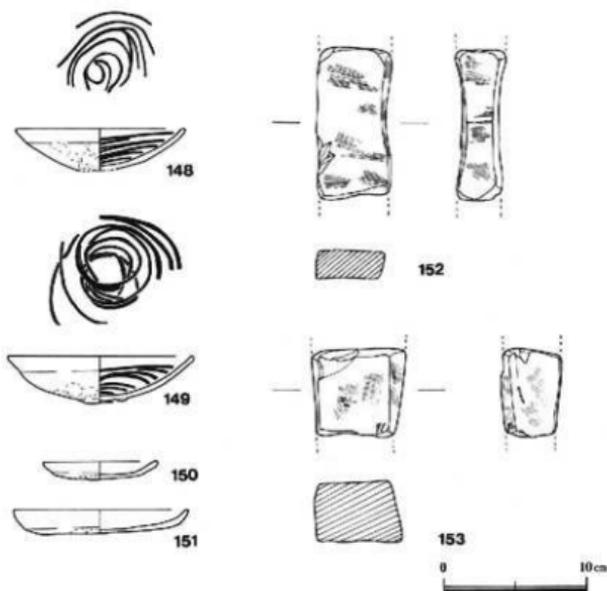


図47 SD4出土遺物実測図

SD9

北調査区東側で検出した南北方向の溝で、幅3.5m、検出面からの深さは0.2mを測る。調査区の中央でU字状に途切れ、南へ続く。遺構の埋土からは、瓦器碗、瓦器皿、土師器皿、土釜、すり鉢、下駄(374)が出土している。

SD10

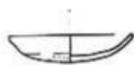
北調査区東端で検出した南北方向の溝で、幅1.4m、検出面からの深さは最深で0.2mを測る。遺構からの出土遺物は、ほとんど認められない。

SD11

北調査区中央付近で検出した南北方向の溝で、幅4.5m、検出面からの深さは最深で0.4mを測る。遺構の埋土からは、瓦器碗、土師器皿、中国磁器が出土している。

SD12

北調査区東側で検出した東西方向の溝で、幅1.4m、検出長17m、遺構面からの深さは最深で0.1mを測る。遺構からは瓦皿が1点出土した。図48 SD12出土遺物実測図



212

SD13

北調査区東側で検出した南北方向の溝で、北端は四角く終わり南は調査区外に至る。幅0.8m、遺構面からの深さは0.1m以下を測る。

SD14

南調査区東側で検出した南北方向の溝で、SE13に切られている。北端は調査区中央で終わり南は調査区外に至る。幅0.6~0.2m、遺構面からの深さは0.1m以下を測る。

SD15

南調査区東端で検出した南北方向の溝で、南側屋敷地の東端を区別している。南は調査区外から延び、調査区南よりで北北東方向に屈曲し、北は調査区外に延びる。幅3~1.8m、遺構面からの深さは0.1m~0.2mを測る。遺構内からは、瓦器椀、瓦器皿、土師器皿、土釜、すり鉢等が出土している。また、試掘時に出土した硯(図3)もこの遺構に伴うものであろう。

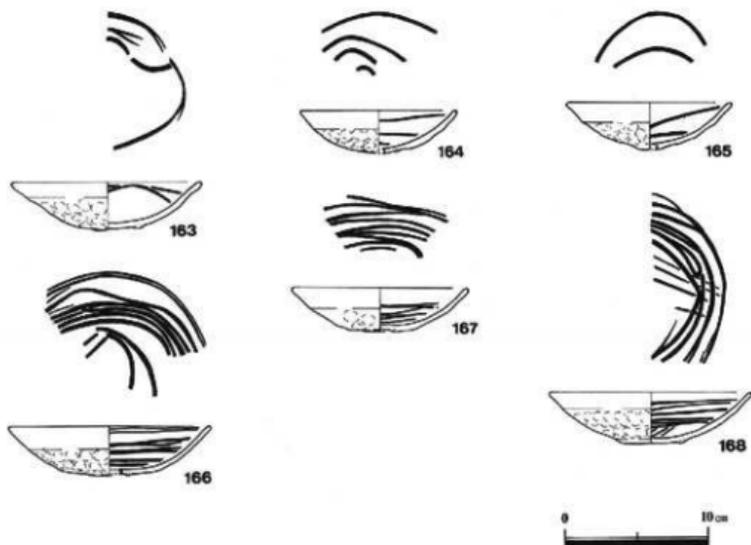


図49 SD9出土遺物実測図1

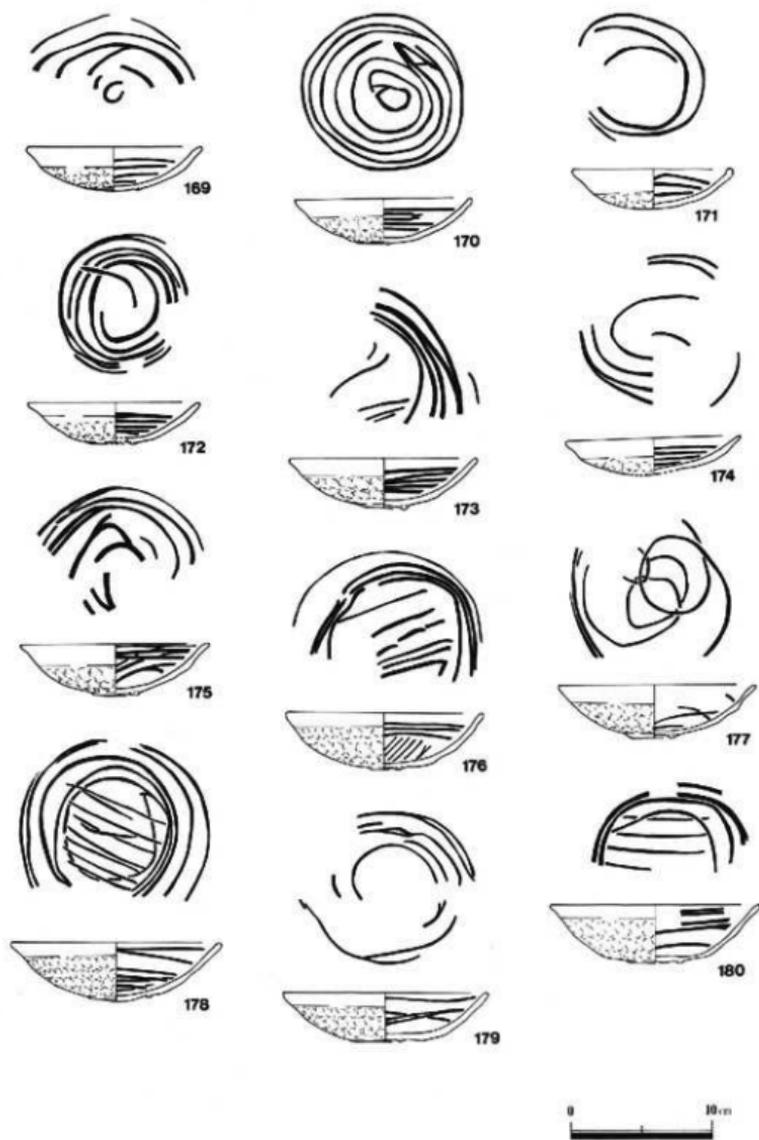


图50 SD9出土青铜器实测图2

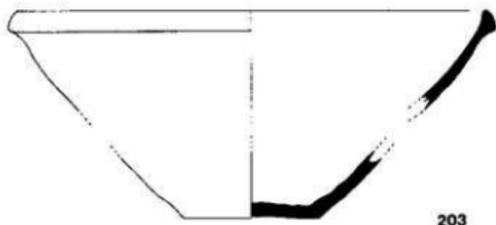
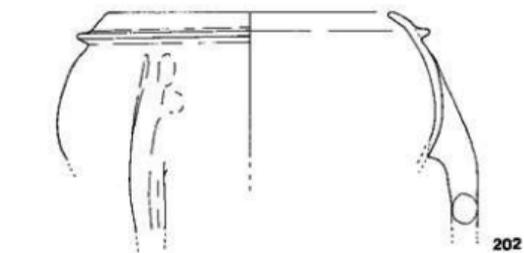
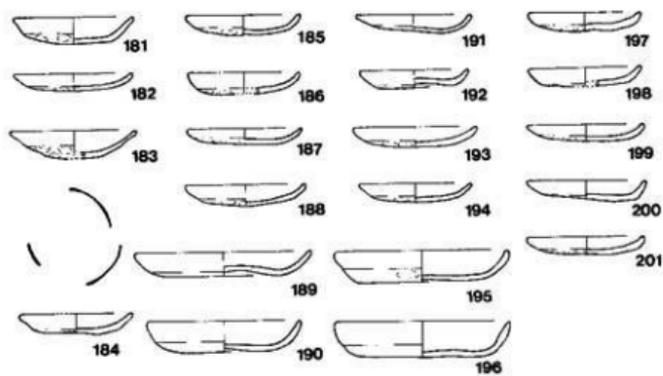


图51 S D 9 出土器物实测图 3

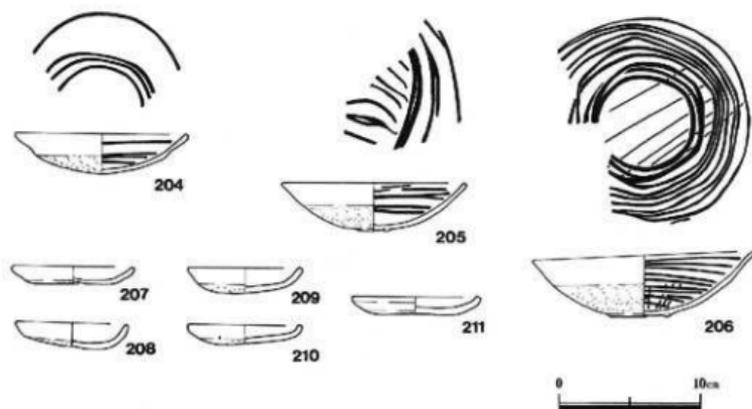


図52 S D 11出土遺物実測図

S D 16

南調査区の屋敷地の東側で検出した南北方向の溝で、幅0.6m、検出面からの深さは0.2mを測る。遺構の埋土からは、瓦器碗と下駄（376）が出土している。

S D 17

南調査区北拡張部で検出したS G 1とS D 1をつなぐ2本の南北方向の溝の東の溝で、幅1m～0.7m、検出面からの深さは0.2mを測る。

S D 18

南調査区北拡張部で検出したS G 1とS D 1をつなぐ2本の南北方向の溝の西の溝で、幅1m～0.8m、検出面からの深さは0.3mを測る。遺構の埋土からは瓦器碗、刀子（387）が出土している。

S D 19

南調査区西側で検出した南側の屋敷地の西を区画する南北方向の溝で、幅1.2m～1.8m、検出面からの深さは0.4mを測る。

S D 20

南調査区中央東よりで検出した3本の南北方向の小溝のうち東側の溝で、幅0.8m、検出面からの深さは0.1mを測る。

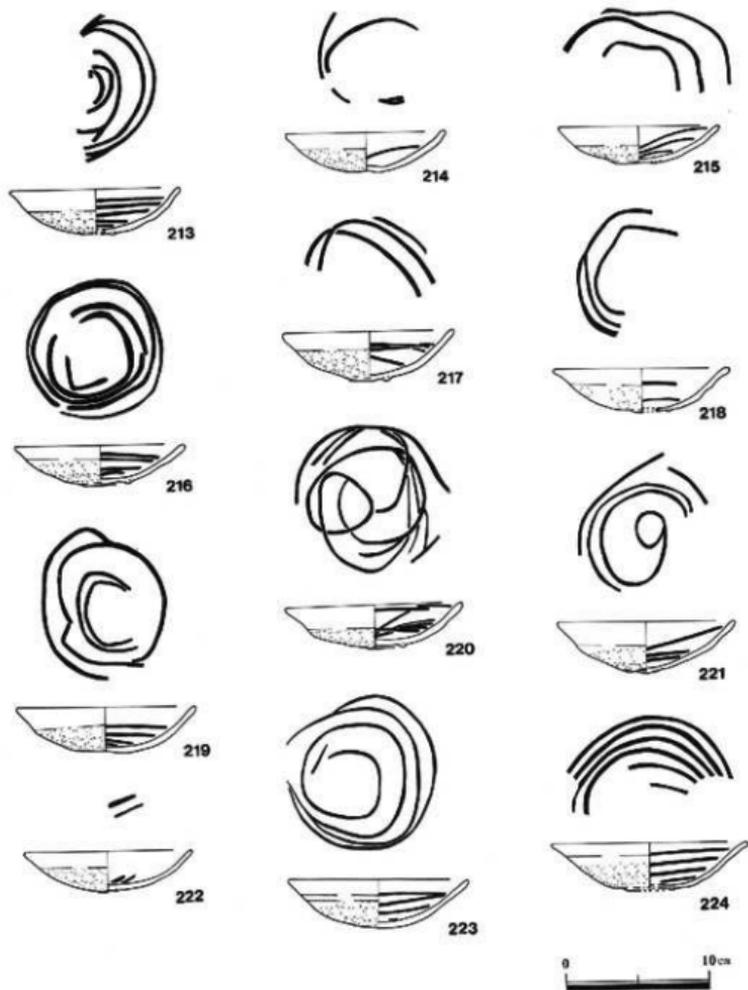


图53 S D 15出土遗物实测图 1

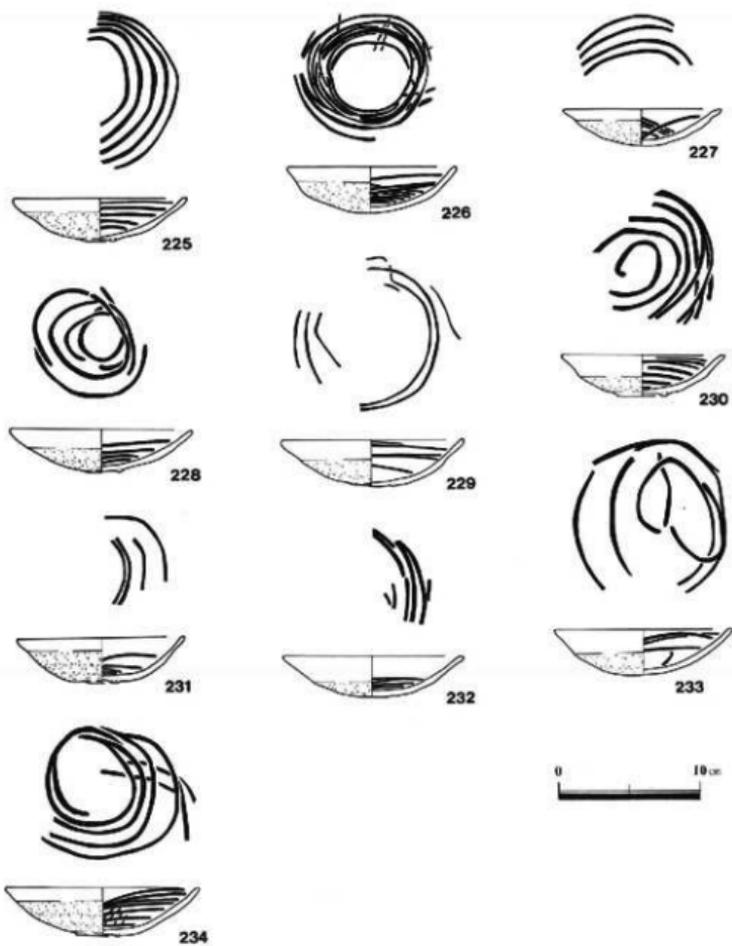


图54 S D 15出土遗物实例图 2

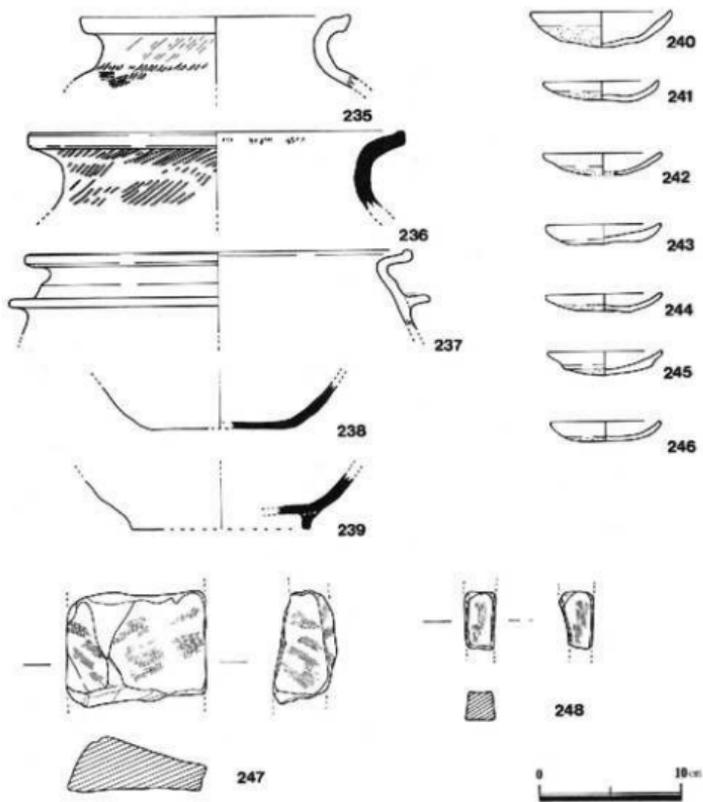


图55 S D 15出土遗物实例图 3

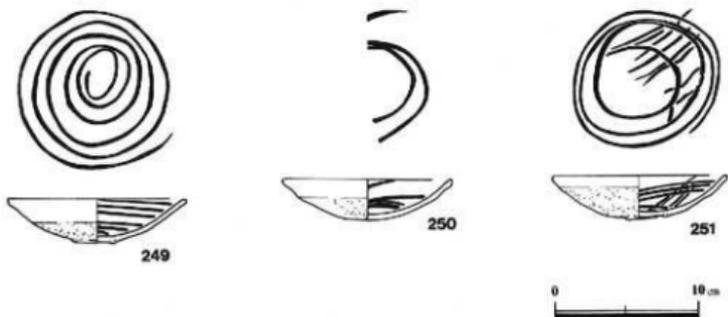


図56 S D16出土遺物実測図

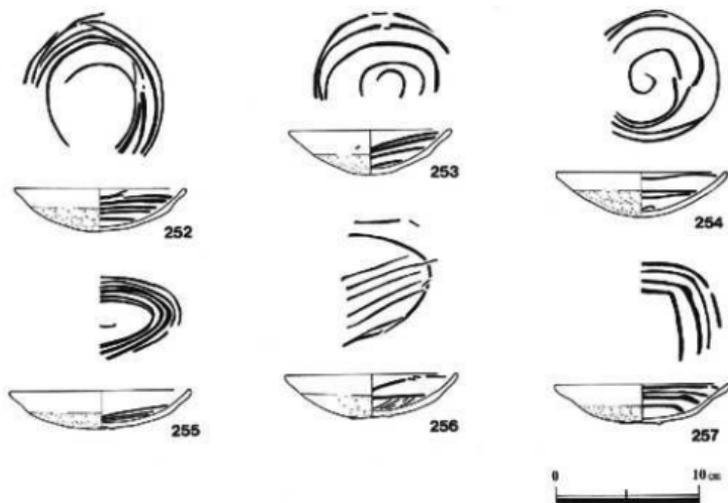


図57 S D16出土遺物実測図

S D21

南調査区中央東よりで検出した3本の南北方向の小溝のうち中央の溝で、幅0.6m、検出面からの深さは0.2mを測る。

S D22

南調査区中央東よりで検出した3本の南北方向の小溝のうち西側の溝で、幅0.4m、検出面からの深さは0.1mを測る。

4. 土坑

S K 1

北調査区西側の北よりで検出した土坑で、南北1.4m、東西1.3mの方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.2mを測る。

S K 2

北調査区西側の中央付近で検出した土坑で、南北4.4m、東西4.4mの方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6mを測る。遺構内には、長さ1.6mと1.9mの2枚の板材を杭を打って平行に立てて用いた木枠を検出した。埋土からは、瓦器碗、土釜、瓦質鉢が出土している。

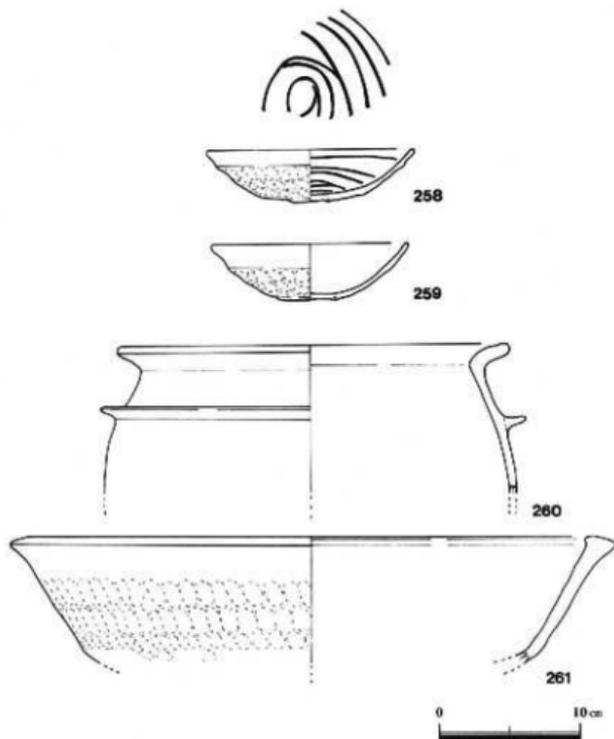


図58 S K 2出土遺物実測図

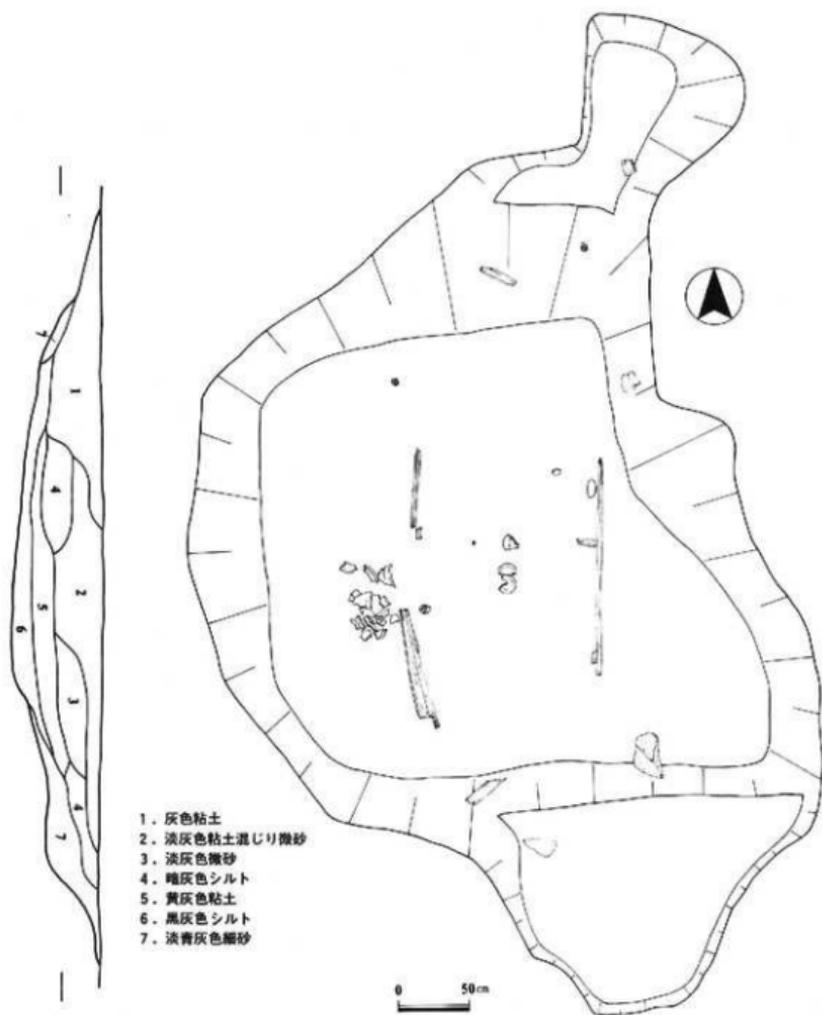


図59 SK 2 遺構平面断面図

SK 3

北調査区東側で検出した土坑で、北側は調査区外に至る。東西4.5m

以上で平面形は明確にすることができなかった。検出面からの深さは図60 SK 3出土遺物実測図



262

0.2mを測る。遺構の埋土からは、土師器の皿が出土している。

SK4

北調査区東側で検出した土坑で、南北1.3m、東西1.5mの不整形形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.4mを測る。出土遺物はほとんどない。

SK5

北調査区中央付近で検出した土坑で、南北2m以上で南側は調査区外に至る。東西は1.4mで長方形の平面形を呈するものと思われる。検出面からの深さは0.3mを測る。遺構の埋土か

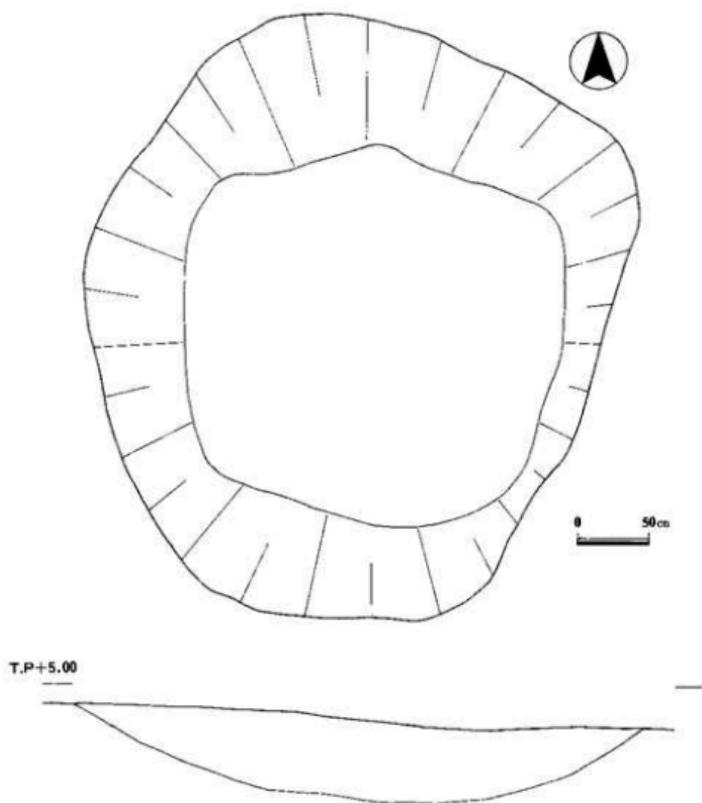


図61 SK6 遺構平面断面図

らは、板状の木材を検出している。

S K 6

南調査区東側で検出した土坑で、南北4.2m、東西3.8mの円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6mを測る。遺構の埋土からは、瓦器碗や土釜が出土している。掘り込みは大きい井戸であった可能性も考えることができる。

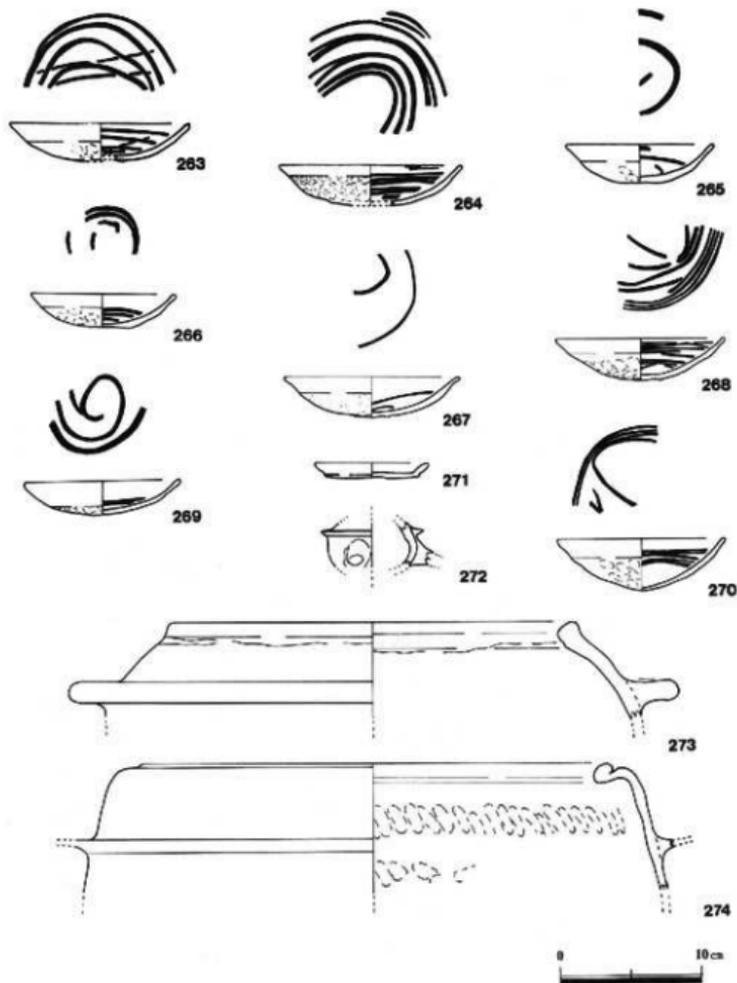
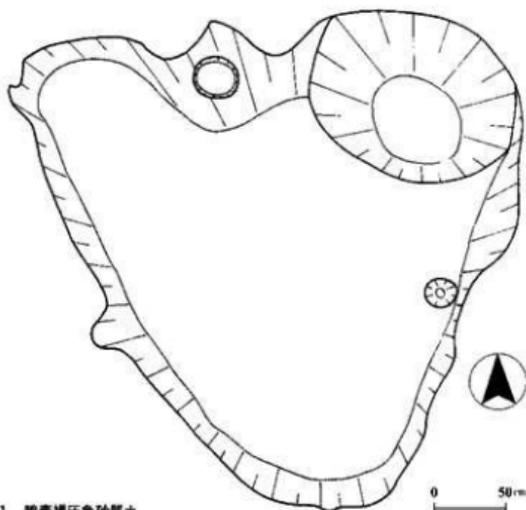


図62 SK 6出土遺物実測図

SK7

南調査区東側南端で検出した上坑で、南北3.5m、東西3.4mの三角形の平面形を呈する。

検出面からの深さは0.2mを測る。SE14に切られており、遺構の底からは、SE16を検出している。埋土からは、瓦器皿や土師器皿が出土している。



1. 暗青褐色砂質土
2. 淡青灰色細砂と黄灰色細砂の互層
3. 淡褐色砂質土

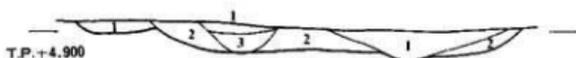


図63 SK7遺構平面断面図

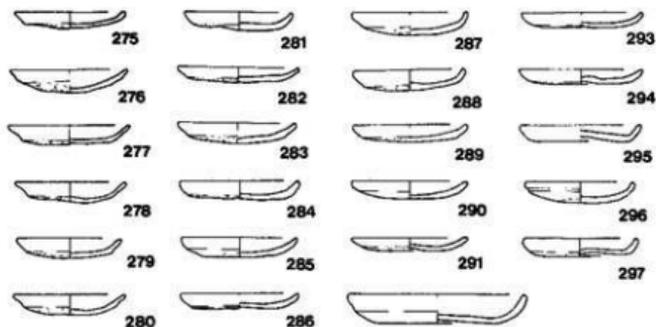


図64 SK7出土遺物実測図

SK 8

南調査区東側で検出した土坑で、北は調査区外に至る。南北1.8m以上、東西1.9mの方形に近い平面形を呈する。検出面からの深さは0.1mを測る。遺構埋土からは、土師器皿が1点出土している。



296

図65 SK 8 出土遺物実測図

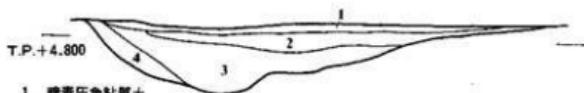
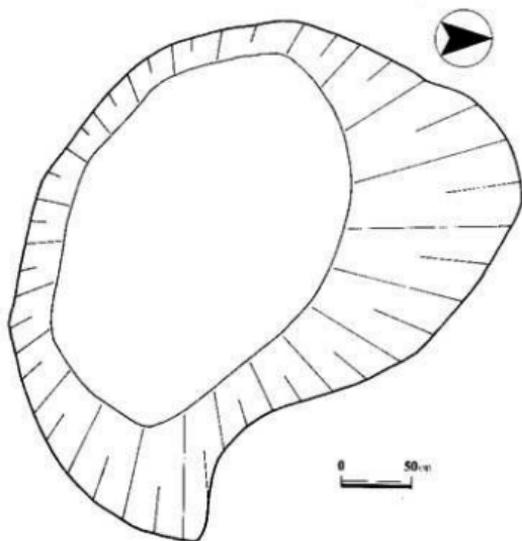
5. 池状遺構

SG 1 (SK 9)

南調査区中央北側で検出した池状の遺構で、北側は調査区外に至るが、南北6m以上、東西11.5の不整形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.4mを測る。遺構の埋土からは、瓦器碗、瓦器皿、土師器皿、中国磁器片、砥石が出土している。

SG 2 (SK 10)

南調査区中央南側で検出した池状の遺構で、南北3.6m、東西3.7mの不整形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6mを測る。遺構の埋土からは、土釜と中国磁器片が出土している。



1. 暗青灰色粘質土
2. 暗青褐色灰色粘質土
3. 暗褐色粘質土
4. 淡灰色微砂

図66 SG 2 遺構平面断面図

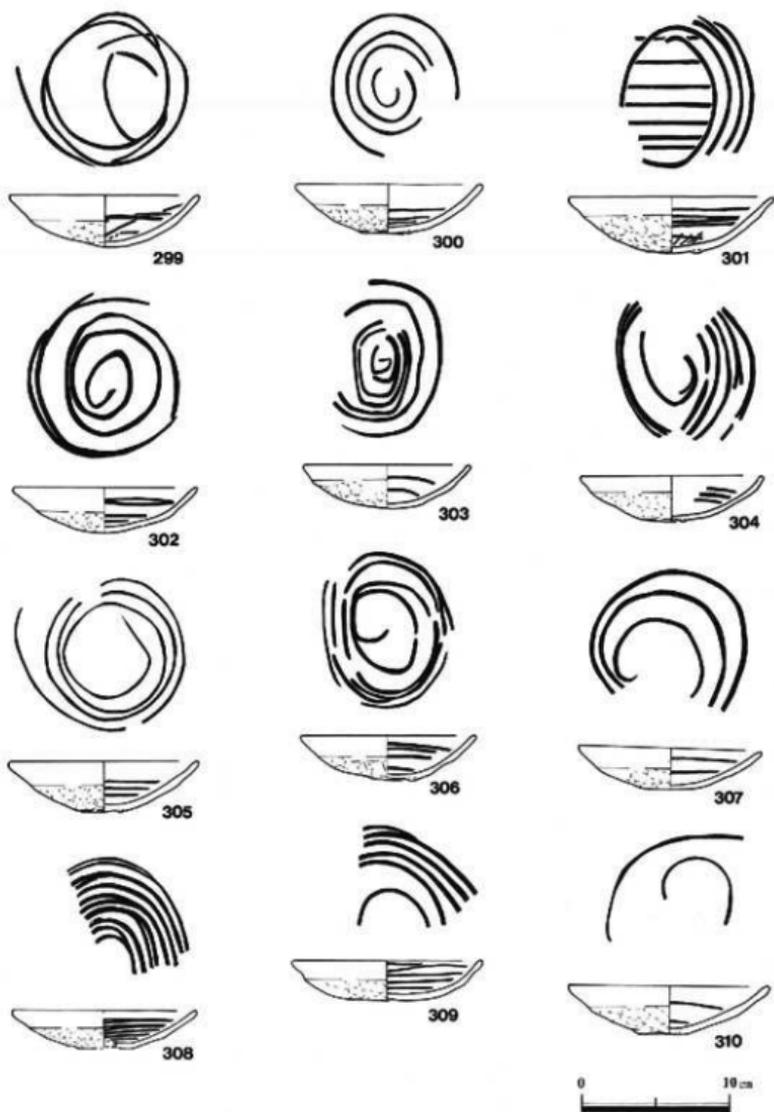


图67 SG1出土器物实测图1

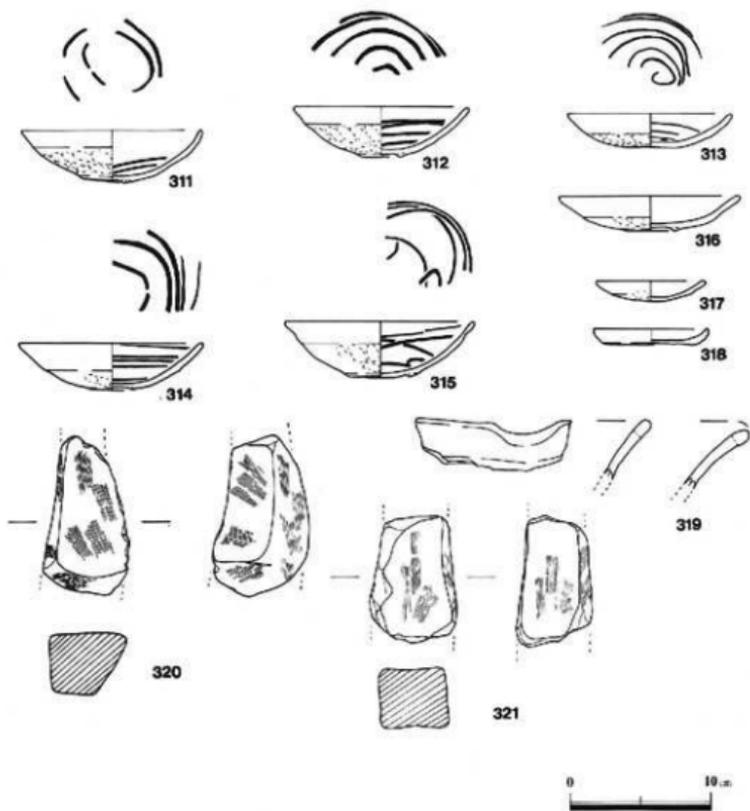


图68 SG 1 出土遗物实测图 2

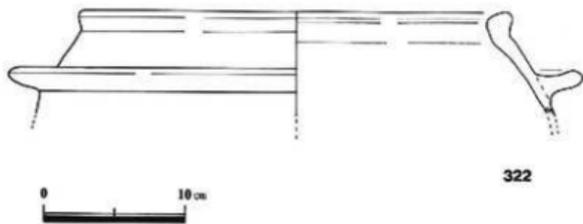


图69 SG 2 出土遗物实测图

6. 道路遺構

SR1

北調査区西側の南端と南調査区北拡張部の北端で検出したSD1とSD2によって区画された東西方向の道路で、現在の上之島町北と福方寺南の間の境界線（里界）に一致する。幅約1.8mを測る。

SR2

北調査区西側で検出したSD3とSD4によって区画された南北方向の道路で、北側屋敷地の西を区画する。幅は0.6～1.8mを測り、北側が広くなり、南は狭くなってSR3と交わる。

SR3

北調査区西側で検出したSD2とSD8によって区画された東西方向の道路で、北側屋敷地の南を区画する。幅は1.2～1.8mを測り、西はSR2と交わって終わる。

SR4

南調査区西側で検出したSD19と耕作地と考えられる西側の低地によって区画された南北方向の道路で、南側屋敷地の西を区画する。この道路の延長と思われるものが北調査区のSD9の西に沿って土の違いになってみられ、SR1と交差するものと考えられる。幅は約1.4mを測る。

34.29

34.28

34.27

34.26

34.25

34.24

34.23

151.19

151.20

151.21

151.22

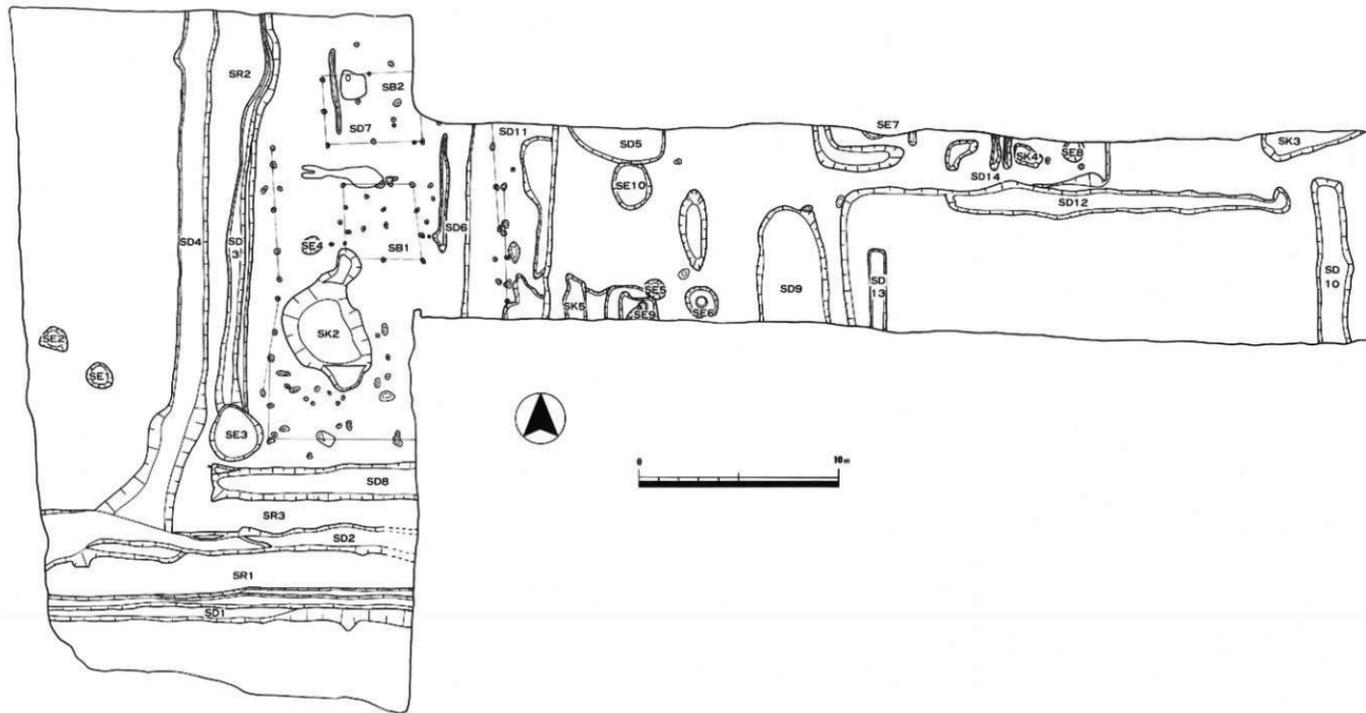


图70 北涧台区出土遺構配置図

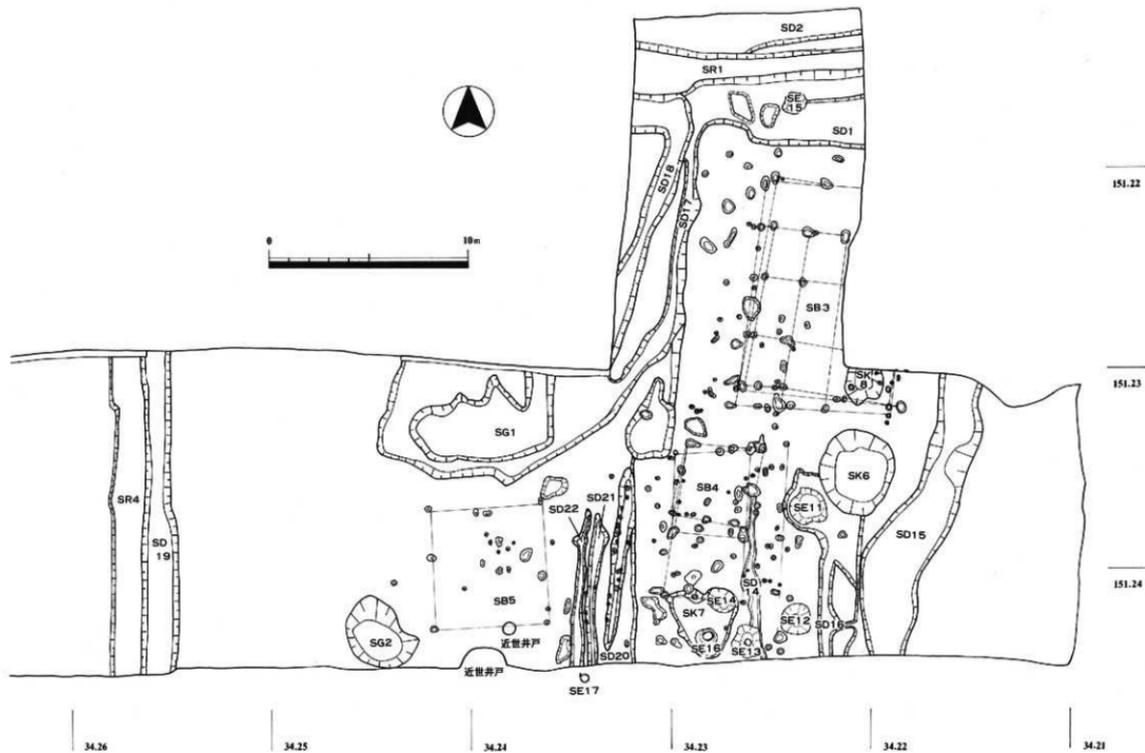


图71 南调堂区検出遺構配置图

Ⅲ 出土遺物

1 瓦器碗

当遺跡出土の瓦器碗は、その多くが終末期に近いものであり、南河内の瓦器碗の編年を照らすとⅢ-3期-Ⅳ-3期までの瓦器碗が含まれる。器高、高台、見込みの暗文によって4タイプに分類した。

瓦器碗A：器高が高く明瞭な高台が機能し、碗の形態を残すもので、外面の調整は指押さえのみで、へら磨きはすで見られない。内面の見込みには、やや密な圏線の中に平行暗文が認められる。

瓦器碗B：器高は低く高台は形式的となり退化傾向にある。外面の調整は指押さえで、内面の見込みには、粗雑な圏線の中に平行暗文が見られる。

瓦器碗C：器高は低く高台は退化傾向にある。外面の調整は指押さえで、内面の見込みには暗文がなく、渦状の圏線だけとなる。

瓦器碗D：器高は瓦器碗Cよりもさらに低平となり、口径もやや小さい。高台はさらに退化してその機能をなさず完周しないものが多い。外面の調整は指押さえで、内面の見込みは、圏線が退化して渦文になる。

瓦器碗E：器高は低く高台は消滅し、碗の形態をなさない。外面の調整は指押さえで、内面の見込みにはさらに退化した渦文が見られる。

これらは、形式的にA→B→C→D→Eの変遷が考えられるが、当遺跡の遺構での出土状況から共伴例を検討してみると、SE16の井筒内出土のもの(88~90)は、A類(88)とB類(89、90)だけであり、最上層で検出した井戸廃絶後の土器集積(69~87)にはA類B類の他、C類(69、80、85、87)が含まれている。また、SE11はB類(37、41、43、46)とC類(38、40、44)D類(39、42、45)が共伴する。さらにSE16の近接位置に掘削されたと考えられるSE13にはD類(48、50、52、53、54、55)とE類(49、51、56)が共伴する。SE6はE類(3、4)のみである。これに基づいて時期的な遺構の変遷を考えると、SE16井筒内→SE16上層→SE11→SE13→SE6の変遷が瓦器の形態変化から伺うことができる。以上のことからみるとSK6はD類(263、267、268)とE類(265、266、269、270)が主体となって共伴することからSE13に並行すると考えられる。他の溝や土坑などの遺構資料はI型式以上にまたがる資料が多く、時期幅があるものと思われるが、層位的な取り上げを行わなかった為に、時期区分を明確にすることができなかった。また、遺跡の廃絶時期に近い為か、総対的にD類、E類に属する瓦器が多く、A類は極めて少ない。

表 1 瓦器碗形式分類表

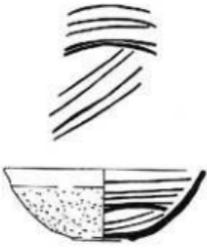
A		D	
B		E	
C			

表2 主要遺構出土瓦器碗形式組成表 (單位%)

SE16	A 9.1	B 63.6		C 27.3	
SE11	B 40		C 30	D 30	
SE13	D 70			E 30	
SK6	D 37.5		E 62.5		
SD1	B 10	C 20	D 30	E 40	
SD2	B 12.5	C 37.5	D 25	E 25	
SD9	A 17.6	B 17.6	C 17.6	D 41.3	E 5.9
SD15	B 4.5	C 4.5	D 63.6	E 27.3	
SG1	B 5.6	C 5.6	D 55.5	E 33.3	
遺構総合	A 4.7	B 19.6	C 14.2	D 37.2	E 24.3

2. 瓦器皿

径8cm～9cmの小皿である。底部は指押さえで口縁部を強く撫でる。見込みの暗文はなく、圈線もSD9の一例(184)を除いて認められない。SE16(91-98)、SD9(182-184)、SK7(275-280)からは、比較的多くの瓦器皿が出土している。

3. 上師器皿

径10cm～12cmの大型の皿と8cm前後の小皿がある。調整は外面底部に指押さえがみられ、口縁と内面はていねいに撫でている。口縁部は湾曲して立上がり、まるくおさめるものが多い。また、底部は平たく薄いものが多いが、底部中央が盛り上がりがみになるものがSE10(14, 16)、SE11(30)、SE13(58, 60, 61)、SD9(192, 189)、SD11(207)、SD15(244)、SK7(291, 294, 295, 297)等の各遺構で若干みられる。

4. 羽釜

羽釜は、土釜と瓦質の三足釜があり、3タイプに分類した。

羽釜A：「く」の字に外反する口縁部をもつもので、鐙付臺の形状を残す古い形態を示す(22, 68, 109, 110, 237, 260)。

羽釜B：口縁端部が肥厚し玉縁状をなすもので、内傾する口縁をもつもの(10, 113, 115, 116, 117, 273, 322)と内湾する口縁をもつもの(112, 114, 274)がある。

羽釜C：瓦質の三足釜で口縁は内傾し、端部は面を有する。器高の低い扁平な体部をもつ(21, 104, 105, 107, 108, 202)。SK6からは、ミニチュアの製品(272)が出土している。

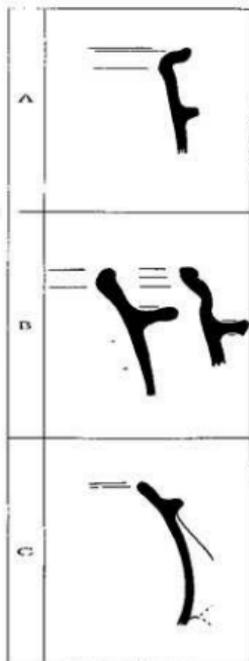


表3 羽釜の形式分類表

5. 東播系須恵器

兵庫県神戸市の神出、魚住古窯跡群で焼成されたもので、片口鉢、壺、甕がみられる。

片口鉢：口縁部は内湾きみに立ち上がり、端部は玉縁状をなす。底部は平たく周縁は凹みをもつ。SE11、SD9の例(20, 203)では、端面が丸みをもち、稜が判然としないがSE16(101, 102)の例は他遺構出土例に比し口縁がやや直線的で端面の稜が目立つ。またSK2には、非東播系の瓦質に近い焼成の鉢(261)が出土している。

壺：SE6例(506)のみで、口縁部は外反した後垂直な端面をもっておわる。

甕：SE16とSD15に見られる(111, 235, 236)。体部より叩き出した口縁部は大きく外反し、外面に調整痕を残す。端部は面をもつ。

6. 中国磁器

当遺跡出土の中国磁器には、古いもので12～14世紀頃の時期に比定できるものが認められる。

青白磁：343は反りをもつ青白磁の蓋であり、外面には型造りの花文の浮文がある。淡青色釉は薄く、身受部は露胎である。344は青白磁小壺である。体部外面に蓮弁を削り出し、その上部には列点文を配している。薄めに施釉され、口縁部は露胎である。343の蓋と組み合うものと思われる。345は青白磁の合子である。型造りにより蓮華文を浮き出す。光沢のない淡青色釉は薄く、口縁部は露胎である。

青磁：346は、外面に薄くつやのない淡灰緑色の釉をほどこされた壺で、肩に2条の沈線を入れた横形の耳を付す。破片のため、耳の数は正確にはわからないが四耳壺であろうと思われる。324～331, 334, 335, 342, 347～351, 353～356, 358, 359は、いずれも龍泉窯系青磁碗である。内外面とも無文のもの(329～331, 334, 347, 349, 351)、内面に櫛状のもので花文様を施しているもの(353)、内面を2本の沈線によって分割し、その中に飛雲文を施すもの(342)、外面に蓮弁を削り出すもの(328, 348, 350, 355, 356, 358, 359)、見込みに花文様をスタンプするもの(324, 327)「福」字をスタンプするもの(325, 326)、外面の蓮弁の上に縦櫛目を入れ、さらに内面に花文様を施すもの(354)などが見られる。淡青色または淡緑色を呈する釉が施され、高台部は露胎である。323, 339, 340は同安窯系青磁皿である。内外面無文のもの(339, 340)と内面にいわゆる猫掻き目を有するもの(323)がある。いずれも外面体部下半と底部には施釉されていない。

白磁：332, 333, 336, 341, 351, 357は白磁碗、337, 338は白磁皿である。やや淡青色を帯びた乳白色の釉調のもの(336)、黄色みを帯びた白色の釉を施すもの(332, 333)、そ

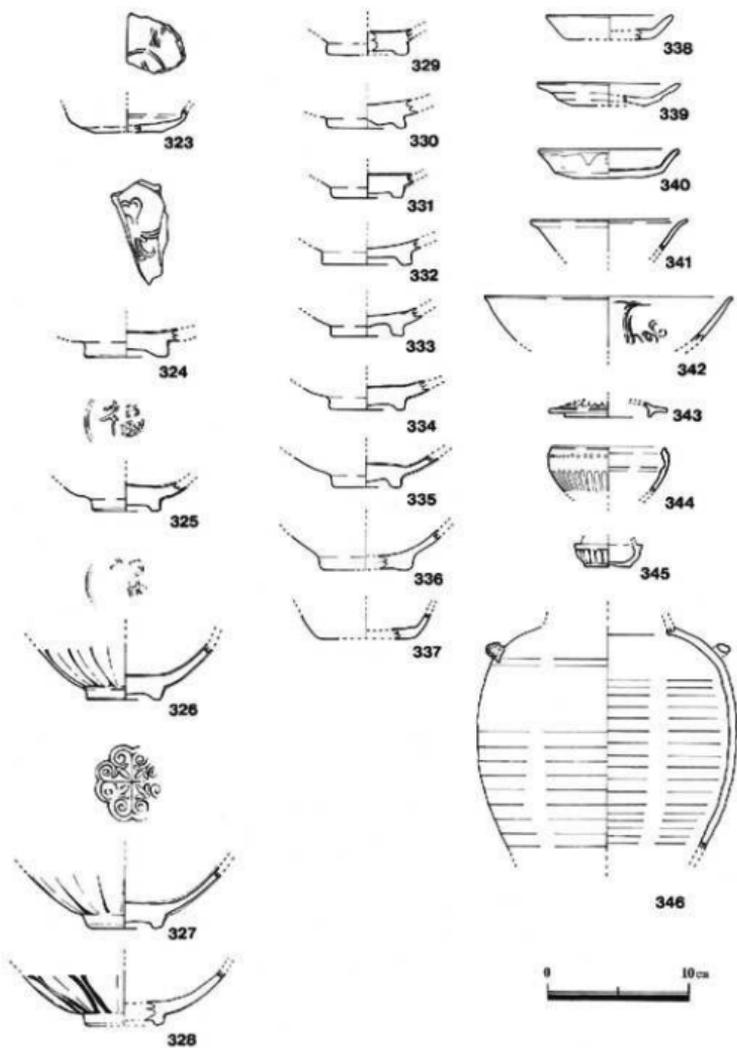


图72 中国磁器美测图1

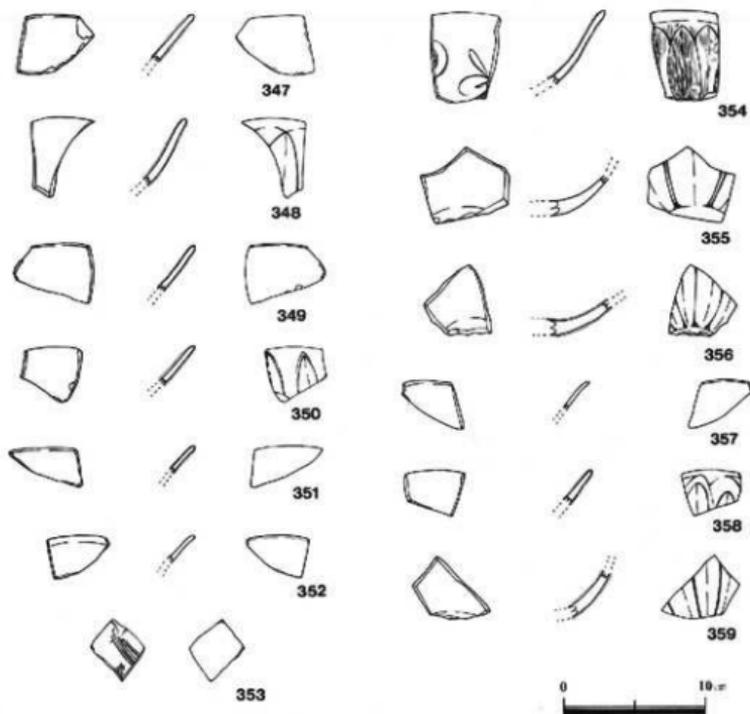


图73 中国磁器実測図2

して14世紀の白磁の特徴である口縁部を露胎とする「口禿」のもの(338, 341, 351, 357)がある。また皿は、底部全体まで軸が施されている。

以上の磁器のうち白磁碗、皿の多くと青白磁の合子(345)壺(344)蓋(343)および薄めに施軸されている青磁碗(330, 342, 353, 355)皿(323, 339)は古相を呈し、12~13世紀頃の時期のものと思われる。

7. 木製品

木製品は主として溝から出土しているものが多く、井戸と包含層からの出土品もある。下駄、漆器椀、木釜、紡錘車、櫛、用途不明木製品がある。

下駄：台木に鼻緒の穴を3孔穿つもので、鼻緒の先の穴が中央にあるのが特徴で、左右の区別はない。歯は2枚付し、一木より削り出すもの、差し込み式になっているもの、木釘により接合するものがある。台木の長さが20～22cm前後で幅10cmの大型のもの、長さ18cm以下で幅8cmの中型のもの、長さ16cm以下で幅7cm以下の小型のものがある。高さは、残存の良いもので、それぞれ3.5cm、2.5cm、2.0cmとなる。(369～378)

漆椀：黒漆の下地に朱漆で文様を描いたもので、三弁の花文を内向きに3枚合せて構成した丸文を配するもの。雷文を施すもの。草花を表すと思われるものがある(360～365)。

木錘：断面は円形を呈し、中央がくびれ、両端へ逆円錐状に広がる。むしろ編み具と考えら

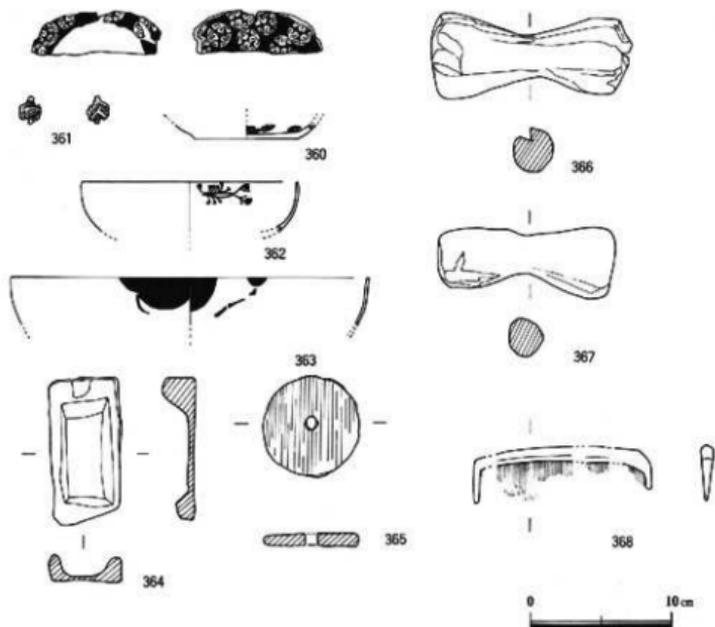
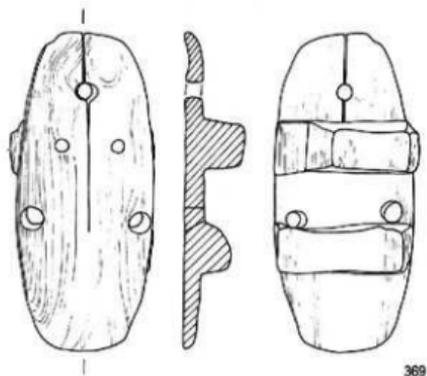
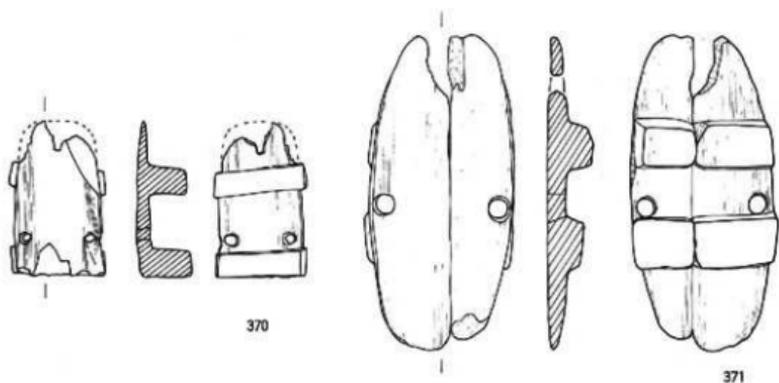


図74 木製品実測図1

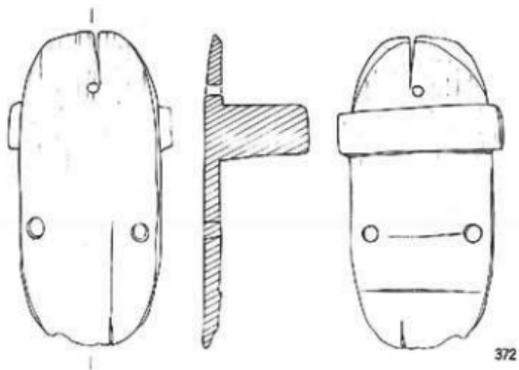


369



370

371



372

图75 木制品实例图2

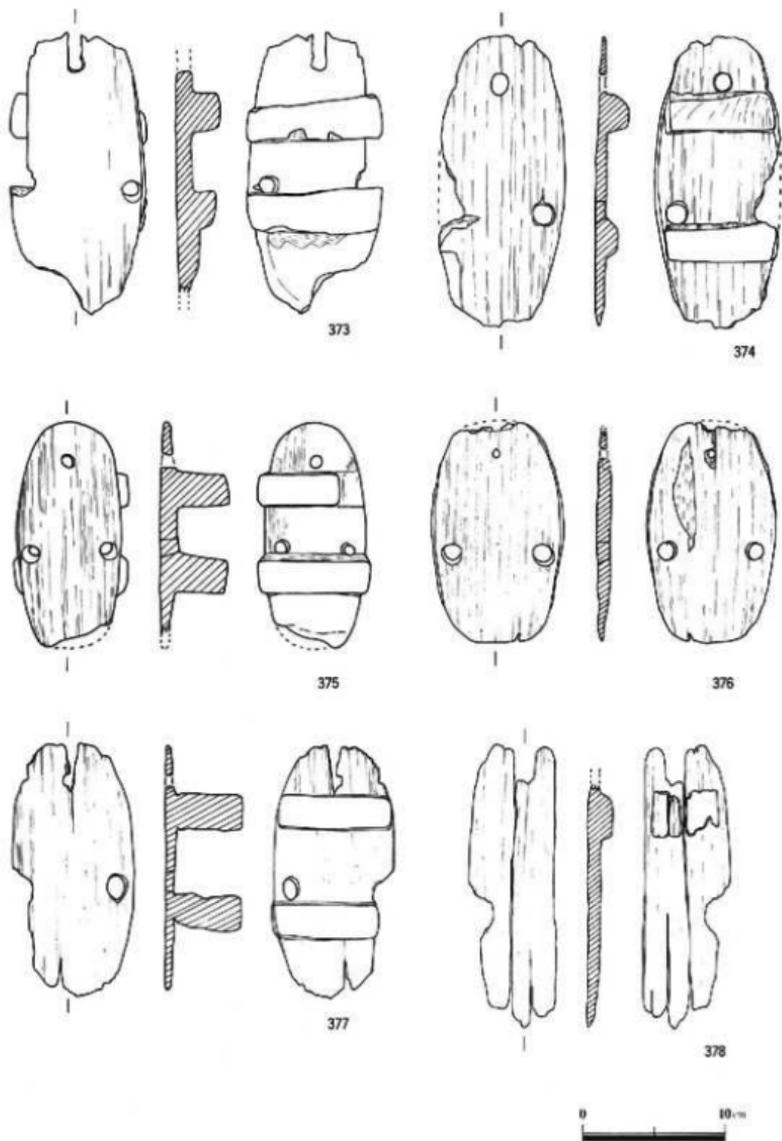


圖76 木製品

れる。(366. 367)

紡錘車：径7cmの円盤状に加工された材の中央に8mm程度の穴があけられており、紡錘車として使用されたものであろう。(368)

櫛：SE16より出土したもので、間が欠落するが、両端が残存し1個体分あると思われ、図のように復元できる。断面は、縦長の逆三角を呈するが、背側は円く仕上げている。(378)

8. 石製品

砥石が殆どであるが、石硯と石鍋が出土している。

石硯：黒色の粘板岩製の小型のもので、海と陸の差が緩やかである。遺構確認調査実施時に出土した。試掘坑の位置を検討したところ、SD15に伴っていた可能性が強い。(図3)

石鍋：暗緑灰色の滑石製のもので、口縁部は不明であるが、平たい円形の底部に上外方に立ち上がる身をもつ。外面には、縦方向に削って成型したノミ跡が顕著に見られる。(137)

砥石：総て黄白色の流紋岩製で、断面方形を呈し、各面に縦方向の使用痕を残し、中央がくぼむ。

9. 金属製品

包丁、刀、刀子、鏃、楔、用途不明金具、銅銭などがある。

包丁：SE16より出土したもので、身の背側は直線的で面を有する。刃部は弧状をなし、切先は尖る。木製の柄は断面長方形をなし、装着部側が太くなる。(384)

刀：直刀の断片であろうと考えられるものが2点出土している。柄に装着する部分は、留孔を有さず先端が尖り差込みになっている。(381.382)

刀子：背側は直線的で切先は弧状をなし尖がる。いずれも柄との装着部は留孔を有する。(386-388)

鏃：先端は四角く尖り、基部は断面円形をなす。柄と装着する基部は断面



図77 中国銭拓影

方形をなして先端が尖がる。(383)

：断面長方形を呈し、頭は太く、先端は細い。(358)

その他：勾状を呈するものと針状を呈するものがある。(379, 380)

銅銭：いずれも北宋銭で、「天禧通宝」(1017)「熙寧元宝」(1013)「皇宋通宝」(1039)が読取れる。天禧通宝はSD11、他は包含層より出土している。

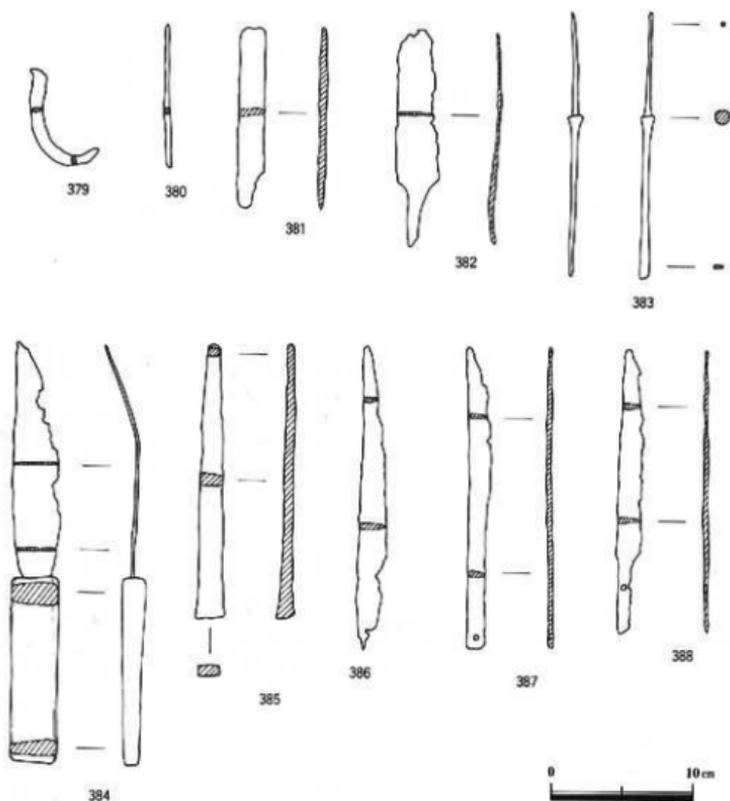


图78 金属製品実測図

表4 福万寺遺跡遺構別出土遺物一覽表

遺構名	瓦器碗					瓦器皿	土師皿		羽釜			東播系		磁器		木製品		石製	鉄製品	
	A	B	C	D	E		大	小	A	B	C	鉢	他	碗	他	下駄	他		刀	他
SE3								2											1	
SE6				2	1								1					1		
SE8																			1	
SE9									1											
SE10		1		1	1			5					1				1			
SE11		4	3	3				11	1	1	1							3		
SE13				7	3		1	4						1					1	1
SE14					1				1											
SE16	2	14	6			8	1	2	7	5	2	1	2				1	1		
SE17				1				2												
SD1		1	2	3	4	2	1	1					1		1	3	1			
SD2		1	3	2	2		1	1							1					
SD4			1	1			1	1										2		
SD8								6												
SD9	3	3	3	7	1	4	4	13		1	1				2					
SD11	1	1			1			5						1						
SD12						1														
SD15		1	1	14	6	2	1	4	1		1	2					2			
SD16		1		1	1	2									1					
SD18		1		2	3														1	
SK2	1		1						1											
SK3							1													
SK6				3	5				2	1										
SK7						6	1	16												
SK8								1												
SG1		1	1	10	6	1		1					1				2			
SG2									1				1							

表5 遺物観察表1

遺物No.	遺物名	写真図版	器 種	残 在 半	口徑	器高	高台径	色 調	胎 土 焼 成	技法の特徴	備 考	
1	SE3	PL10	土師器Ⅲ	口縁部一部欠損	7.6	1.1		にぶい灰褐色・褐色	0.5-6.0mmの小石粒	良好		
2	SE3	PL10	土師器Ⅲ	写残存	8.5	1.3		淡灰黄色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
3	SE6	PL10	瓦器Ⅵ	口縁部欠損	11.5	3.2		暗灰色	精良	高台あり	見込みに渦文	高台なし
4	SE6	PL10	瓦器Ⅵ	完形	12.2	3.1		黒灰色・灰褐色	精良	高台あり	見込みに渦文	高台なし
5	SE6	—	陶器Ⅶ	口縁部写残存	13.2			青緑色	0.5-0.3mmの小石粒	良好		洗輪
6	SE6	PL10	瓦器Ⅵ	口縁部一部欠損	8.4	1.9		暗灰色	やや粗	高台あり		
7	SE6	PL10	灰石					淡灰黄色				
8	SE6	PL10	産物		41.2							
9	SE6	PL10	産物		38.8							
10	SE9	PL11	羽釜	底面欠損	29.0			褐色・黒褐色	0.5-6.0mmの小石粒	良好		外面に黒付着
11	SE10	PL11	瓦器Ⅵ	写残存	12.8	3.1	3.0	黒灰色・灰白色	精良	高台あり	見込みに渦文	高台は欠落している
12	SE10	PL11	瓦器Ⅵ	写残存	15.0	4.2	3.4	暗灰色	精良	良好	見込みに平行文	
13	SE10	PL11	瓦器Ⅵ	写残存	13.0	2.9	4.2	暗灰色・灰白色	精良	良好	見込みに渦文	
14	SE10	PL12	土師器Ⅲ	写残存	8.6	1.0		淡灰黄色	0.5-3.0mmの小石粒	良好		
15	SE10	PL12	土師器Ⅲ	完形	8.0	1.1		淡灰褐色・褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
16	SE10	PL12	土師器Ⅲ	写残存	8.0	1.2		灰黄褐色	0.5-2.0mmの小石粒	良好		
17	SE10	PL12	土師器Ⅲ	口縁部一部欠損	7.6	1.1		灰黄褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
18	SE10	PL12	土師器Ⅲ	口縁部欠損	8.4	1.2		淡灰黄色	0.5mm以下の小石粒	良好		
19	SE10	PL11	灰石					淡灰黄色				
20	SE11	—	ぬり鉢	写残存	38.8	10.1		暗灰色・褐色	1.0-4.0mmの小石粒	良好		
21	SE11	—	土師器Ⅲ	口縁部写残存	22.8			黒色	1.0-5.0mmの小石粒	良好		外・内面に黒付着
22	SE11	—	羽釜	口縁部写残存	32.4			暗褐色・暗褐色・黒色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		内面に黒付着
23	SE11	PL14	瓦器Ⅵ	写残存	8.2	1.3		黒灰色	やや粗	良好		
24	SE11	PL14	瓦器Ⅵ	口縁部一部欠損	8.0	1.6		黒灰色	精良	良好		
25	SE11	PL13	土師器Ⅲ	完形	8.2	1.4		灰黄褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
26	SE11	PL13	土師器Ⅲ	完形	8.2	1.1		淡灰褐色	0.5-6.0mmの小石粒	良好		

表6 遺物観察表2

遺物No.	遺物名	写真図版	器 種	残存率	口径	器高	高径比	色 澤	胎 土	焼 成	技法の特徴	備 考
27	SE11	P.L.13	土師器壺	口縁部写欠損	8.0	1.3		淡灰褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
28	SE11	P.L.13	土師器壺	完形	8.0	1.7		淡灰褐色	0.5-2.0mmの小石粒	良好		
29	SE11	P.L.13	土師器壺	口縁部写欠損	7.6	1.5		淡灰褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
30	SE11	P.L.13	土師器壺	写残存	7.8	1.1		淡黄褐色	0.3-1.0mmの小石粒	良好		
31	SE11	P.L.13	土師器壺	口縁部写欠損	8.1	1.2		淡灰褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
32	SE11	P.L.13	土師器壺	写残存	8.3	1.3		淡黄褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
33	SE11	P.L.13	土師器壺	写残存	9.0	1.6		淡黄褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
34	SE11	P.L.14	瓶石					淡灰褐色				
35	SE11	P.L.14	瓶石					淡灰褐色				
36	SE11	P.L.14	瓶石					淡灰褐色				
37	SE11	P.L.15	瓦器碗	写欠損	13.9	3.7	3.7	暗灰色・灰白色	精良		見込みに平行文	
38	SE11	P.L.15	瓦器碗	完形	12.8	3.7	2.5	暗灰色・黒灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに渦文	
39	SE11	P.L.15	瓦器碗	写欠損	12.4	3.3	2.7	暗灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに渦文	
40	SE11	P.L.15	瓦器碗	写残存	13.8	3.6	4.4	暗灰色	精良	窯変あり	見込みに渦文	
41	SE11	P.L.15	瓦器碗	写残存	13.2	3.1	2.8	黒灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに平行文	
42	SE11	P.L.15	瓦器碗	写残存	13.4	3.1	4.2	黒灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに渦文	尖角は欠落している
43	SE11	P.L.14	瓦器碗	写残存	13.8	3.8	2.5	黒灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに平行文	
44	SE11	P.L.15	瓦器碗	写残存	13.3	3.6	3.0	暗灰色・淡灰褐色	やや粗	窯変あり	見込みに渦文	
45	SE11	P.L.15	瓦器碗	完形	13.1	3.4	3.4	暗灰色	やや粗	窯変あり	見込みに渦文	
46	SE11	P.L.15	瓦器碗	写残存	12.0	3.6	2.8	淡黄褐色	精良	良好	見込みに平行文	
47	SE11	P.L.15	瓦質ぬり鉢	口縁部写残存	19.4			灰褐色	やや粗	良好		
48	SE13	P.L.17	瓦器碗	口縁部写欠損	11.8	3.2	2.8	暗灰色・淡灰褐色	やや粗	窯変あり	見込みに渦文	
49	SE13	P.L.17	瓦器碗	写残存	11.0	3.1		暗灰色・淡灰褐色	精良	良好	見込みに渦文	高台なし
50	SE13	P.L.17	瓦器碗	写残存	12.2	3.1	2.5	暗灰色	精良	良好	見込みに渦文	
51	SE13	-	瓦器碗	写残存	12.2	2.8		暗灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに平行文	高台なし

表7 遺物観察表3

遺物No	遺物名	写真図版	器種	残在率	口径	器高	器口径	色調	胎土	焼成	技法の特徴	備考
52	SE13	P.L17	瓦器碗	口縁部写欠損	12.0	3.1	3.1	黒灰色	精良	窯変あり	見込みに湯文	
53	SE13	P.L16	瓦器碗	完形	12.5	3.4	2.1	黒灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに湯文	
54	SE13	P.L17	瓦器碗	完形	12.7	3.2	2.7	暗灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに湯文	
55	SE13	P.L17	瓦器碗	完形	12.6	3.5	2.6	黒灰色・暗青灰色	精良	良好	見込みに湯文	
56	SE13	P.L16	瓦器碗	写欠損	13.0	2.7		黒灰色	精良	窯変あり	見込みに湯文	高台なし
57	SE13	P.L17	瓦器碗	口縁部写欠損	12.8	3.0	4.3	暗灰色	精良	窯変あり	見込みに湯文	
58	SE13	P.L16	土師器壺	写残存	7.4	1.2		棕色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
59	SE13	P.L16	土師器壺	完形	7.9	1.3		灰青褐色	0.5-2.0mmの小石粒	良好		
60	SE13	P.L16	土師器壺	写残存	8.2	1.2		棕色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
61	SE13	P.L16	土師器壺	完形	8.1	1.1		灰青褐色	1.0-6.0mmの小石粒	良好		
62	SE13	P.L16	土師器壺	口縁部写欠損	12.8	2.4		褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		底部3ヶ所に方形穿孔
63	SE13	P.L18	曲物		42.8							
64	SE13	P.L18	曲物		41.0							
65	SE13	P.L18	曲物		39.2							
66	SE13	P.L17	曲物		43.2							
67	SE14	-	瓦器碗	写残存	12.0	2.5		暗灰色・褐色	精良	良好	見込みに湯文	高台なし
68	SE14	-	碗蓋	口縁部写欠損	26.6			暗褐色・黒色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		内面に裏付着
69	SE16 上層	-	瓦器碗	写残存	12.6	3.1	3.7	黒灰色	精良	窯変あり	見込みに湯文	
70	SE16 上層	P.L19	瓦器碗	口縁部写欠損	13.8	4.3	4.7	暗灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに平行文	
71	SE16 上層	-	瓦器碗	写残存	13.8	3.3	3.0	黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに平行文	
72	SE16 上層	-	瓦器碗	写残存	14.2	3.3	3.1	黒灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに平行文	
73	SE16 上層	-	瓦器碗	写残存	14.4	3.5	4.2	灰褐色・灰褐色・灰白色	精良	良好	見込みに平行文	
74	SE16 上層	P.L19	瓦器碗	写残存	14.0	4.0	4.2	黒灰色・灰白色	やや粗	窯変あり	見込みに平行文	
75	SE16 上層	P.L19	瓦器碗	写残存	13.0	3.9	2.4	暗灰色	精良	窯変あり	見込みに平行文	
76	SE16 上層	-	瓦器碗	写残存	13.8	3.4	5.3	黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに湯文	

表8 遺物観察表4

遺物No	遺物名	写真採取	器 種	残存率	口徑	器高	器口径	色 調	胎 土	焼 成	残存の特徴	備 考
77	SE16 上層	-	瓦器碗	片残存	13.2	4.1	3.6	淡灰色	精良	良好	見込みに平 行文	
78	SE16 上層	-	瓦器碗	片残存	14.4	3.5	3.7	暗褐色・淡灰 赤色・灰白色	やや粗	良好	見込みに高 文	
79	SE16 上層	-	瓦器碗	片残存	14.6	3.7	4.2	黒灰色	精良	密実あり	見込みに平 行文	
80	SE16 上層	P.L.19	瓦器碗	片残存	16.8	3.7	3.9	黒灰色・灰白 色	精良	良好	見込みに高 文	
81	SE16 上層	-	瓦器碗	片残存	14.0	3.3	1.6	黒灰色	精良	良好	見込みに平 行文	
82	SE16 上層	-	瓦器碗	口縁部欠 損	14.0	3.9	2.8	黒灰色・灰白 色	精良	良好	見込みに高 文	
83	SE16 上層	P.L.19	瓦器碗	片残存	12.2	3.1	2.8	黒灰色	精良	密実あり	見込みに高 文	
84	SE16 上層	P.L.19	瓦器碗	片残存	13.8	4.0	3.2	黒灰色	やや粗	密実あり	見込みに平 行文	
85	SE16 上層	-	瓦器碗	片残存	14.6	4.1	2.0	黒灰色・灰色	精良	密実あり	見込みに高 文	
86	SE16 上層	-	瓦器碗	片残存	14.6	3.8	3.0	黒灰色	精良	密実あり	見込みに高 文	
87	SE16 上層	-	瓦器碗	片残存	14.8	3.8	3.4	暗灰色・灰色	精良	良好	見込みに高 文	
88	SE16	-	瓦器碗	片残存	14.2	5.1	4.4	黒灰色	やや粗	良好	見込みに平 行文	
89	SE16	P.L.19	瓦器碗	片残存	12.3	3.5	3.4	黒灰色	精良	良好	見込みに平 行文	
90	SE16	P.L.19	瓦器碗	欠形	13.4	3.4	3.1	黒灰色	精良	良好	見込みに平 行文	
91	SE16 上層	P.L.20	瓦器皿	口縁部欠 損	8.9	1.8		黒灰色・灰 色・灰白色	精良	良好		
92	SE16	P.L.20	瓦器皿	片残存	9.4	1.7		黒灰色	精良	密実あり		
93	SE16 上層	P.L.20	瓦器皿	片残存	8.4	1.5		暗灰色・淡灰 色	精良	密実あり		
94	SE16 上層	P.L.20	瓦器皿	片残存	8.8	1.8		黒灰色・灰色	精良	良好		
95	SE16 上層	P.L.20	瓦器皿	片残存	8.8	1.8		黒灰色	精良	良好		
96	SE16 上層	P.L.20	瓦器皿	片残存	7.8	1.4		暗灰色	精良	密実あり		
97	SE16 上層	P.L.20	瓦器皿	片残存	9.0	1.6		黒灰色・灰色	精良	良好		
98	SE16 上層	P.L.20	瓦器皿	口縁部欠 損	8.7	1.8		暗灰色・淡灰 色	精良	密実あり		
99	SE16	P.L.20	上層多量	欠形	7.8	1.6		暗灰色・灰 褐色	0.5~1.0m の小石程	良好		
100	SE16	-	瓦器鉢	片残存	21.4			暗灰色	精良	良好		
101	SE16	P.L.21	わり鉢	片残存	31.5	11.5		暗灰色	やや粗	良好	密実あり	

表9 遺物観察表5

遺物No	遺物名	写真図版	器 種	発見率	口径	器高	肩口径	色 調	胎 土	焼 成	技法の特徴	備 考
102	SE16	P.L21	片口ねり鉢	写欠損	29.6	10.4		暗灰色	やや粗	良好		黒線系
103	SE16	P.L21	飯石					灰青色				
104	SE16	—	三足釜	口縁部写残存	19.8			暗灰色	精良	良好		
105	SE16	—	三足釜	口縁部写残存	17.0			暗灰色・淡灰色	精良	良好		内面に黒付着
106	SE16	—	三足釜	口縁部写残存	19.8			暗灰色・暗褐色	精良	良好		
107	SE16	P.L21	三足釜	写残存	28.6			黒色	精良	良好		外・内面に黒付着
108	SE16	P.L21	三足釜	写残存	21.4			暗灰色	精良	良好		外面に黒付着
109	SE16	—	羽釜	口縁部写残存	23.4			暗褐色	0.5~1.0mmの小石粒	良好		外側に黒付着
110	SE16	—	羽釜	口縁部写残存	26.0			暗褐色	0.5~1.0mmの小石粒	良好		外・内面に黒付着
111	SE16	—	須恵部甕	口縁部写残存	36.0			淡灰色	精良	良好	外底にタタキ(4条/2cm)	
112	SE16	—	羽釜	口縁部写残存	22.7			黒褐色・黒褐色	0.5~1.0mmの小石粒	良好		
113	SE16	—	羽釜	口縁部写残存	24.8			黒褐色・暗褐色	0.5~2.0mmの小石粒	良好		外面に黒付着
114	SE16	—	羽釜	口縁部写残存	29.0			赤褐色・暗褐色	0.5~2.0mmの小石粒	良好		
115	SE16	—	羽釜	口縁部写残存	28.0			淡赤褐色・暗褐色	0.5~2.0mmの小石粒	良好		
116	SE16	—	羽釜	口縁部写残存	29.6			黒褐色・赤褐色	0.5~2.0mmの小石粒	良好		外面に黒付着
117	SE16	—	羽釜	口縁部写残存	32.0			黄褐色・暗褐色	0.5~2.0mmの小石粒	良好		外面に黒付着
118	SE16	—	羽釜	口縁部写残存	32.4			灰褐色・黒褐色	0.5~2.0mmの小石粒	良好		
119	SE17	P.L23	瓦器碗	口縁部写欠損	12.0	3.0	2.8	暗灰色・淡灰色	精良	良好	見込みに溝文	
120	SE17	P.L23	土師器皿	写残存	8.0	1.3		淡灰褐色	0.5~2.0mmの小石粒	良好		
121	SE17	P.L23	土師器皿	写残存	7.8	1.1		淡灰褐色	0.5~1.0mmの小石粒	良好		
122	SD1	P.L22	瓦器碗	写欠損	12.1	2.8		黒灰色・暗灰色	精良	腐食あり	見込みに溝文	器台なし
123	SD1	P.L22	瓦器碗	写残存	11.2	2.5		黒灰色	精良	良好	見込みに溝文	器台なし
124	SD1	P.L22	瓦器碗	写残存	12.8	3.3	3.4	黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに溝文	
125	SD1	P.L22	瓦器碗	口縁部写欠損	13.2	3.5	3.0	黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに溝文	
126	SD1	P.L22	瓦器碗	口縁部写欠損	11.4	2.9	2.1	黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに蓮華紋文	

表10 遺物観察表6

遺物No	遺物名	写真図版	器 種	残存率	口径	器高	高台径	色 調	胎 土	焼 成	性状の作態	備 考
127	SD1	P.L.22	瓦器碗	写残存	12.0	3.0		黒灰色	精良	良好	見込みに満文	高台なし
128	SD1	P.L.22	瓦器碗	口縁部写欠損	13.4	3.4	3.6	黒灰色・淡褐色・灰白色	精良	良好	見込みに満文	
129	SD1	P.L.22	瓦器碗	写残存	12.1	3.0		黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに満文	高台なし
130	SD1	P.L.22	瓦器碗	写残存	13.0	3.0	2.0	暗灰色	精良	良好	見込みに満文	
131	SD1	P.L.22	瓦器碗	口縁部写欠損	12.0	3.1	2.4	黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに満文	
132	SD1	P.L.22	瓦器碗	写残存	10.4	2.8	2.0	黒灰色	精良	良好	見込みに満文	高台は欠落している。
133	SD1	P.L.23	瓦器皿	完形	8.0	1.3		黒灰色	精良	良好		
134	SD1	P.L.23	瓦器皿	完形	7.8	1.4		黒灰色	精良	良好		
135	SD1	P.L.23	土師器皿	写残存	8.0	1.3		淡茶褐色	精良	良好		
136	SD1	P.L.23	土師器皿	口縁部一部欠損	11.6	2.0		淡黄褐色	0.5mm前後の小石粒	良好		
137	SD1	-	滑石製石皿	底部写残存				灰色				直径：17.0
138	SD2	P.L.24	瓦器碗	写残存	13.0	3.5	2.6	黒灰色	精良	良好	見込みに満文	
139	SD2	P.L.24	瓦器碗	写残存	10.8	2.4	3.2	灰褐色・灰白色	精良	良好	見込みに満文	
140	SD2	P.L.24	瓦器碗	口縁部写欠損	11.2	2.6		黒灰色	精良	腐変あり	見込みに満文	高台なし
141	SD2	P.L.24	瓦器碗	写残存	13.8	3.7	3.4	灰色	精良	腐変あり	見込みに満文	
142	SD2	P.L.24	瓦器碗	写残存	12.2	2.6		暗灰色	精良	腐変あり	見込みに満文	高台なし
143	SD2	P.L.24	瓦器碗	口縁部写欠損	12.7	3.2	2.3	灰褐色・灰黄褐色	精良	外底部に黒変あり	見込みに満文	
144	SD2	P.L.24	瓦器碗	口縁部写欠損	13.8	3.6	3.4	黒灰色・灰白色	精良	腐変あり	見込みに満文	
145	SD2	P.L.24	瓦器碗	口縁部一部欠損	13.3	3.8	1.6	黒灰色・灰白色	精良	腐変あり	見込みに満文	
146	SD2	P.L.24	土師器皿	写欠損	8.0	1.3		淡乳灰色	0.5-2.0mmの小石粒	良好		
147	SD2	P.L.24	土師器皿	完形	11.8	2.4		淡褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
148	SD4	P.L.25	瓦器碗	写残存	11.6	3.1	2.3	灰白色	やや粗	良好	見込みに満文	高台は欠落している。
149	SD4	P.L.25	瓦器碗	口縁部写欠損	12.9	3.3	2.8	灰黄色・灰赤色	精良	良好	見込みに満文	
150	SD4	P.L.25	土師器皿	写残存	7.9	1.4		淡灰褐色	0.5mm前後の小石粒	良好		
151	SD4	P.L.25	土師器皿	写残存	12.0	1.8		にぶい褐色	0.5mm前後の小石粒	良好		
152	SD4	P.L.25	磁石					淡灰褐色				

表11 遺物観察表7

遺物No.	遺物名	写真掲載	器 種	残 存 率	口径	器高	高台径	色 調	整 土	焼 成	技法の特徴	備 考
153	SD4	PL25	灰瓦					灰白色				
154	SD8	PL26	土師器皿	完形	7.9	1.6		灰黄褐色	0.5mm前後の小石粒	良好		
155	SD8	PL26	土師器皿	口縁部写欠損	8.2	1.2		灰黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
156	SD8	PL26	土師器皿	完形	7.5	1.4		灰黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
157	SD8	PL26	土師器皿	口縁部一部欠損	8.3	1.6		灰黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
158	SD8	PL26	土師器皿	口縁部一部欠損	7.9	1.3		灰黄褐色	0.5mm前後の小石粒	良好		
159	SD8	PL26	土師器皿	口縁部写欠損	8.0	1.2		灰黄褐色	0.5mm前後の小石粒	良好		
160	SD8	PL26	土師器皿	写残存	8.0	1.1		淡灰褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
161	SD8	PL26	土師器皿	口縁部写欠損	8.3	1.2		灰黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
162	SD8	PL26	土師器皿	口縁部一部欠損	8.2	1.3		淡灰褐色	0.5mm前後の小石粒	良好		
163	SD9	PL28	瓦器碗	写残存	13.2	3.3	3.7	黒灰色	精良	良好	見込みに滴文	
164	SD9	PL27	瓦器碗	写残存	11.3	3.0	2.1	灰色・黒灰色	精良	良好	見込みに滴文	
165	SD9	PL27	瓦器碗	写残存	11.3	3.4	1.7	暗灰色	精良	変変あり	見込みに滴文	
166	SD9	PL28	瓦器碗	写残存	14.0	3.5	2.7	灰色・黒灰色	精良	良好	見込みに滴文	
167	SD9	PL27	瓦器碗	写残存	12.4	3.2	2.2	黒灰色	精良	変変あり	見込みに滴文	
168	SD9	PL27	瓦器碗	写残存	13.8	3.7	4.0	黒灰色	精良	変変あり	見込みに滴文	
169	SD9	PL27	瓦器碗	写残存	12.2	3.1	3.4	黒灰色	精良	良好	見込みに滴文	
170	SD9	PL27	瓦器碗	完形	12.3	3.2	2.2	黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに滴文	
171	SD9	PL28	瓦器碗	口縁部一部欠損	11.1	3.8		灰色	やや粗	良好	見込みに滴文	高台なし
172	SD9	PL28	瓦器碗	一部欠損	12.0	3.2	3.0	黒灰色・灰白色	精良	変変あり	見込みに滴文	
173	SD9	PL27	瓦器碗	写残存	13.2	3.6	2.8	黒灰色・灰白色	精良	変変あり	見込みに平行文	
174	SD9	PL27	瓦器碗	口縁部写欠損	12.2	3.0	3.0	黒灰色・灰白色	精良	変変あり	見込みに滴文	高台は文庫している。
175	SD9	PL27	瓦器碗	写残存	13.2	3.6	3.2	黒灰色	精良	変変あり	見込みに滴文	
176	SD9	PL27	瓦器碗	写残存	13.8	4.0	2.0	黒灰色	精良	変変あり	見込みに平行文	
177	SD9	PL28	瓦器碗	口縁部写欠損	13.9	3.7	3.0	黒灰色・灰白色	精良	変変あり	見込みに連続滴文	

表12 遺物観察表 8

遺物No.	透視名	写真図版	器 種	残 在 率	口 径	群 高	高 台 径	色 質	胎 土	焼 成	技法の特徴	備 考
178	SD9	PL28	瓦形碗	口縁部与欠損	14.7	4.2	4.0	黒灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに平行文	
179	SD9	PL28	瓦形碗	口縁部与欠損	14.4	3.4	3.4	灰白色	精良	良好	見込みに平行文	
180	SD9	PL28	瓦形碗	与残存	14.8	4.8	3.5	灰白色・黒灰色	精良	窯変あり	見込みに平行文	
181	SD9	PL29	瓦形皿	口縁部一帯欠損	8.4	1.8		黒灰色・淡灰褐色	精良	良好		
182	SD9	PL29	瓦形皿	与残存	8.4	1.3		黒灰色・灰白色	精良	良好		
183	SD9	PL29	瓦形皿	与残存	9.0	2.0		黒灰色	精良	良好		
184	SD9		瓦形皿	欠損	7.8	1.5		黒灰色・灰白色	やや粗	窯変あり	見込みに平行文?	
185	SD9	PL30	土師器皿	与残存	8.2	1.4		淡黄褐色	0.3mm以下の小石粒	良好		
186	SD9	PL29	土師器皿	一帯欠損	7.9	1.6		灰黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
187	SD9	PL29	土師器皿	与残存	8.0	1.1		にぶい褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
188	SD9	PL30	土師器皿	与残存	8.6	1.3		淡黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
189	SD9	PL30	土師器皿	与残存	12.6	1.7		淡褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
190	SD9	PL30	土師器皿	口縁部与欠損	10.9	2.2		にぶい褐色	0.5-3.0mmの小石粒	良好		
191	SD9	PL29	土師器皿	口縁部一帯欠損	8.0	1.4		灰黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
192	SD9	PL29	土師器皿	欠損	7.5	1.3		灰褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
193	SD9	PL29	土師器皿	与残存	8.6	1.5		淡黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
194	SD9	PL30	土師器皿	与残存	8.0	1.4		淡黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
195	SD9	PL30	土師器皿	口縁部一帯欠損	12.3	1.9		灰黄褐色	0.5-2.0mmの小石粒	良好		
196	SD9	PL30	土師器皿	与残存	12.4	2.3		灰黄褐色	0.5-2.0mmの小石粒	良好		
197	SD9	PL30	土師器皿	与残存	7.8	1.4		灰褐色	0.5-2.0mmの小石粒	良好		
198	SD9	PL29	土師器皿	与欠損	7.8	1.4		淡黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
199	SD9	PL29	土師器皿	欠損	4.1	1.2		淡黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
200	SD9	PL29	土師器皿	欠損	8.2	1.5		灰黄褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		
201	SD9	PL30	土師器皿	口縁部与欠損	8.1	1.3		淡灰褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
202	SD9		瓦質土師器	口縁部与残存	20.0			黒色・暗褐色	精良	良好	外側に残存湯	

表13 遺物観察表 9

遺物No	遺物名	写真図版	器 種	残 存 非	口径	器高	高内径	色 調	胎 二	焼 成	技法の特徴	備 考
203	SD9	-	瓦片鉢	口縁部○・底面残存	33.2			灰色・灰白色	0.5-3.0mmの小石粒	良好		底径：9.8 取捨系
204	SD11	P.L.31	瓦器鉢	写残存	12.0	2.9		黒色・灰白色	精良	良好	見込みに溝文	高台なし
205	SD12	-	瓦器鉢	写残存	12.8	3.4	2.0	灰色	精良	窯変あり	見込みに平行文	
206	SD11	P.L.31	瓦器鉢	写欠損	15.3	4.6	4.0	黒灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに平行文	
207	SD11	P.L.31	土師器皿	写残存	8.4	1.3		淡灰黄色	0.5mm以下の小石粒	良好		
208	SD11	P.L.31	土師器皿	完形	7.9	1.8		淡灰褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
209	SD11	P.L.31	土師器皿	完形	7.9	1.8		灰黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
210	SD11	P.L.31	土師器皿	完形	7.8	1.5		灰黄色	0.5mm以下の小石粒	良好		
211	SD11	P.L.31	土師器皿	口縁部写欠損	8.6	1.3		灰黄色	0.5mm以下の小石粒	良好		
212	SD12	P.L.32	瓦器皿	写残存	8.5	1.9		灰色・灰白色	精良	良好		
213	SD15	P.L.32	瓦器皿	写残存	11.8	3.2	2.2	暗灰色	やや粗	窯変あり	見込みに溝文	
214	SD15	P.L.32	瓦器鉢	口縁部写欠損	11.2	2.8		暗灰色	精良	良好		高台なし
215	SD15	P.L.33	瓦器鉢	写残存	10.9	2.7	2.5	暗灰色・灰白色	やや粗	窯変あり	見込みに溝文	
216	SD15	P.L.34	瓦器鉢	一部欠損	11.8	2.9	3.0	黒灰色・灰白色	やや粗	窯変あり	見込みに溝文	
217	SD15	P.L.33	瓦器鉢	写残存	11.9	3.6	2.2	黒灰色・灰白色	精良	窯変あり	見込みに溝文	
218	SD15	P.L.32	瓦器鉢	一部欠損	12.2	3.2	2.5	暗灰色・灰白色	精良	良好	見込みに逆文	
219	SD15	P.L.33	瓦器鉢	口縁部一部欠損	12.5	3.3		暗灰色	やや粗	良好	見込みに溝文	高台なし
220	SD15	P.L.32	瓦器鉢	口縁部写欠損	12.4	3.1	2.7	暗灰色	やや粗	良好	見込みに溝文	
221	SD15	P.L.33	瓦器鉢	一部欠損	12.2	3.6	2.1	黒灰色・暗茶黄色	やや粗	良好	見込みに溝文	つまみ出し高台
222	SD15	P.L.33	瓦器鉢	写残存	11.7	2.8	2.0	暗灰色・灰白色	やや粗	窯変あり		
223	SD15	P.L.32	瓦器鉢	完形	12.6	3.4		黒灰色・灰白色	やや粗	窯変あり	見込みに溝文	高台なし
224	SD15	P.L.32	瓦器鉢	写残存	13.8	3.4	3.0	淡灰褐色・灰白色	やや粗	良好	見込みに溝文	
225	SD15	P.L.33	瓦器鉢	写残存	12.0	3.5	2.0	淡灰色・暗灰色	やや粗	窯変あり	見込みに溝文	
226	SD15	P.L.32	瓦器鉢	口縁部一部欠損	11.7	3.3		黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに溝文	高台なし
227	SD15	P.L.33	瓦器鉢	写残存	11.0	2.6		灰褐色・明灰色	精良	良好	見込みに溝文	高台なし

表14 遺物観察表10

遺物No	遺物名	写真図版	器種	残在率	口径	口径高	高台径	色調	胎土	施文	紋法の特徴	備考
228	SD15	P.L.32	瓦器碗	完形	12.7	3.1	2.8	黒灰色・明灰色	やや粗	雲文あり	見込みに透文	
229	SD15	P.L.32	瓦器碗	口縁部欠損	12.7	3.3	3.0	暗灰色	やや粗	雲文あり	見込みに透文	
230	SD15	P.L.33	瓦器碗	写残存	11.4	3.0	3.2	黒灰色	精良	雲文あり	見込みに透文	
231	SD15	P.L.33	瓦器碗	写残存	11.2	3.2	2.0	灰白色・黒灰色	精良	良好	見込みに透文	
232	SD15	P.L.33	瓦器碗	口縁部欠損	12.4	2.9	3.0	黒灰色・明灰色	やや粗	雲文あり	見込みに透文	高台は欠落している。
233	SD15	P.L.34	瓦器碗	口縁部一部欠損	12.3	3.2		黒灰色・灰白色	やや粗	良好	見込みに透文	高台なし
234	SD15	P.L.33	瓦器碗	口縁部一部欠損	13.4	3.6	2.9	黒灰色・灰白色	やや粗	良好	見込みに透文	
235	SD15		瓦器碗	口縁部写残存	18.8			黒色	やや強	良好	外側タタキ(5条/1cm)	
236	SD15		須臾瓦器	口縁部写残存	26.1			暗灰色	精良	良好	外側タタキ(5条/1cm)	
237	SD15		羽蓋	口縁部写残存	26.6			黒色・暗褐色	0.5~1.0cmの小石粒	良好		外・内面に深写者
238	SD15		おろし鉢	底部残存				黒灰色・明灰色	0.5~5.0cmの小石粒	良好		底厚：10.4
239	SD15		陶質鉢	底部写残存				暗赤褐色	1.0cm前後の小石粒	良好		内面に自然釉付着 底径：12.6
240	SD15	P.L.34	十層器皿	写残存	9.8	2.5		灰褐色	0.3cm以下の小石粒	良好		
241	SD15	P.L.34	十層器皿	口縁部欠損	4.0	1.3		淡灰褐色	0.5~2.0cmの小石粒	良好		
242	SD15	P.L.34	十層器皿	写残存	8.3	1.6		灰褐色	1.0cm前後の小石粒	良好		
243	SD15	P.L.34	十層器皿	口縁部欠損	8.1	4.0		淡灰褐色	0.5~3.0cmの小石粒	良好		
244	SD15	P.L.34	十層器皿	写残存	8.2	1.3		淡褐色・黒色	0.5~1.0cmの小石粒	良好		内面に深写者
245	SD15	P.L.34	瓦器皿	完形	7.9	1.7		黒灰色	やや粗	良好		
246	SD15	P.L.34	瓦器皿	口縁部一部欠損	7.6	1.5		灰褐色	やや粗	良好		
247	SD15	P.L.34	磁石					淡灰黄色				
248	SD15	P.L.34	磁石					淡灰褐色・淡灰藍色				
249	SD16	P.L.35	瓦器碗	完形	12.4	3.1	3.1	黒灰色・灰白色	精良	雲文あり	見込みに透文	高台は欠落している。
250	SD16	P.L.35	瓦器碗	写残存	11.6	2.8		黒灰色	精良	雲文あり	見込みに透文	高台なし
251	SD16	P.L.35	瓦器碗	完形	12.0	3.1	2.6	暗灰色・淡灰色	やや粗	雲文あり	見込みに平行文	
252	SD16	P.L.35	瓦器碗	口縁部欠損	11.9	3.0		黒灰色・灰白色	やや粗	良好	見込みに透文	高台なし

表15 遺物観察表11

遺物 No.	遺物名	写真図版	器 種	残 存 率	口徑	器高	器台径	色 調	胎 土	燒 成	技法の特徵	備 考
253	SD18	P.L.35	瓦器碗	片残存	11.2	3.1		赭灰色	やや粗	窯変あり	見込みに溝文	高台なし
254	SD18	P.L.33	瓦器碗	片残存	11.7	3.2		黒灰色・淡灰藍色	精良	良好	見込みに溝文	高台なし
255	SD18	P.L.35	瓦器碗	片残存	12.6	2.7	1.5	淡灰色	やや粗	窯変あり	見込みに溝文	
256	SD18	P.L.35	瓦器碗	片残存	12.0	3.1	2.5	黒灰色・灰白色	やや粗	良好	見込みに平行文	
257	SD18	P.L.33	瓦器碗	片残存	12.3	2.7	3.1	暗灰色	やや粗	窯変あり	見込みに溝文	
258	SK2	P.L.36	瓦器碗	片残存	14.4	3.7	2.7	黒灰色・黄褐色	精良	良好	見込みに溝文	
259	SK2	P.L.36	瓦器碗	片残存	13.7	4.1	4.0	黒灰色・淡灰褐色	精良	良好		内面に煤付着
260	SK2	—	羽蓋	口縁部残存	27.2			黒色	0.5mm前後の小石粒	良好		外・内面に煤付着
261	SK2	—	鉢	口縁部片残存	39.0			暗褐色	0.5-1.0mmの小石粒	良好		内面に煤付着
262	SK3	P.L.36	土器器皿	片残存	9.6	2.4		淡黄褐色	0.5mm以下の小石粒	良好		
263	SK6	—	瓦器碗	片残存	12.4	2.7	3.0	淡灰色・黒灰色	精良	良好	見込みに溝文	
264	SK6	—	瓦器碗	片残存	12.6	3.0		黒灰色	精良	良好	見込みに溝文	高台なし
265	SK6	—	瓦器碗	片残存	10.6	2.7		暗灰色	精良	良好	見込みに溝文	高台なし
266	SK6	—	瓦器碗	片残存	10.2	2.5		淡灰黒色	精良	良好	見込みに溝文	高台なし
267	SK6	—	瓦器碗	片残存	12.2	3.0	2.4	黒灰色・灰白色	精良	良好	見込みに溝文	
268	SK6	—	瓦器碗	片残存	11.8	2.9	2.8	黒灰色	精良	良好	見込みに溝文	
269	SK6	P.L.36	瓦器碗	口縁部一部欠損	10.8	2.7		黒灰色・淡灰黄色	やや粗	良好	見込みに溝文	高台なし
270	SK6	—	瓦器碗	片残存	11.6	3.7		黒灰色	精良	良好	見込みに溝文	高台なし
271	SK6	—	土器器皿	片残存	7.8	1.1		にぶい黄褐色	0.5mm前後の小石粒	良好		
272	SK6	P.L.36	小形三足釜	片残存				黒色	精良	良好		外面にうるし付着
273	SK6	—	羽蓋	口縁部片残存	28.2			黒色・暗褐色・灰褐色	0.5-2.0mmの小石粒	良好		外面に煤付着
274	SK6	—	羽蓋	口縁部片残存	32.4			黒色・淡灰褐色	0.5-2.0mmの小石粒	良好		外面に煤付着
275	SK7	P.L.37	瓦器皿	尖形	7.6	1.2		暗灰色	精良	窯変あり		
276	SK7	P.L.37	瓦器皿	尖形	8.3	1.6		黒灰色	精良	窯変あり		
277	SK7	P.L.37	瓦器皿	口縁部一部欠損	8.6	1.4		黒灰色	精良	窯変あり		

表16 遺物観察表12

遺物No	遺物名	写真図版	形 状	残 存 率	口径	器高	器口径	色 調	胎 土	装 束	技法の特徴	備 考
278	SK7	PL37	瓦器皿	完形	7.8	1.4		暗灰色	やや粗	良好		
279	SK7	PL38	瓦器皿	完形	7.3	1.5		暗灰色	精良	良好		
280	SK7	PL38	瓦器皿	完形	7.8	1.5		暗灰色	精良	雲裳あり		
281	SK7	PL38	土師器皿	完形	7.2	1.4		淡灰褐色	0.5-1.0mm の小石粒	良好		
282	SK7	PL38	土師器皿	片残存	8.6	1.1		淡灰褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
283	SK7	PL38	土師器皿	片残存	8.2	1.5		暗灰赤色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
284	SK7	PL37	土師器皿	口縁部欠損	8.2	1.4		灰褐色・淡灰 褐色	0.5-2.0mm の小石粒	良好		
285	SK7	PL37	土師器皿	片残存	8.2	1.4		淡灰褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
286	SK7	PL38	土師器皿	完形	8.2	1.1		淡灰褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
287	SK7	PL38	土師器皿	完形	8.0	1.6		淡灰褐色	0.5-5.0mm の小石粒	良好		
288	SK7	PL37	土師器皿	口縁部欠損	7.8	1.5		淡灰褐色・灰 赤褐色	0.5-1.0mm の小石粒	良好		
289	SK7	PL37	土師器皿	片残存	8.0	1.3		淡灰褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
290	SK7	PL38	土師器皿	完形	8.0	1.3		淡灰褐色・淡 灰褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
291	SK7	PL37	土師器皿	片残存	8.2	1.9		淡灰褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
292	SK7	PL38	土師器皿	片残存	12.1	2.1		淡灰褐色・灰 赤褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
293	SK7	PL38	土師器皿	片残存	8.6	1.0		暗灰褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
294	SK7	PL37	土師器皿	片残存	8.6	1.1		灰褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
295	SK7	PL37	土師器皿	片残存	8.4	1.1		淡灰褐色	0.5-2.0mm の小石粒	良好		
296	SK7	PL38	土師器皿	口縁部欠損	7.6	1.6		灰褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
297	SK7	PL37	土師器皿	完形	7.9	1.2		淡灰褐色	0.5-1.0mm の小石粒	良好		
298	SK8	PL36	土師器皿	一部欠損	8.0	1.4		褐色	0.5mm以下 の小石粒	良好		
299	SG1	PL40	瓦器碗	一部欠損	12.5	3.5	3.0	灰白色・黒灰 色	やや粗	良好	見込みに溝 文	
300	SG1	PL40	瓦器碗	完形	12.3	3.4	3.1	暗灰色・灰白 色	やや粗	雲裳あり	見込みに溝 文	
301	SG1	PL39	瓦器碗	口縁部一部 欠損	13.6	3.8	3.5	黒灰色	精良	良好	見込みに平 行文	
302	SG1	PL38	瓦器碗	完形	12.1	3.1		暗灰色	精良	雲裳あり	見込みに溝 文	高台なし

表17 遺物観察表13

遺物No	遺物名	写真別紙	草 履	残 在 中	口径	器高・高台径	色 調	胎 土	焼 成	技法の特徴	備 考	
303	SG1	PL39	瓦器碗	口縁部写欠損	13.0	3.9	黒灰色	精良	腐変あり	見込みに透文	高台なし	
304	SG1	-	瓦器碗	口縁部写欠損	12.2	3.1	1.8	淡灰青色	精良	良好	見込みに透文	
305	SG1	PL40	瓦器碗	口縁部写欠損	12.6	3.4	2.8	灰白色・淡灰青色	やや硬	良好	見込みに透文	
306	SG1	PL39	瓦器碗	完形	11.6	3.0	2.5	黒灰色	やや硬	腐変あり	見込みに透文	
307	SG1	PL39	瓦器碗	口縁部写欠損	12.1	2.9		黒灰色	やや硬	良好	見込みに透文	高台なし
308	SG1	PL39	瓦器碗	写残存	12.2	2.6		淡灰色・黒灰色	やや硬	良好	見込みに透文	高台なし
309	SG1	-	瓦器碗	写残存	12.6	2.7		黒灰色	精良	腐変あり	見込みに透文	高台なし
310	SG1	PL39	瓦器碗	写欠損	13.2	3.3	3.0	黒灰色・灰白色	やや硬	良好	見込みに透文	
311	SG1	-	瓦器碗	口縁部一部欠損	12.6	3.6	2.8	暗灰色・灰色	精良	良好	見込みに透文	
312	SG1	PL39	瓦器碗	写残存	12.2	3.5	2.8	黒灰色	やや硬	良好	見込みに透文	
313	SG1	-	瓦器碗	写残存	11.4	2.4		暗灰色	精良	良好	見込みに透文	高台なし
314	SG1	-	瓦器碗	写残存	12.8	3.3	3.0	黒灰色	精良	良好	見込みに透文	
315	SG1	-	瓦器碗	写残存	13.2	4.0	4.3	黒灰色	精良	腐変あり	見込みに透 横輪状文?	
316	SG1	PL40	瓦器碗	写残存	12.6	2.5	3.4	灰色	やや硬	良好	内面少々 腐変	
317	SG1	PL40	瓦器工	完形	7.5	1.5		淡灰褐色	やや硬	良好		
318	SG1	PL40	土師製皿	写残存	8.0	1.1		淡灰褐色	0.5-2.0mm の小石粒	良好		
319	SG1	-	厚巻片口鉢	口縁部一部残存				灰色	やや硬	良好		
320	SG1	PL40	磁石					淡灰褐色				
321	SG1	PL40	磁石					淡灰青色				
322	SG2	-	瓦釜	口縁部写残存	29.6			黒色・暗褐色	0.5-4.0mm の小石粒	良好	外面に煙付 香	
323	J9 包含層	PL41	青磁小皿	底部写残存				淡灰青色	精良	良好	内底底部に 簡輪状目。	径径：3.0 列安室I- 5類
324	M4 包含層	PL43	青磁碗	底部写残存				淡青褐色	精良	良好	見込みに青 花文	観東室I- 5類
325	C7-D8	PL43	青磁碗	底部残存				青緑色	精良	良好	見込みに「 龍」字	観東室I- 5類
326	D16 包含層	PL43	青磁碗	底部残存				//緑色	精良	良好	外面に蓮片 文、見込みに 「龍」字	観東室I- 5類

表18 遺物観察表14

遺物No	遺物名	写真図版	器 種	残 在 中	口径	器高	高弁径	色 派	胎 土	泥 成	技法の特徴	備 考
327	D12・13 包含層	P.L.43	青磁碗	底部残存			4.9	灰緑色	精良	良好	外面に蓮弁文、見込みに唐花文	龍泉窯1-3層
328	乳含層	—	白磁碗	底部残存			5.0	淡青緑色	精良	良好	外面に蓮弁文	龍泉窯1-5層
329	D16 包含層	P.L.42	白磁碗	底部残存			5.1	灰緑色	精良	良好		龍泉窯1-1層
330	K7 包含層	P.L.42	青磁碗	底部残存			5.4	灰緑色	精良	良好		龍泉窯1-1層
331	J9 包含層	P.L.42	青磁碗	底部残存			4.8	灰緑色	精良	良好		龍泉窯1-1層
332	D12・13 包	P.L.43	白磁碗	底部残存			6.4	淡灰緑色	精良	良好		II-1層
333	S.K.9	P.L.42	白磁碗	底部残存			5.0	淡灰緑色	精良	良好		II-2層
334	A 包含層	P.L.42	青磁碗	底部残存			5.2	灰緑色	精良	良好		龍泉窯1-1層
335	J9 包含層	P.L.42	青磁碗	底部残存			4.7	灰緑色	精良	良好		龍泉窯1-5層
336	B16 包	P.L.42	白磁碗	底部残存			5.8	乳白色	精良	良好		1層
337	G6 包含層	P.L.41	白磁小皿	底部残存				淡灰緑色	精良	良好		底径：6.4 Ⅱ-1層
338	K10 包含層	P.L.41	白磁小皿	口縁部残存	8.8			淡灰緑色	精良	良好	口先	底径：5.6 Ⅱ-1層
339	S.D.11	P.L.41	青磁小皿	残存	10.2	1.6		淡灰緑色	精良	良好	外面は口縁部のみ施釉	底径：5.0 同定窯1-1層
340	J11 包含層	P.L.41	青磁小皿	残存	9.8	2.0		灰緑色	精良	良好	外面は口縁部のみ施釉	底径：4.8 同定窯1-1層
341	包含層	P.L.42	白磁碗	口縁部残存	11.0			淡青灰色	精良	良好	口先	Ⅱ層
342	S.E.10	P.L.42	青磁碗	口縁部一部残存	17.6			灰緑色	精良	良好	外面に飛雲文	龍泉窯1-4層
343	K7 包含層	P.L.41	青白磁小盃	口縁部残存	6.0			淡青色	精良	良好	外面に蓮弁文	
344	K6 包含層	—	青白磁小盃	口縁部破片	4.8			淡灰白色	精良	良好	外面に乳点文・蓮弁文	
345	S.E.13	P.L.41	青白磁小盃	残存				淡青色	精良	良好	外面に蓮弁文	底径：3.2
346	H3 包	P.L.41	古磁四耳壺	残存				淡灰緑色	精良	良好		
347	S.E.16 上層	P.L.42	青磁碗	口縁部破片				灰青灰色	精良	良好		龍泉窯1-1層
348	C.15 包含層	P.L.42	白磁碗	口縁部破片				灰緑色	精良	良好	外面に蓮弁文	龍泉窯1-1層
349	D.16 包含層	P.L.42	青磁碗	口縁部破片				淡灰青色	精良	良好		龍泉窯1-5層
350	G.14 包含層	P.L.42	青磁碗	口縁部破片				淡灰緑色	精良	良好	外面に蓮弁文	龍泉窯1-5層

表19 遺物観察表15

遺物No	遺物名	写真図版	器 種	現 在 率	口縁	器高	高心径	色 沢	底 上	焼 成	技法の特徴	備 考
351	SE16 上層	PL42	青磁碗	口縁部破片				淡青灰色	精良	良好		龍泉窯Ⅰ 1型
352	K7丸	PL42	口磁碗	口縁部破片				乳白色	精良	良好	口壳	Ⅱ型
353	SK10	PL41	青磁碗	破片				淡灰青色	精良	良好	内面に荷花文	龍泉窯Ⅰ- 3型
354	包含帯	PL41	青磁碗	口縁部破片				灰青色	精良	良好	外面に緑黄 赤文、内面 に荷花文	龍泉窯Ⅰ- 6型
355	包含帯	PL42	青磁碗	底形破片				淡灰緑色	精良	良好	外面に花卉 文	龍泉窯Ⅰ- 5型
356	SD1	PL42	青磁碗	底形破片				青灰色	精良	良好	外面に花卉 文	龍泉窯Ⅰ- 5型
357	G15丸	PL42	白磁碗	口縁部破片				灰白色	精良	良好	口壳	Ⅲ型
358	K11- 13 丸	PL42	青磁碗	口縁部破片				淡灰赤色	精良	良好	外面に花卉 文	龍泉窯Ⅰ- 5型
359	D17 乳含帯	PL42	青磁碗	底形破片				淡灰緑色	精良	良好	外面に花卉 文	龍泉窯Ⅰ- 5型

木製品

遺物 No	遺物名	写真図版	種 類	部 位	遺物 No	遺物名	写真図版	種 類	部 位
360	SD1	PL44	漆器碗	碗底部	370	K11 包含帯	PL46	下駄	縁部欠損
361	SP1	PL44	漆器	断片	371	C16 包含帯	PL46	下駄	ほぼ完存
362	SD1		漆器碗	口縁部	372	SD2	PL46	下駄	縁部欠損
363	SD9		漆器碗	口縁部	373	K9 包含帯	PL45	下駄	縁部欠損
364	SD1		用途不明		374	SD9	PL45	下駄	縁部欠損
365	G6 包含帯		紡錘車	輪部欠損	375	SD1	PL45	F駄	ほぼ完存
366	SE10		木鍔	部分欠損	376	SD16	PL47	下駄	歯部欠損
367	SD15		木鍔	部分欠損	377	K9 包含帯	PL47	F駄	縁部欠損
368	SE16	PL44	鈴	部分欠損	378	SE9	PL47	下駄	断片
369	SD1	PL45	下駄	ほぼ完存					

鉄製品

遺物 No	遺物名	写真図版	種 類	備 考	遺物 No	遺物名	写真図版	種 類	備 考
379	K6 包含帯	PL49	用途不明	長6.9	384	SE13	PL48	包丁	長29.7
380	SE13	PL49	用途不明	長10.1	385	K13 包含帯	PL49	杖	長19.4
381	SP136	PL49	刀	現在12.8	386	SE8	PL49	刀子	長12.2留孔
382	J14 包含帯	PL49	刀	現在15.4	387	SD18	PL49	刀子	長21.6留孔
383	J14 包含帯	PL49	鎌	長18.9	388	SE3	PL49	刀子	長19.9留孔

第4章 まとめ

福万寺遺跡で検出した中世の建物、井戸、土坑、溝などの遺構は2つの屋敷跡を構成するもので、これらの屋敷地は溝及び道路状遺構で区画され、調査区の南東側と北西側に位置している。またSD1とSD2によって区画される道路遺構SR1は、現在の福万寺町南と上の島町北の境にある里道の直下にあり、そこは同時に河内群条里と高安群条里との条里制の上での界界に一致している。

この二つの屋敷地は、道路状遺構SR1を挟んで互い違いに向かい合っている。南北幅は不明であるが、北の屋敷地は東西30mを測り、南側の屋敷地は、東西40mを測る。北側の屋敷地は、建物2棟以上、西側に柵列、南側に堀状遺構、東側に井戸などを備える。屋敷地の南側にある土坑は炊事施設かと思われる。屋敷地の西側と東側の低地部分は耕作地であったと考えられる。南の屋敷地は、敷地の北東側に庭園と思われる池状遺構、その西側、南東側、南側にその池を取り囲むように3棟の建物がある。特に西側の礎盤をもつ大型建物はこの屋敷地の中心的な建物の一つであると考えられる。この建物群の南東側には井戸が集中している。またこの屋敷地西側の低地も耕作地であったと思われる。

これらの遺構の時期は、瓦器碗の編年によると古相を呈するA類の瓦器碗が尾上氏編年のⅢ-2期、白石編年のⅢ-1型式とされているものに近く、当麻寺登茶羅堂出土資料の中で寛元元年(1243)の仏壇製作時のものとされる瓦器碗に比定されている。最も退化したE類の瓦器碗が尾上編年のⅣ-3ないし4期に比定され、狭山遺跡のSD7781の瓦片積より1408年初鋳の永楽通宝を伴って出土しているものに類似している。またこの型式の瓦器は西ノ辻遺跡で元徳2年(1330)の紀年木簡と共存することより、14世紀中葉～後半の時期中が考えられている。このことから当遺跡の存続期間は13世紀前半を上限とし14世紀後半～15世紀前半を下限とすることができる。このことは、中国磁器においても12、13世紀に盛行する同安窯系青磁が極めて少なく、青花白磁を含まない点においてもこの事実を物語っている。また青白磁の合子、小皿は12世紀代の経塚に伴例が古くより知られていたが最近草戸千軒遺跡では、それが出土する時期が当遺跡の例と同じ14世紀代に集中するという事実が述べられている。さらに中国磁器全体としては、口禿の白磁皿Ⅸ類を含むが龍泉窯系青磁碗Ⅲ類が見当たらない点で、至治三年(1323)以後の14世紀前半に沈没したと想定されている新安海底遺物より古相のものが多数を占めることを指摘することが出来る。また、陶器においては、ほとんどが東播磨系で備前焼を全く含まない点は当遺跡の下限を15世紀以後に下げることが難しくしている。

先述したとおり玉櫛荘の初見は11世紀初めであり、それが、この付近における条里遺構出現の時期に一致しているらしいことが最近の調査成果より明らかになりつつある。この荘園は、

この付近に存在する御野県主神社の存在や三野郷という地名、さらに14世紀に美野勤旨田の記載が見られる事よりこの付近が10世紀まで若江、渋川郡に本拠をもっていた美努氏によって開発されたであろうことは創造に難くない。そして11世紀初頭玉櫛荘の記載が認められるが、その後玉櫛の荘は撰閥家として15世紀以降まで存続していたらしいことが文献によって明らかにされている。

当遺跡の遺構と関連する時期の史料は極めて少ないが、弘安四年（1281）に玉櫛庄住人吉弘と八幡神人が恩地新出のことから争いになったことが「勅仲記」に記されており、当遺跡の屋敷地が存在した当時の玉櫛荘に居住していた人々の様子を何うことのできる史料として注目すべきである。彼らは後に「悪党」と呼ばれるような本所に従わない在地領主または武士化した有力名主層のひとりであつたに違いない。かれら行動範囲は広く、街道の通行を押さえ、商業上の交易権や新田の開発をめぐる寺社勢力を背景として活動を行っていた同様の神人達と利害をめぐる対立していたことが考えられる。それではこの当時の玉櫛荘の状況が本調査で検出した遺構遺物にどのように反映されているかを次に推測してみたい。

中世の畿内における荘園の特色のひとつは均等名荘園であるとされている。例えば一乗院領池田庄丸帳によれば、田畠屋敷より構成される名が、田畠2町前後の均等名によって成り立っており、屋敷地は一反程度であったことを述べられている。当遺跡の屋敷地の存在状況は、よくこの事例に当て嵌まり、付近の調査によって南北に同時期の屋敷跡の存在を想定し難いことを考えれば、資料が少ないので想像の域を出ないが福万寺と上之島との境に位置する里道の南北に一町ごとに一反一一反の屋敷地が存在すると想定すれば、その東西に一町、南北に二～三町程度の田畠がそれに伴っているのではないと思われる。このような屋敷地と耕作地の存在形態が明らかになれば、中世の玉櫛荘における荘園の経営形態を復元することが出来るかも知れない。いずれにせよ散碎的な屋敷地の存在形態は、一定の領域内に屋敷地が集合する近世以後の村落形態とは全く様相が異なっており、郷村制成立以前の屋敷地の存在形態の一例を示しているものと思われる。そしてこの屋敷地に居住していた住人は、言うまでもなく「百姓」とよばれた中小の名主層であったことは想像に難くない。彼らは、直接農業経営に携わりながらも、畿内の先進文化を身につけた武士的側面を持った人達であったことを掘状の施設や円池と思われるものをもつ屋敷地の遺構と中国磁器や刀や刀子など金属製品、宋銭、木製品、硯等の内容豊かな出土遺物がものがたつているように思われる。

なお中世の遺構面より上層に被っている厚い砂の堆積層は、後世にこの付近が大規模な水害があったことを示

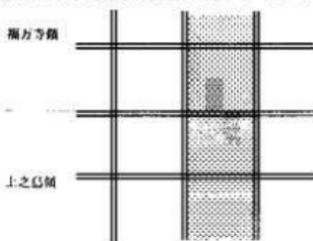


図79 福万寺遺跡屋敷地田畠復元図

表5 福万寺遺跡関係年表

西暦	年号	事 象	出 典
917	延喜17	美努常真若江郡三条竹村里の田を信貴山領として施入	信貴山資材宝物帳
936	承平6	美努忠貞波川郡三条利司里の田を信貴山に施入	信貴山資材宝物帳
997	長徳3	若江郡美努公忠等が美努兼倫を檢非遺使庁に訴える	北山抄表文書
1015	長和4	河内郡玉串荘から牧地の件で辛島荘と争い公験を求め訴え、若江郡司源訪が玉櫛荘下司となる。	小右記
13世紀前半		屨敷跡S E 16など古相の遺構使用される。	
1281	弘安4	玉櫛荘住人吉弘恩智新田をめぐる喧嘩に及び神人別安を射たことで八幡神人訴訟す。	勅仲記
1282	弘安5	玉櫛庄住民古弘日占神人と称し本所に従わず。	勅仲記
1314	正和3	尊治親王令旨案七条院御領美野勅旨山を四辻宮親王家に返還する。	東寺百合文書
1352 -55	文和 年中	佐々木盛綱8世の孫佐々木二郎盛恵の居城福万寺城があったという伝承。	大阪府会誌
1383	永徳3	相国寺領玉櫛荘が摂政家に寄進される。	後鑑
14世紀後半 ~15世紀前半		屨敷跡廃絶する。	
1468	応仁2	平等院領河内国玉櫛荘内定田盛田諸關所公事銭等を武家の下知に任せる旨の院宣が出される。	安本文消息類
1533	天文2	洪水で大和川植松堤切れる。	林文書
1534	天文3	玉櫛衆が木沢長政、法華衆と合戦	私心記
1544	天文13	畿内洪水、摂津河内被害甚し	皇年代略記
1560	永祿3	三好長慶、畠山高政の兵を河内玉櫛で破る。	細川両家記
1563	永祿6	河内国で水害おこり人民一万六千余死す。	江源武鏡
1576	天正4	石山合戦に玉櫛荘より加勢する。	石山合戦文書

しているが、16世紀以後には大和川の氾濫や河内国の洪水の記事が散見される。このことから、当遺跡の廃絶以後はこの付近が土砂の堆積により天井川と化した玉梅川の氾濫原となり、荒地地となっていた可能性が強い。ここに再び条里水田が復元されるのは、やはり18世紀初頭の大和川付け替え以後まで待たなければならないであろう。おそらくこの間に戦乱や洪水によって玉梅井は衰退し、史上から姿を消すことを余儀なくされたのではないだろうか。

参考文献

- 棚橋利光 『八尾の条里制』八尾市史紀要 1976
安田元久 『日本荘園史概説』1957
沢井治三編 『八尾市史史料編』八尾市教育委員会 1960
森田康大編 『八尾市編年史古代中世編』八尾市図書館 1980
井上政雄編 『大阪府全史』
白石太一郎 「いわゆる瓦器に関する二三の問題」『古代学研究54号』1969
尾上実 『狭山遺跡・経里遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会1978
尾上実 「南河内の瓦器碗」『古文化論叢』1983
森島康雄 「西ノ辻周辺における中世土器の編年」『神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査整理概要Ⅳ』大阪府教育委員会 1989
郷良漢 「新安発見の陶磁器の種類と諸問題」『新安海底引揚げ文物』1983
西谷正 「新安海底発見の木簡について」『九州文化史研究所紀要第30号』1985
丹治康明 「東播系須恵器について」『中近世土器の基礎研究』中世土器研究会 1985
岡堂忠彦 「備前焼の編年と分布」『高槻県立博物館調査報告』第3冊 1982
佐藤昭嗣 「大上裕土「草戸千軒出土の青白磁合子、小壺について」『考古学雑誌75巻1号』1989

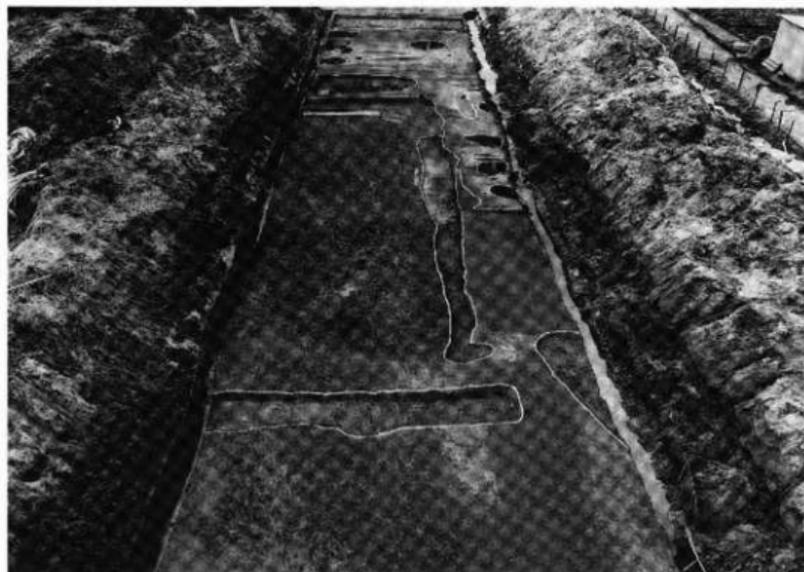
後 記

福乃寺遺跡を調査してから早くも7年の歳月が経過した。当初遺跡の存在さえ予想し得なかった為に十分な調査期間も取れない無理な調査であったがよくこれだけの成果が挙げることができたのだと今更ながらに思う次第である。これも調査の実施に尽力していただいた作業員、調査補助員諸氏と当時の教育委員会施設課の皆さん、側面から御援助下さった大阪府教育委員会の多野薫氏の多大な御協力の賜物であると信ずる。なおそれにも拘わらず7年も報告書の刊行を遅らせたことは、一重に筆者の怠慢によるものであり、この歳月の経過の間に忘却してしまった多くの事柄を思うと、調査終了後すぐ整理事業に専念できたならばもっと充実した内容の報告ができていただろうと後悔している次第である。なお中国磁器については奈良女子大学の坪之内徹氏の御教示を得、編年表の作成に当たっては神戶東短期大学の森田康夫氏、八尾市歴史民俗資料館の小谷利明氏に助力していただいたことを記しておく。

圖 版



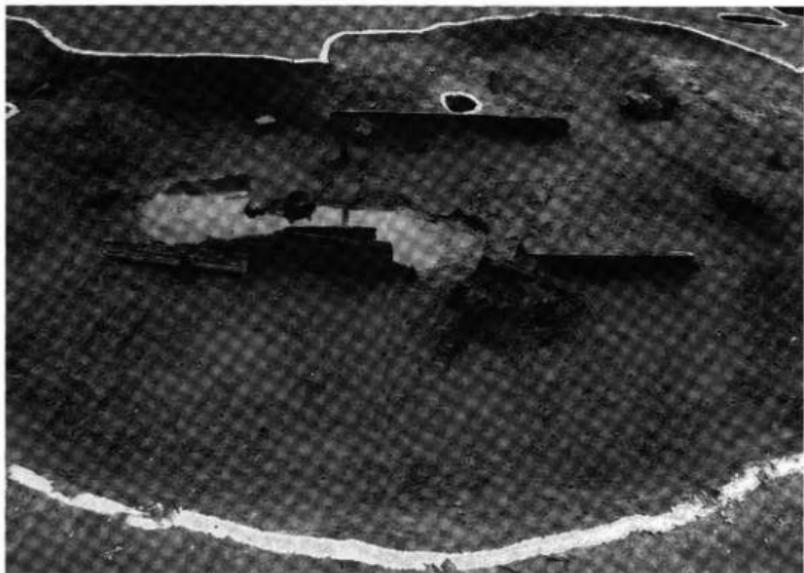
北調査区西側全景



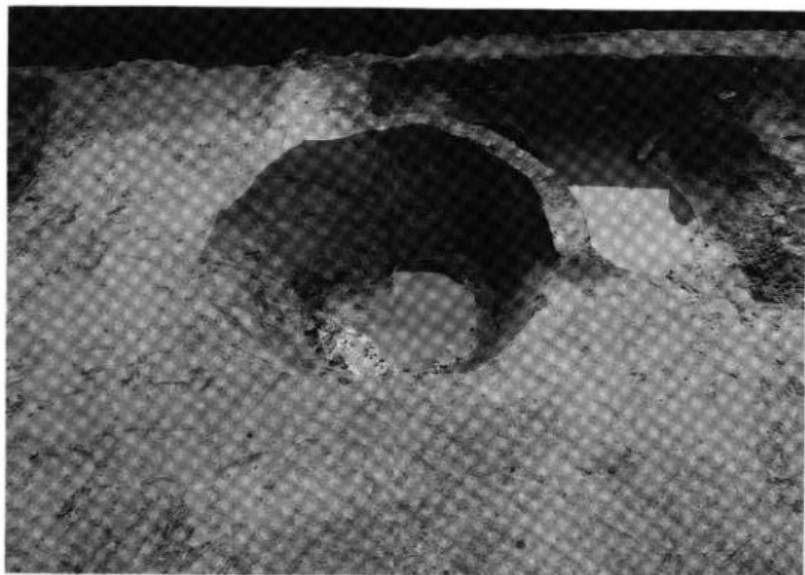
北調査区東側全景



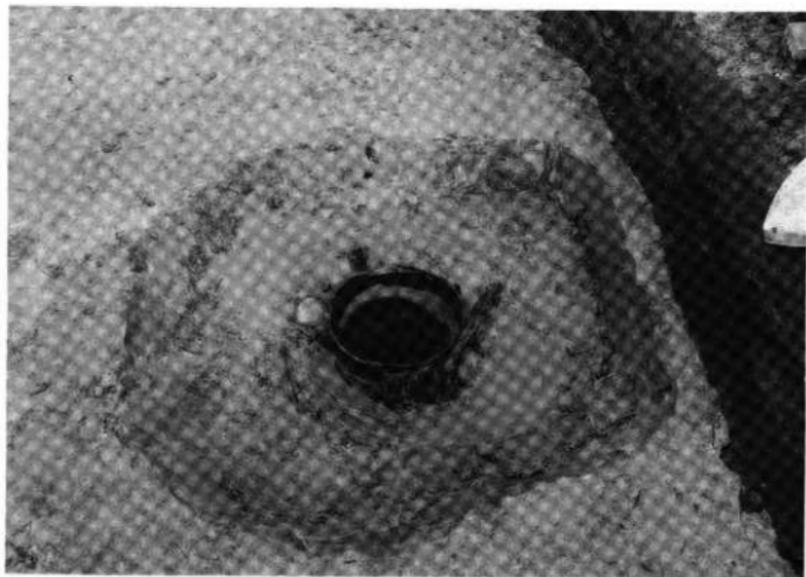
北調査区建物 (SB1, SB2)



北調査区土坑 (SK2)



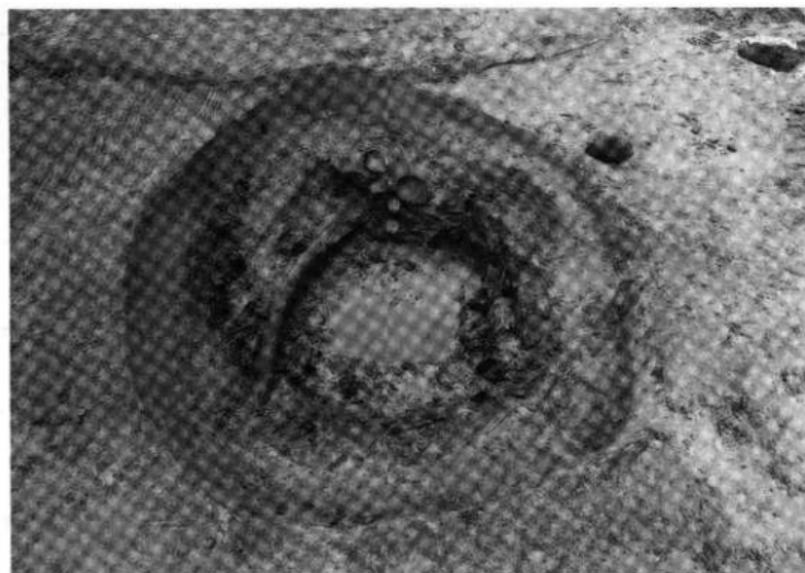
北調査区井戸 (SE 5)



北調査区井戸 (SE 6)



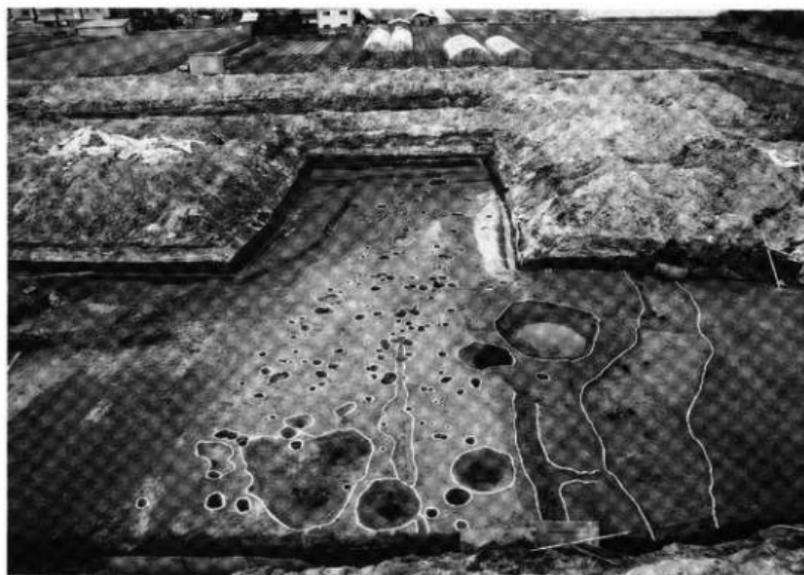
北調查区井戸 (S E 9)



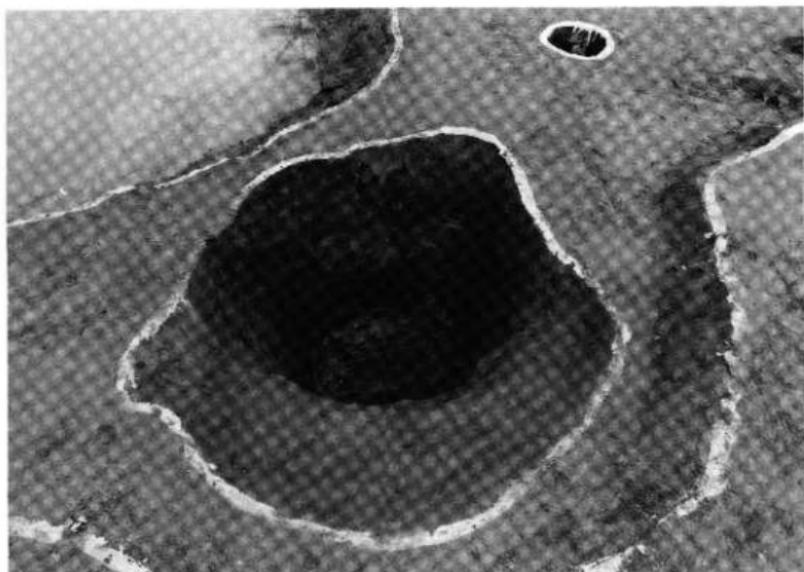
北調查区井戸 (S E 10)



南調査区全景



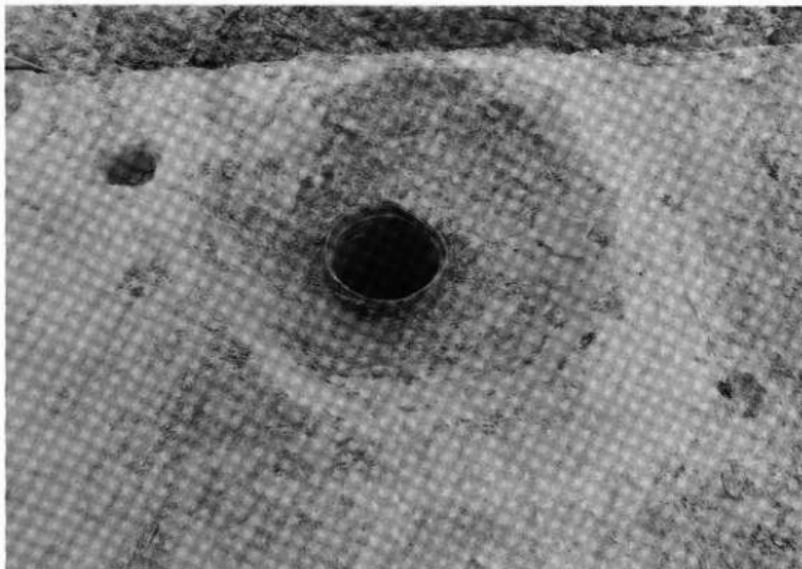
南調査区建物 (SB3.4)



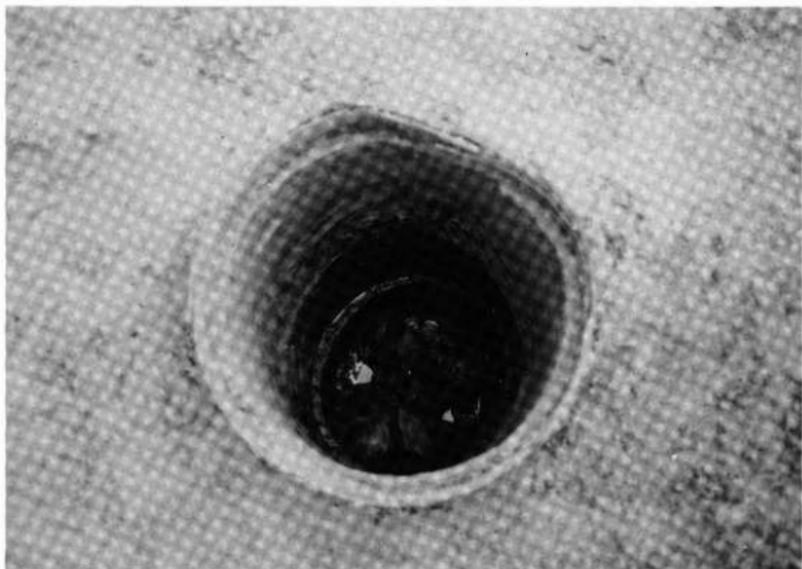
南调查区井尹 (S E 11)



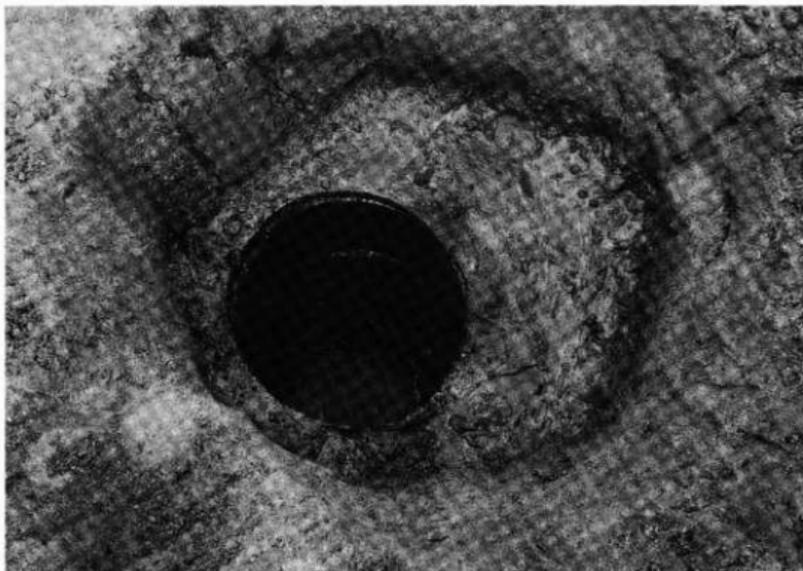
南调查区井尹 (S E 12)



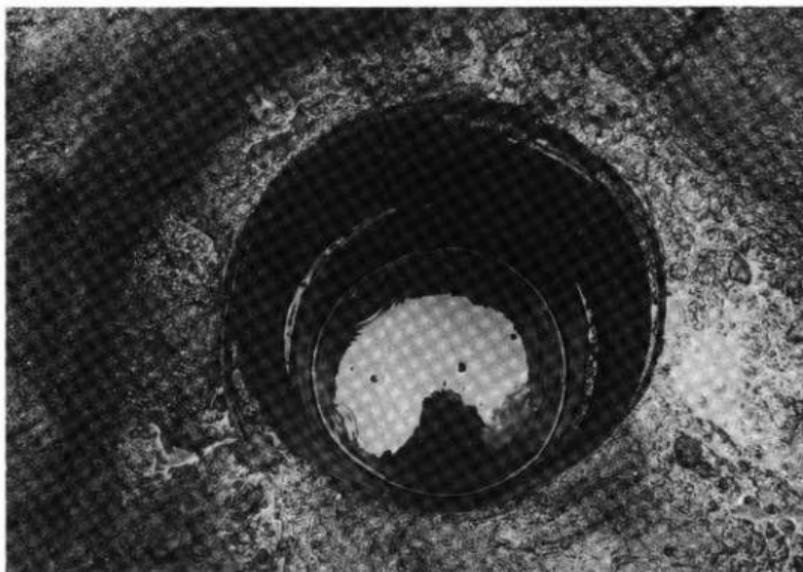
南调查区井严 (SE13)



南调查区井严 (SE13井筒内)



南調査区井戸 (S E 16)



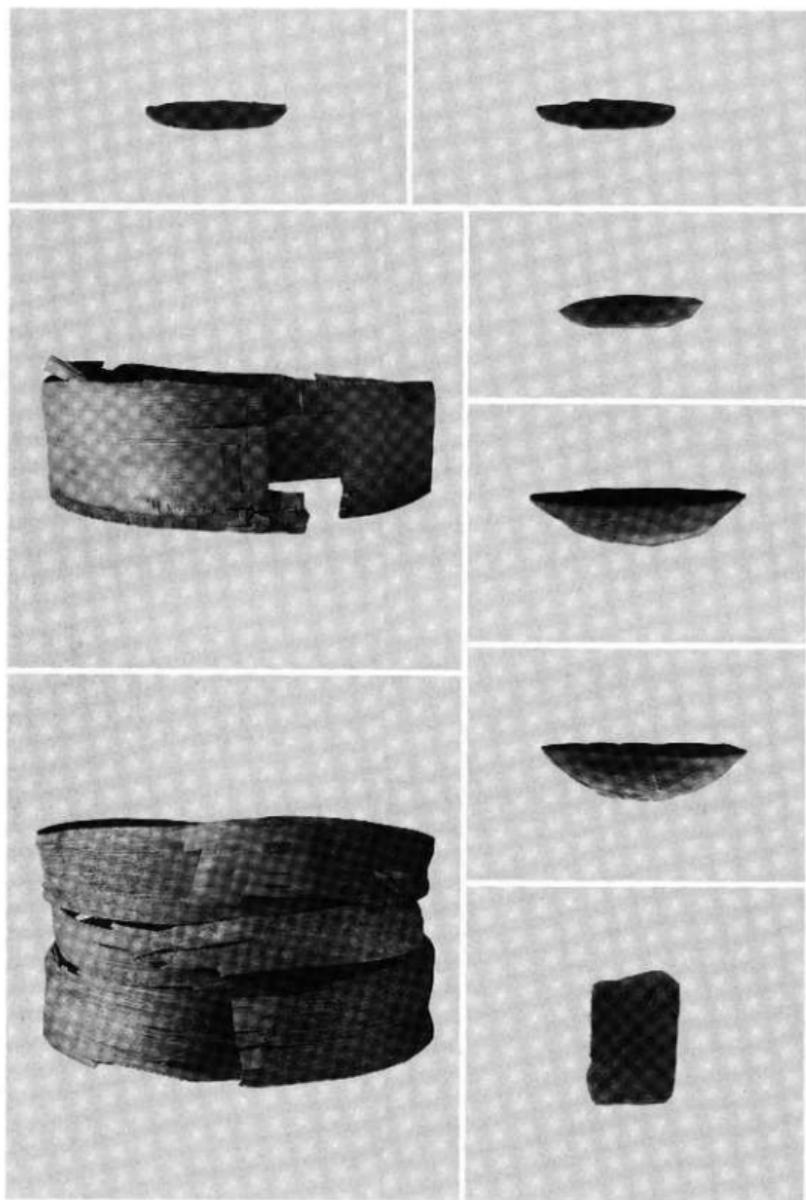
南調査区井戸 (S E 16井筒内)



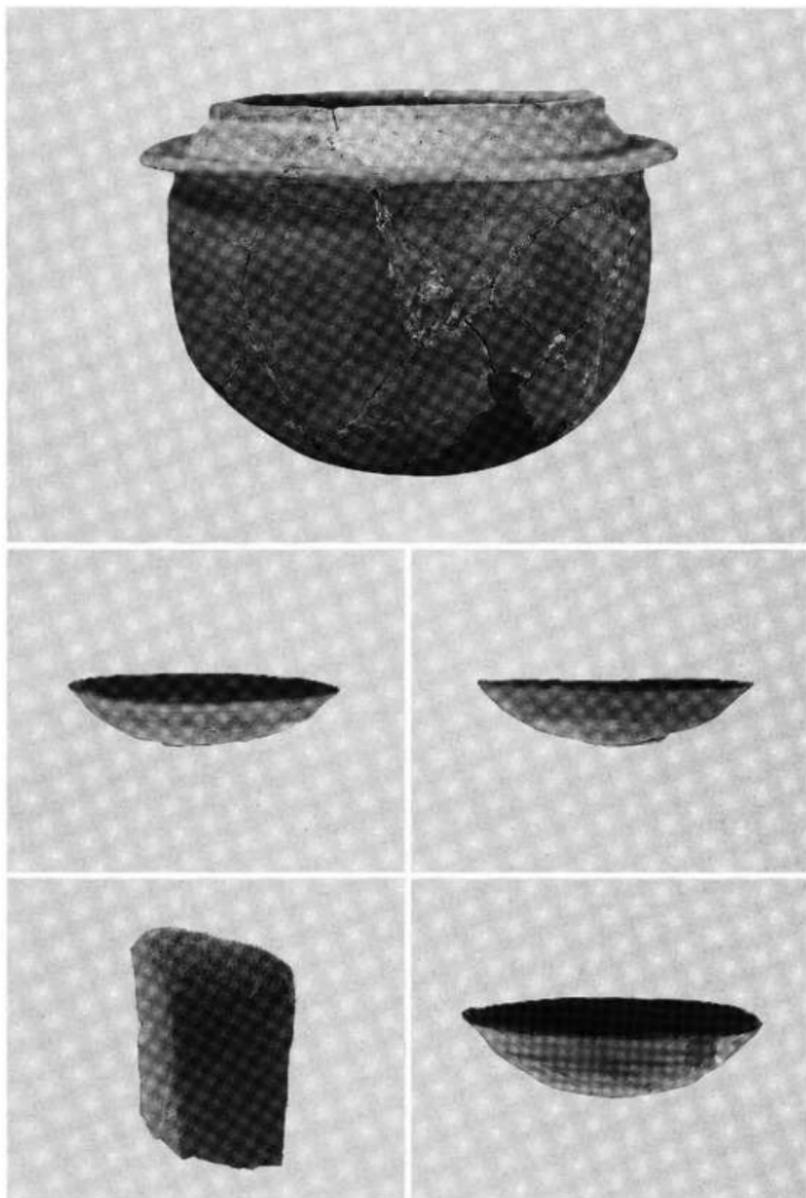
北調査区里道 (SR1)



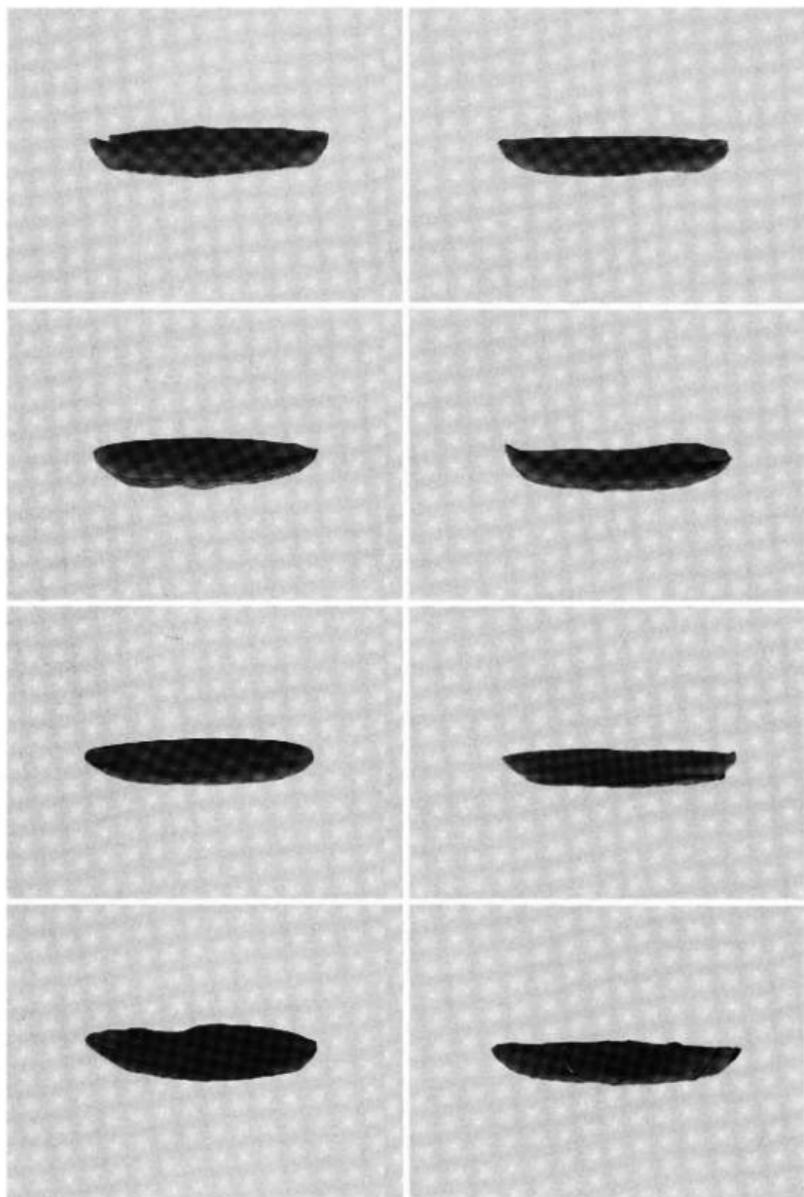
南調査区里道 (SR1)



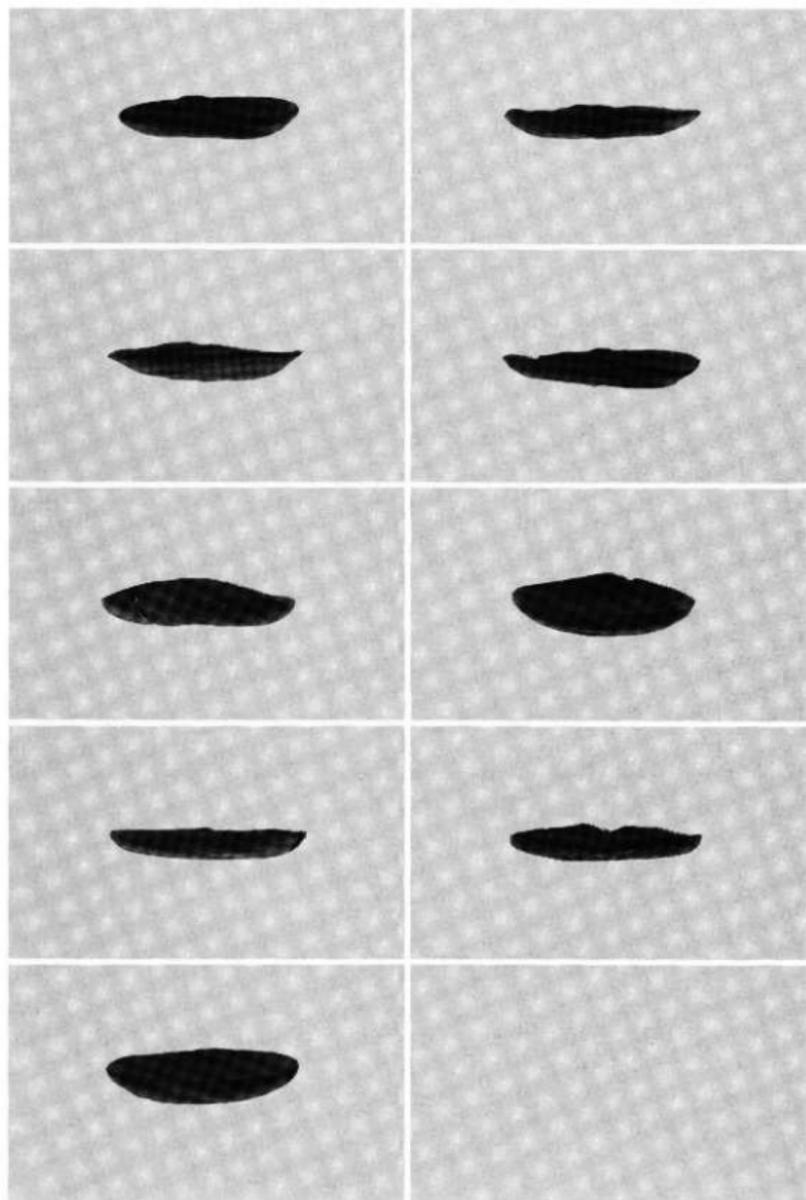
SE3瓦器皿・SE6瓦器皿、瓦器椀、砥石、曲物

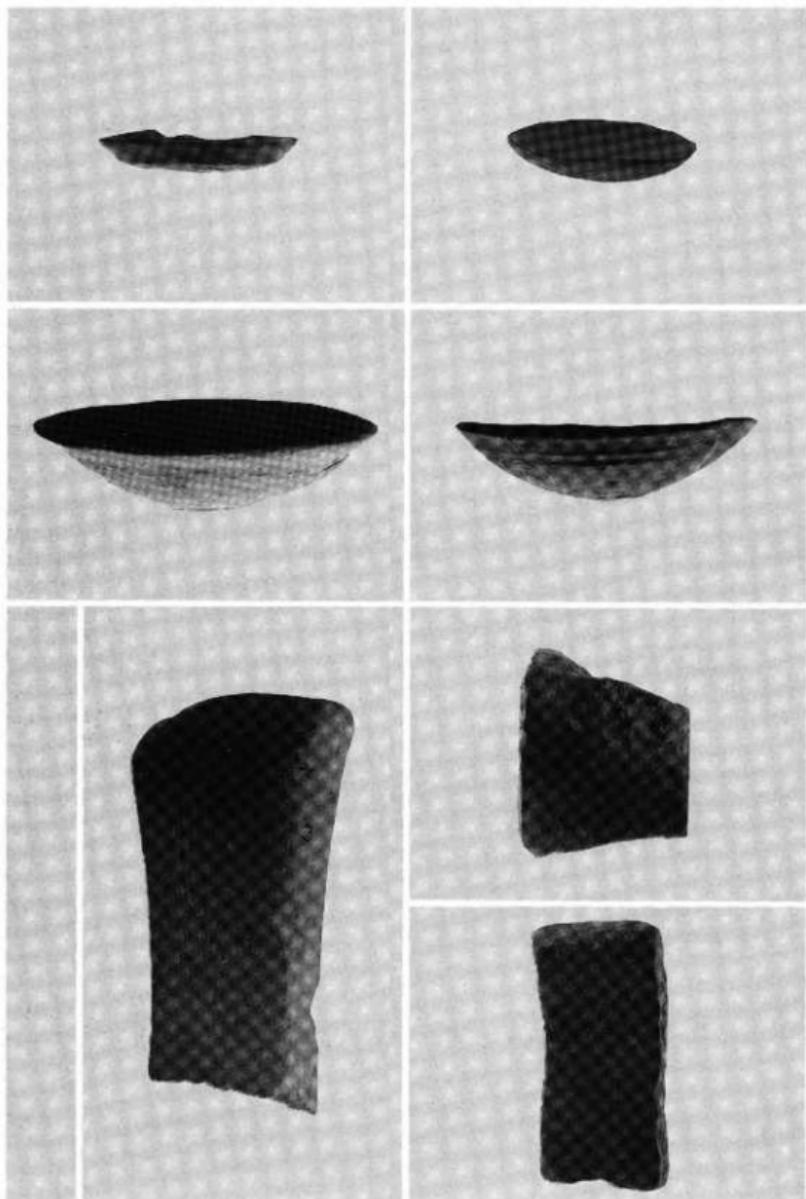


SE 9羽蓋・SE 10瓦器柄、磁石

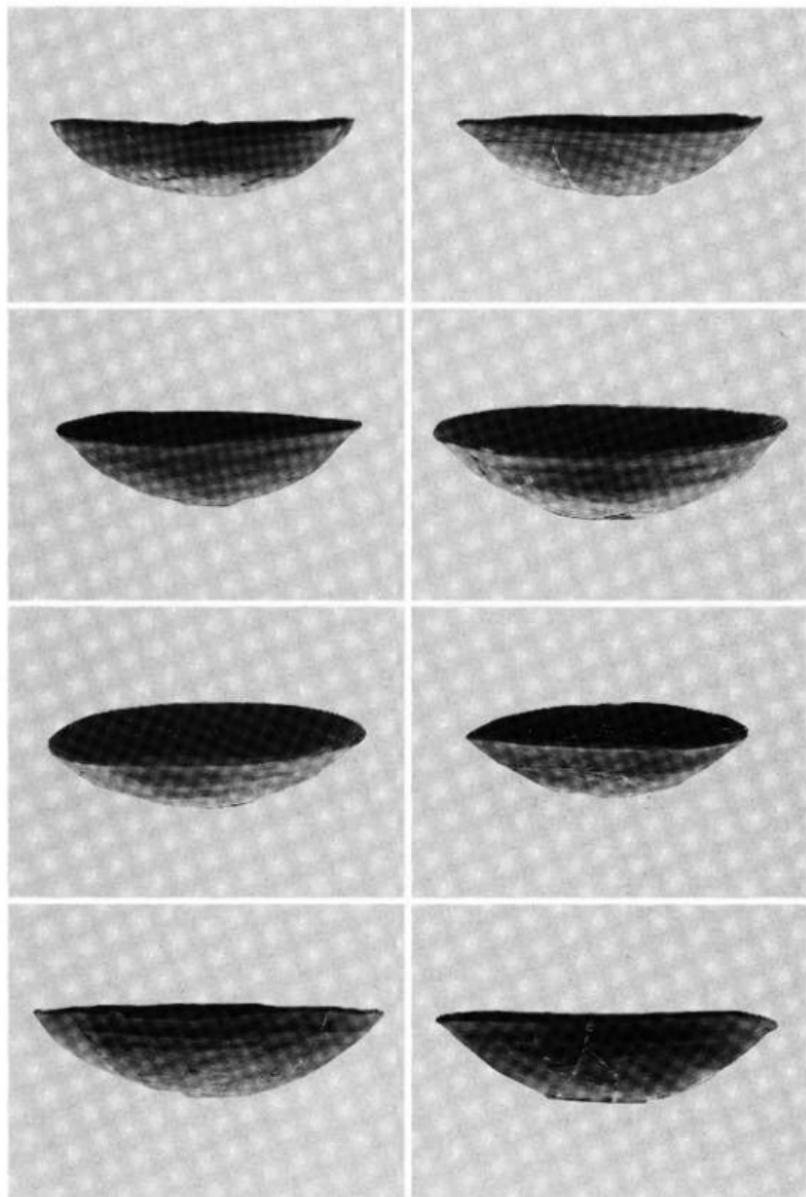


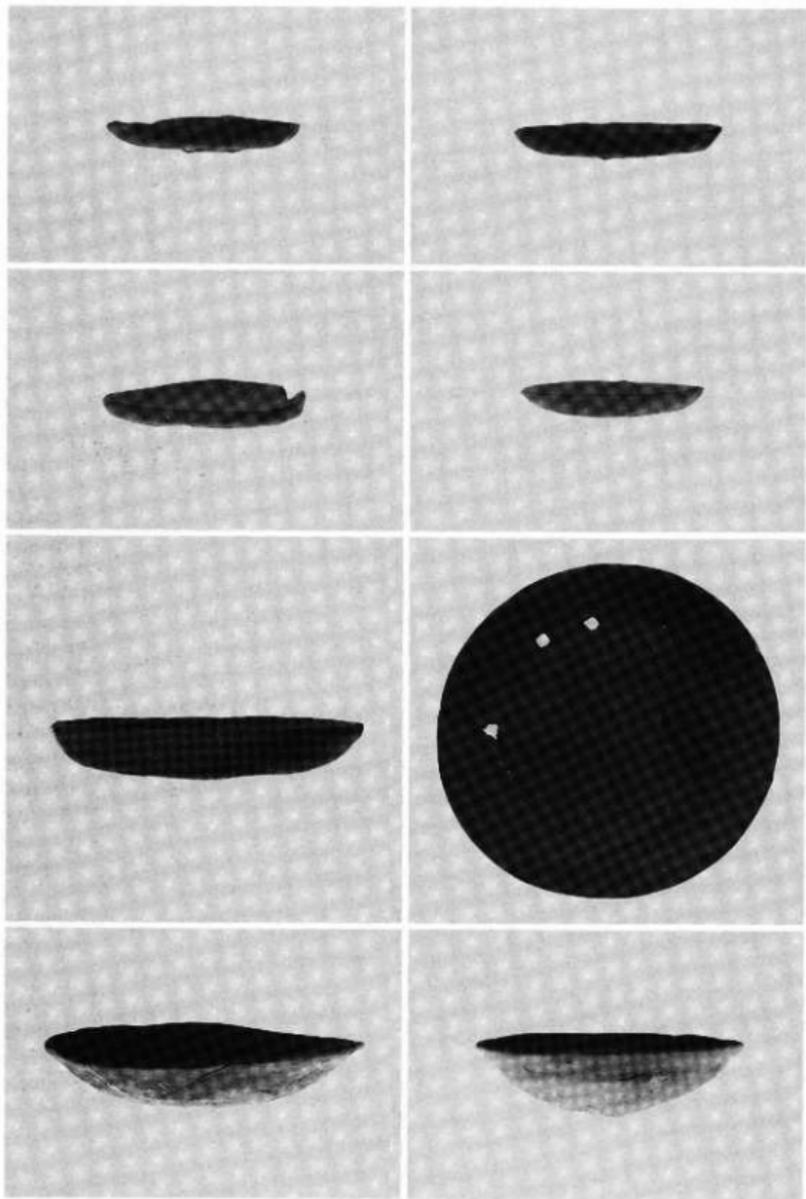
S E 10土師器皿



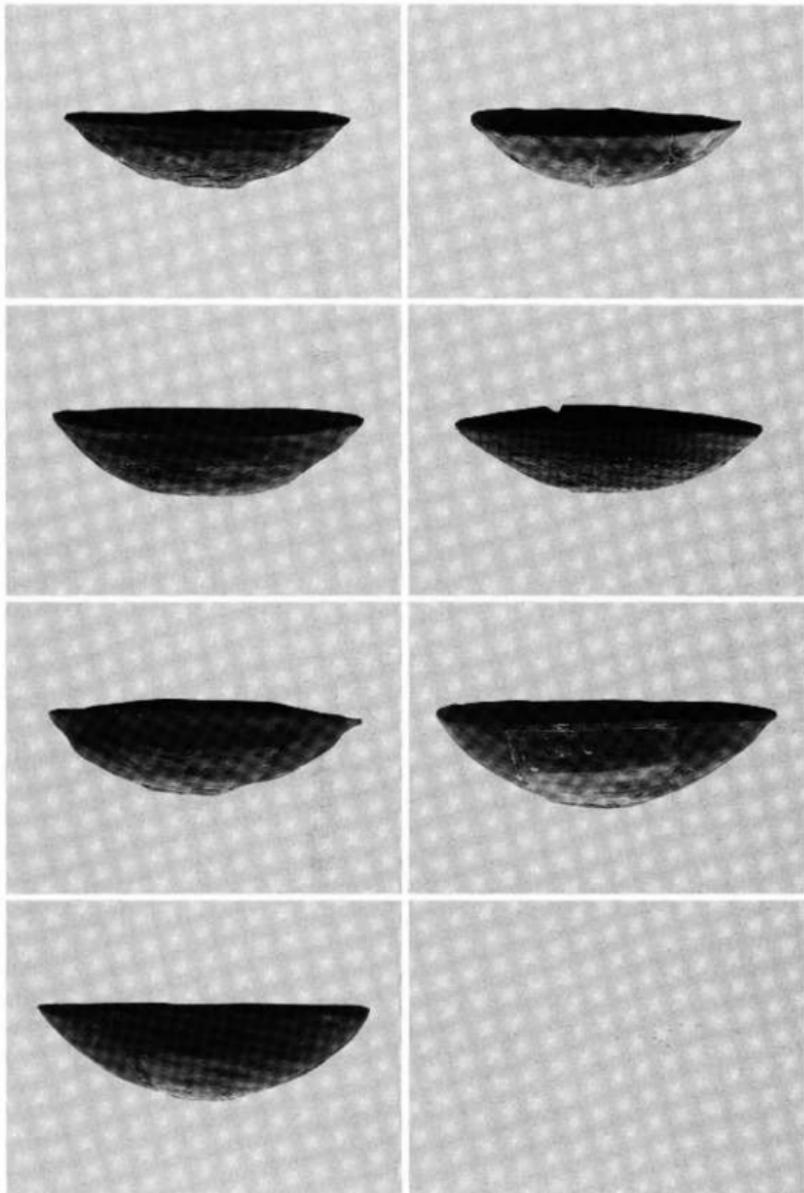


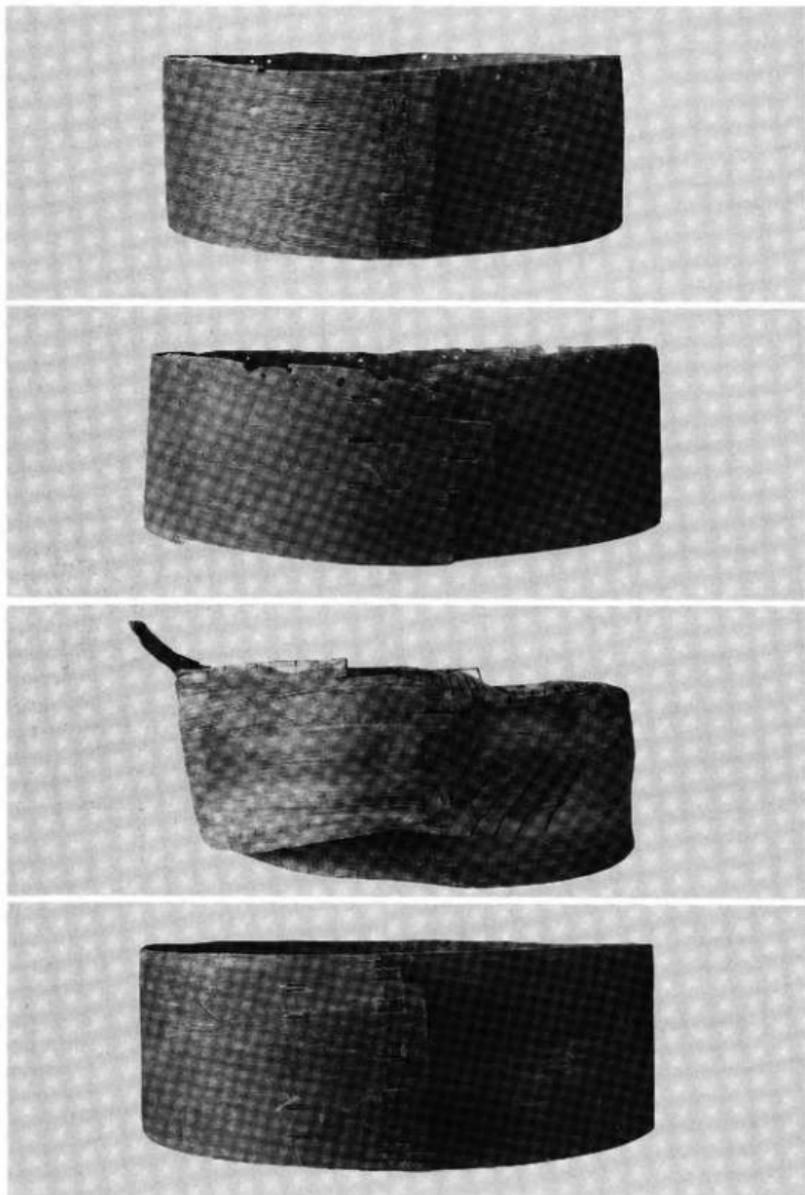
SE11瓦钵皿、瓦器枕、砚石

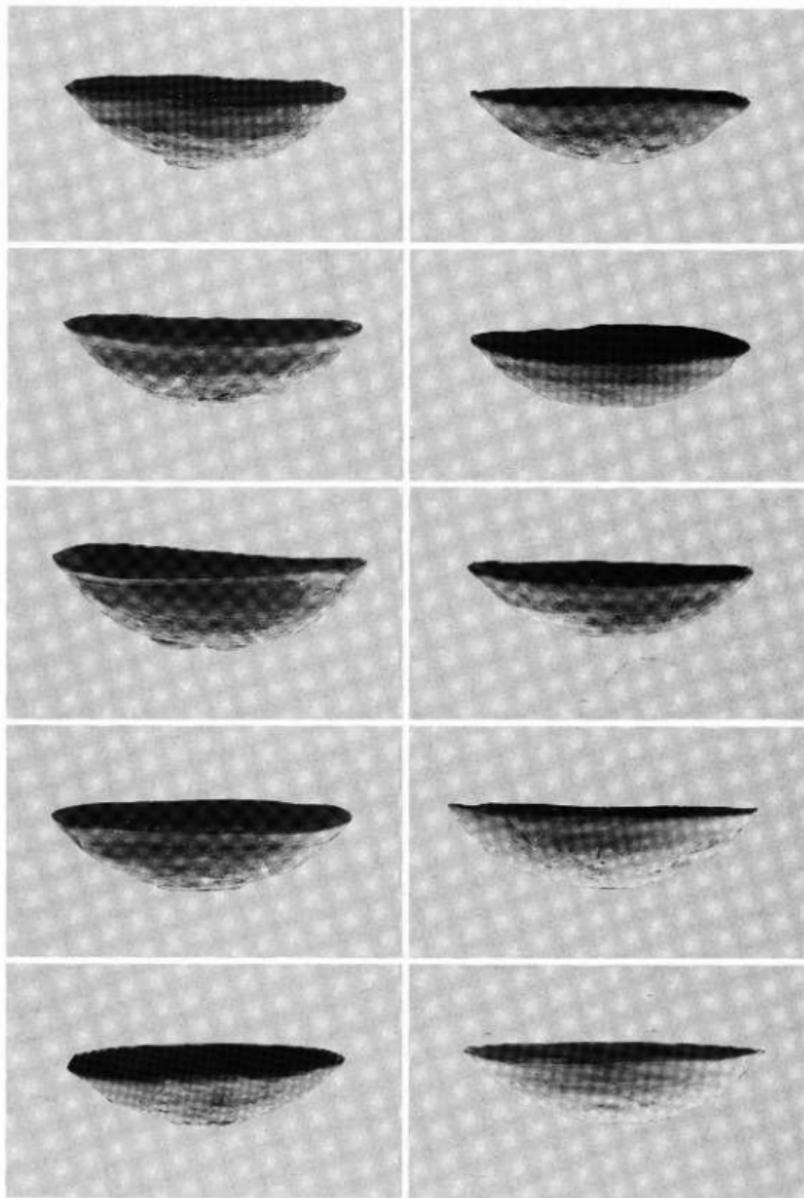


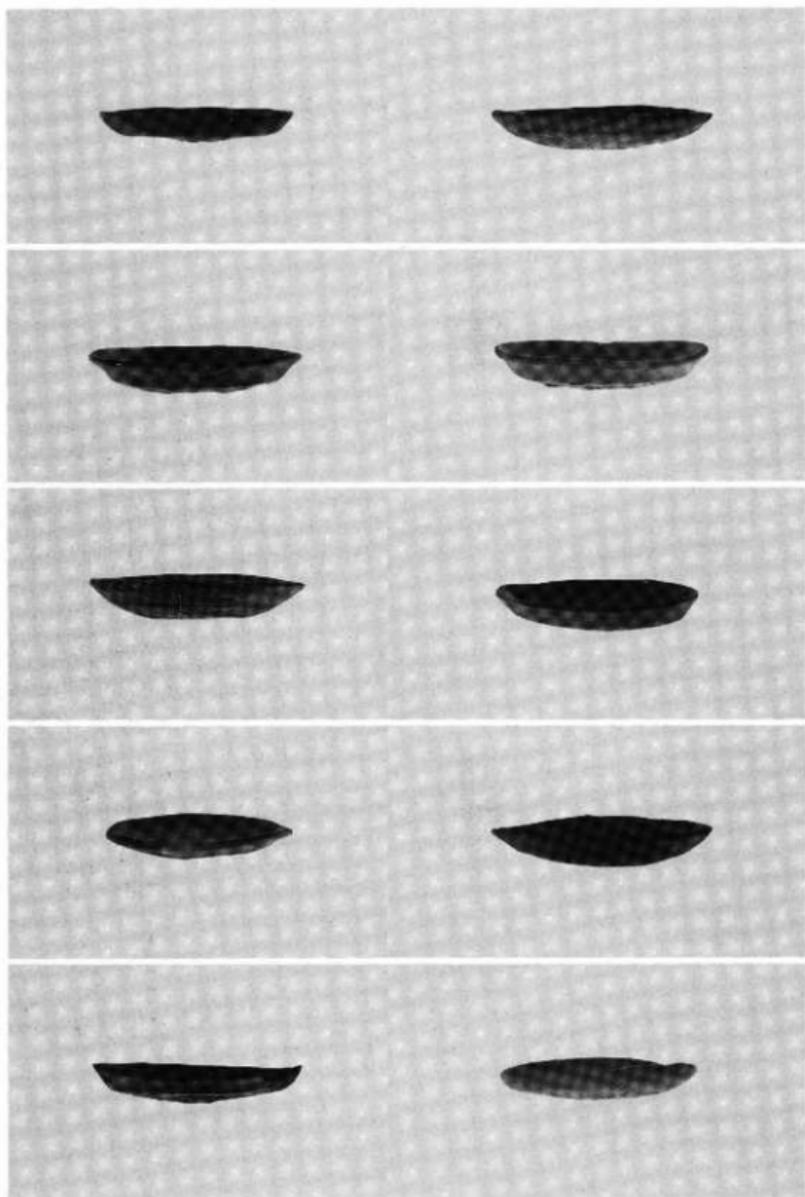


SE13土器器皿、瓦器残

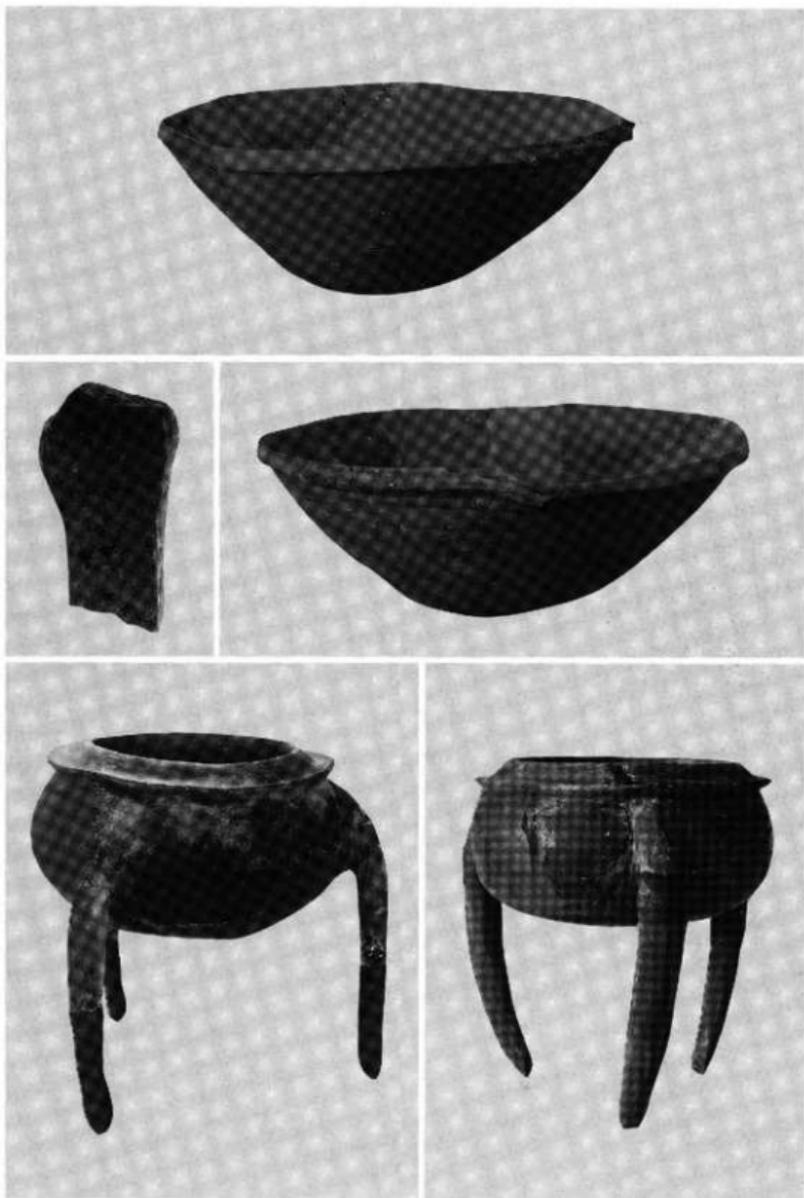




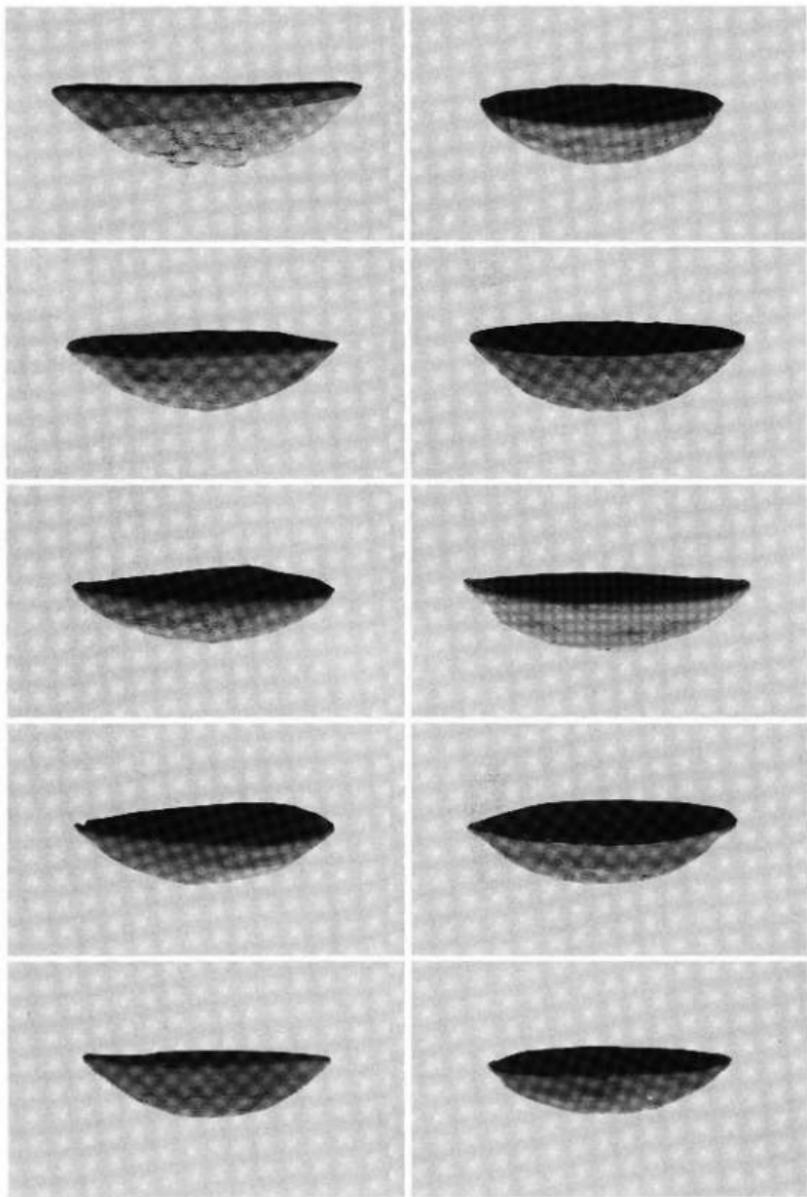




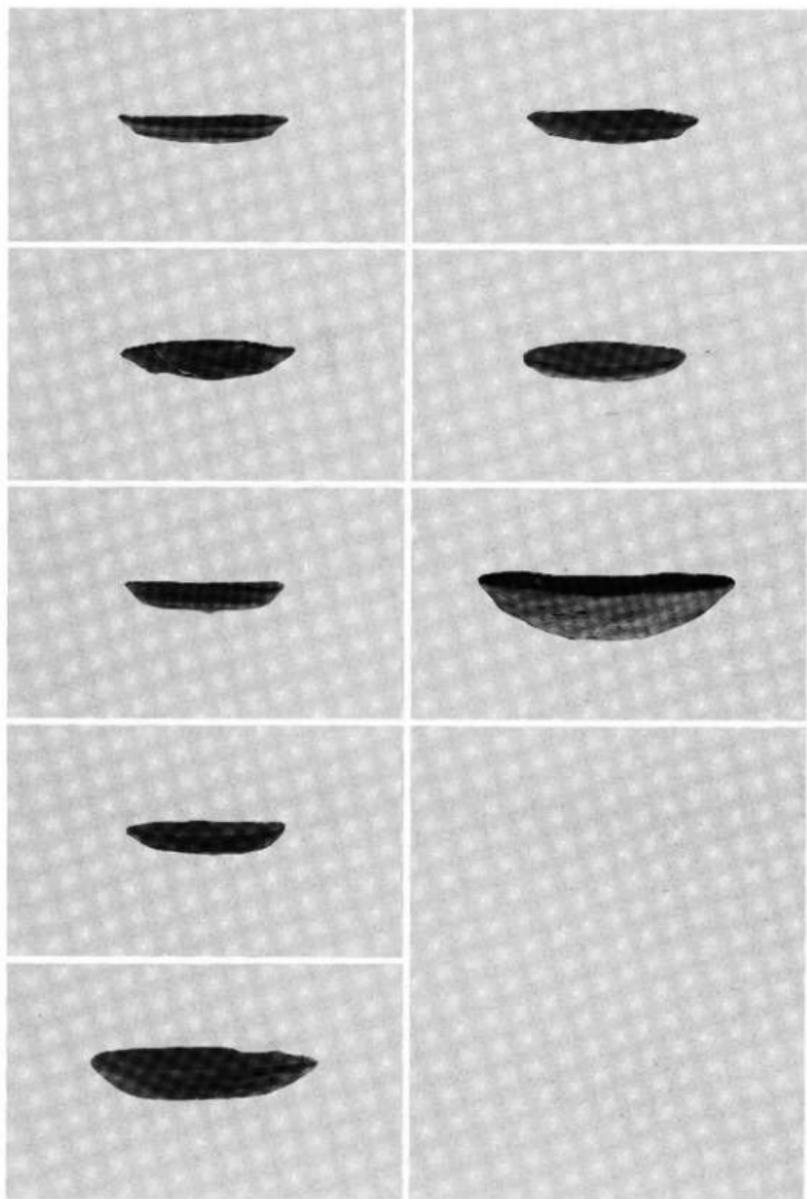
SE8瓦器皿・SE16瓦器皿、土器器皿



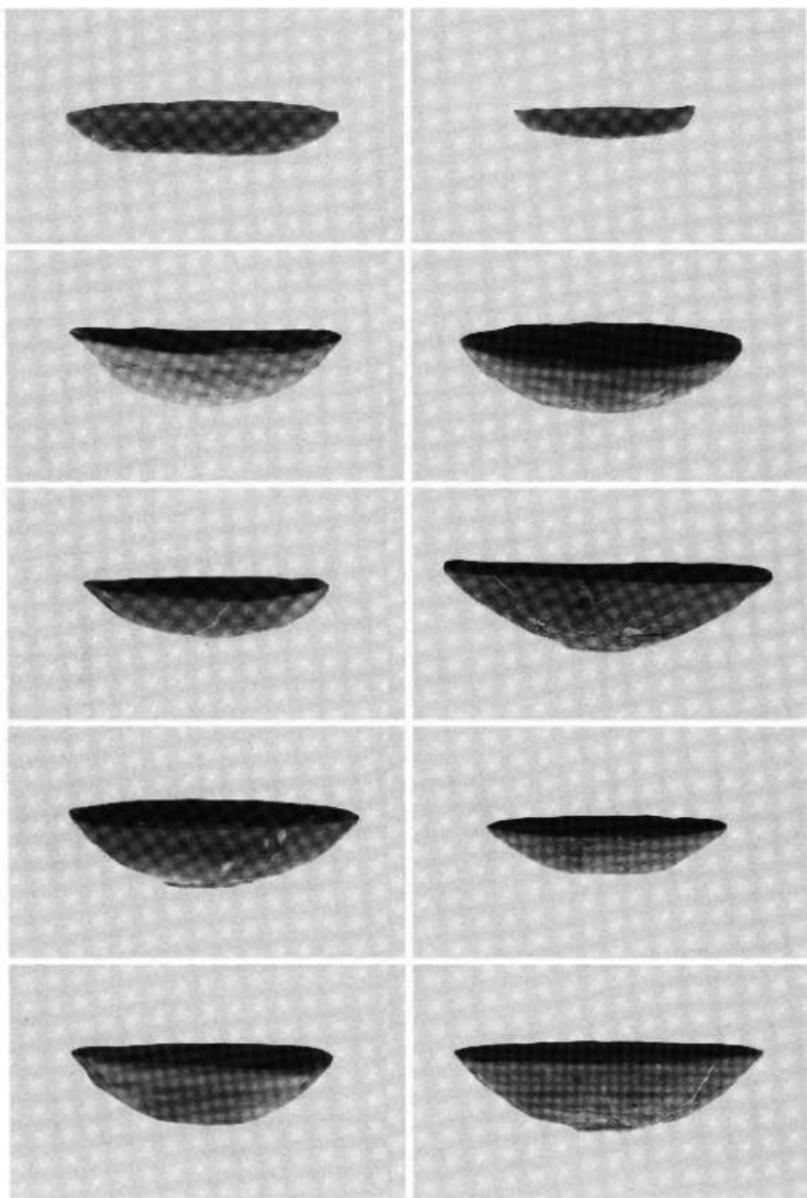
SE16片口鉢、礫石、三足釜



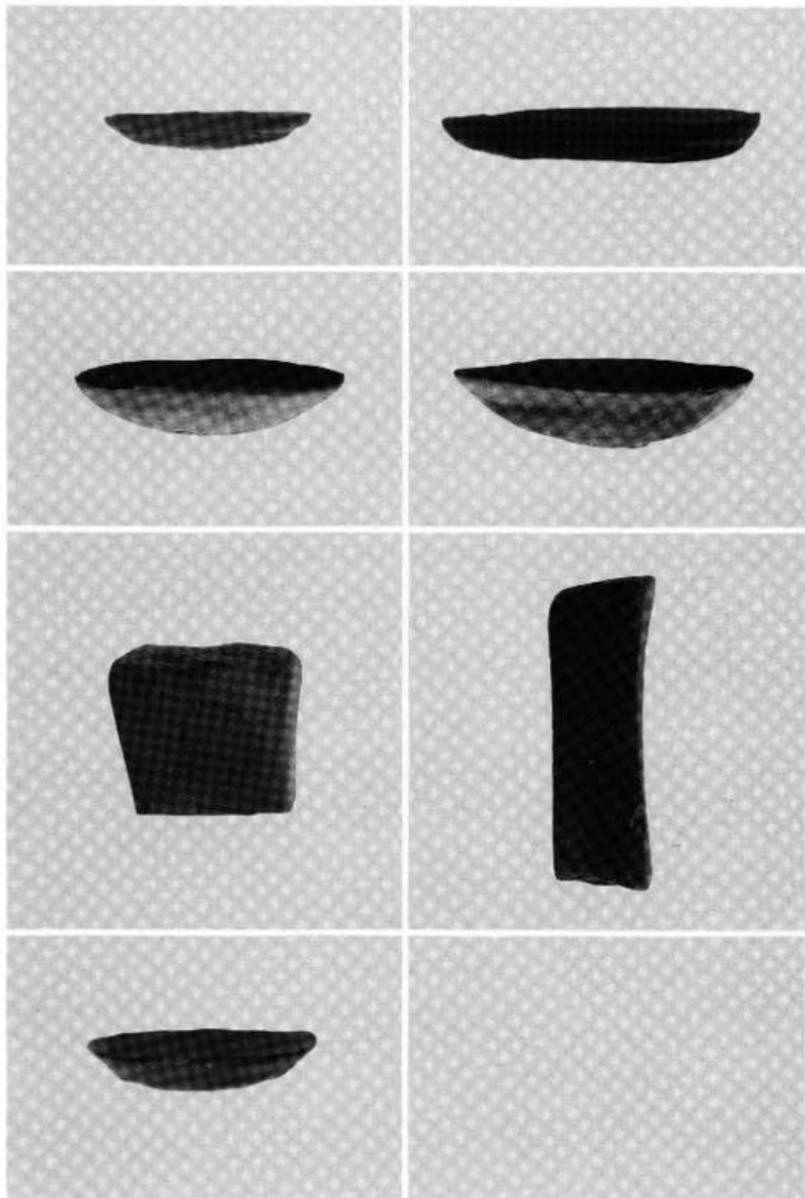
SD1 瓦器模



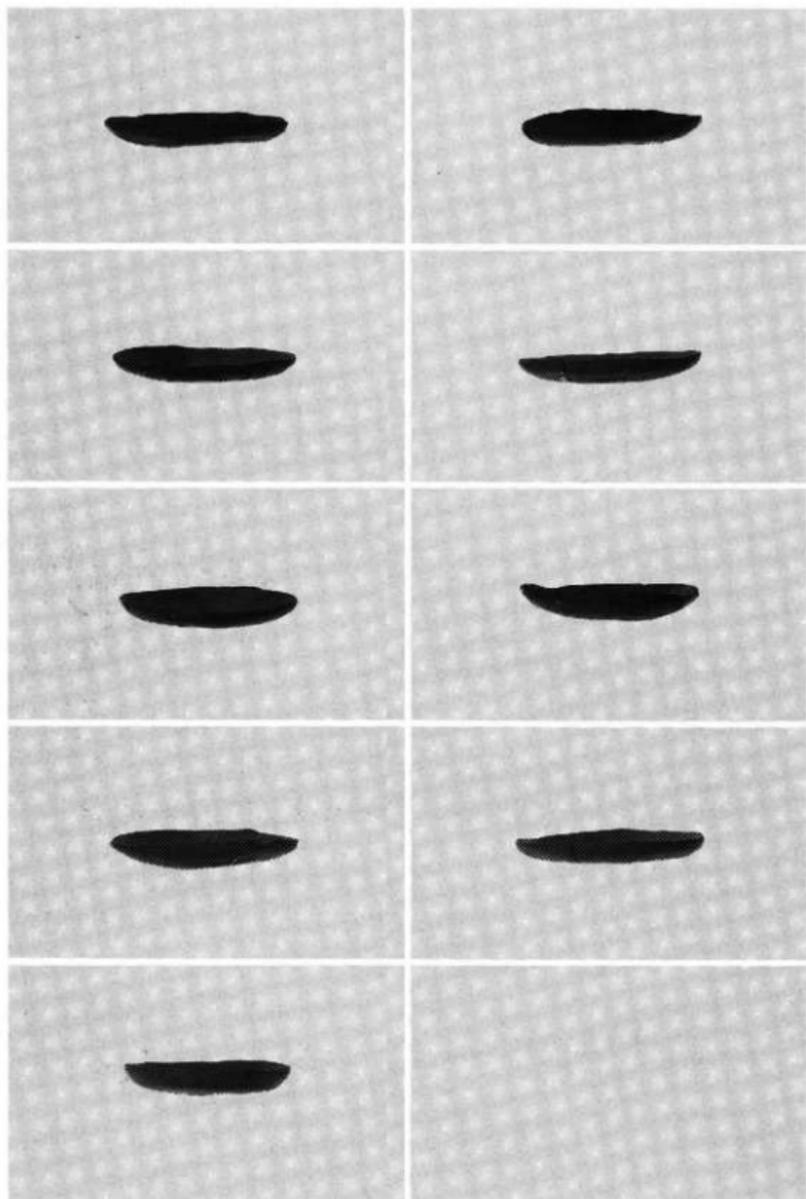
SD1瓦钵皿、土师器皿・SE17土师器皿、瓦钵碗



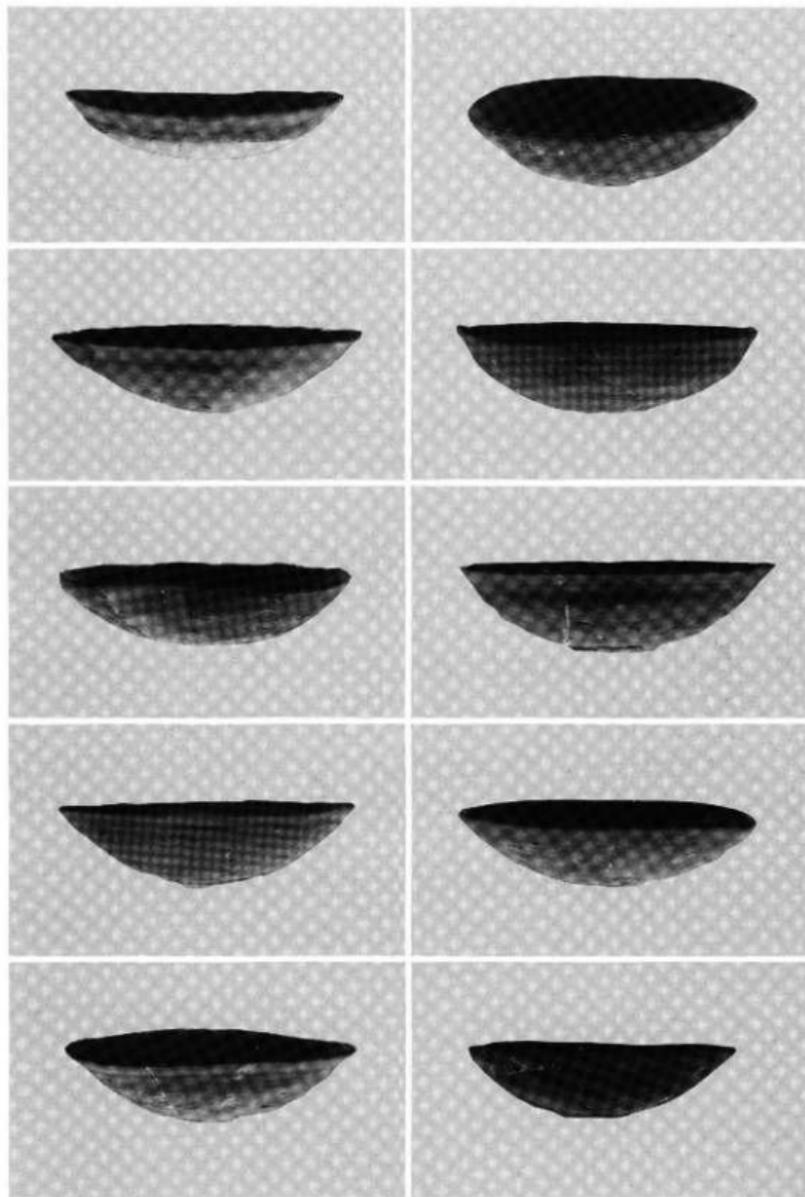
SD 2 土師器皿、瓦器類

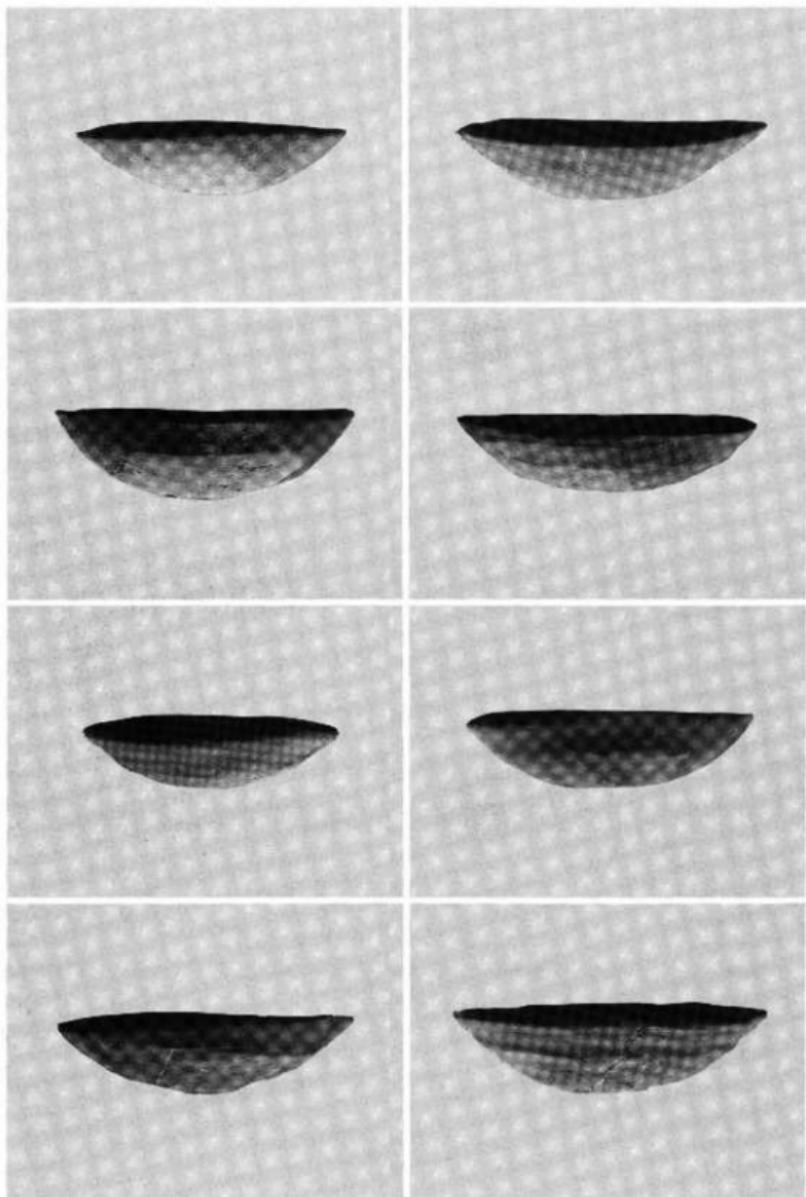


SD4土師器皿、瓦器碗、碇石・SD12瓦器碗

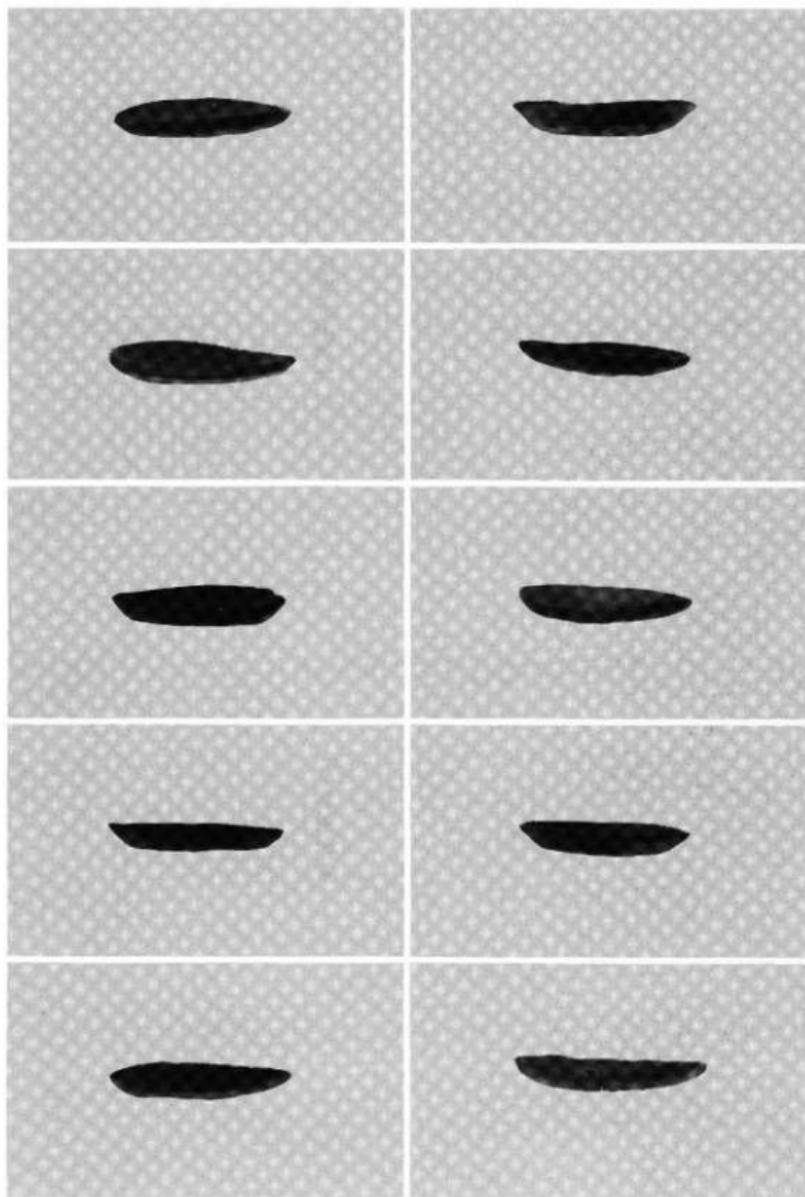


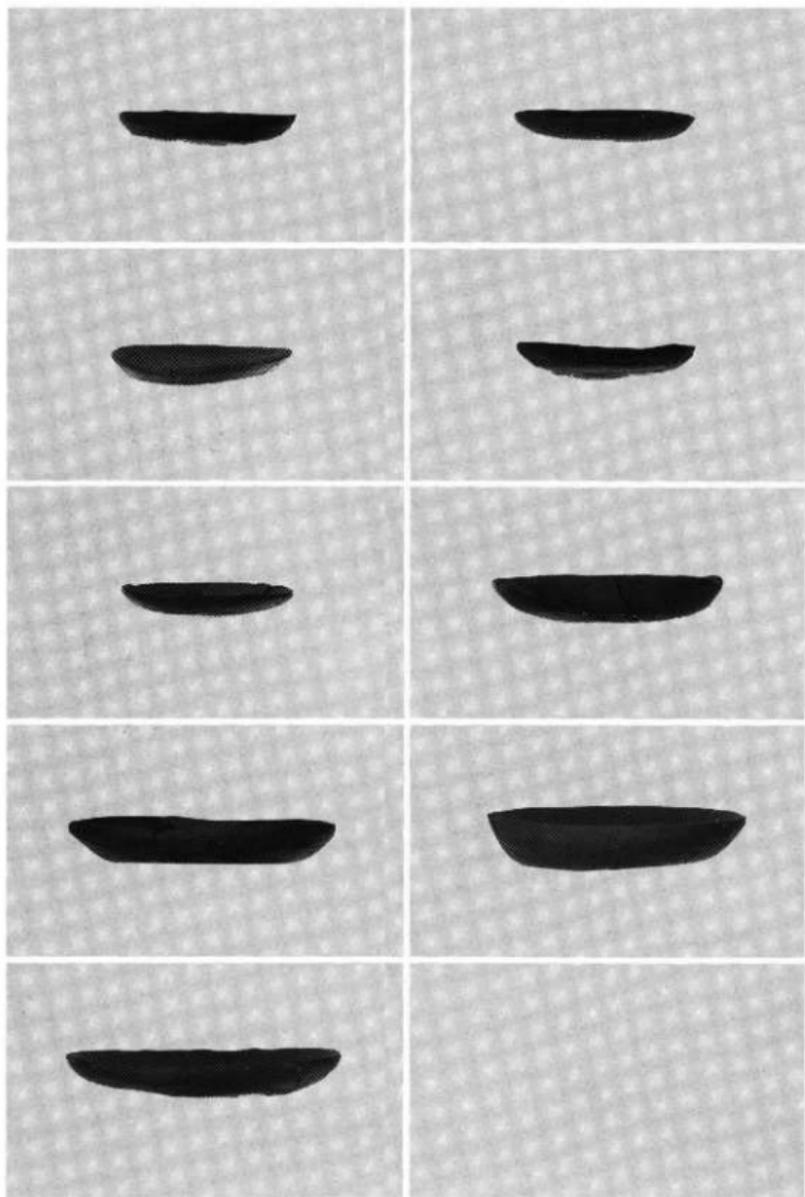
SD8土師器皿



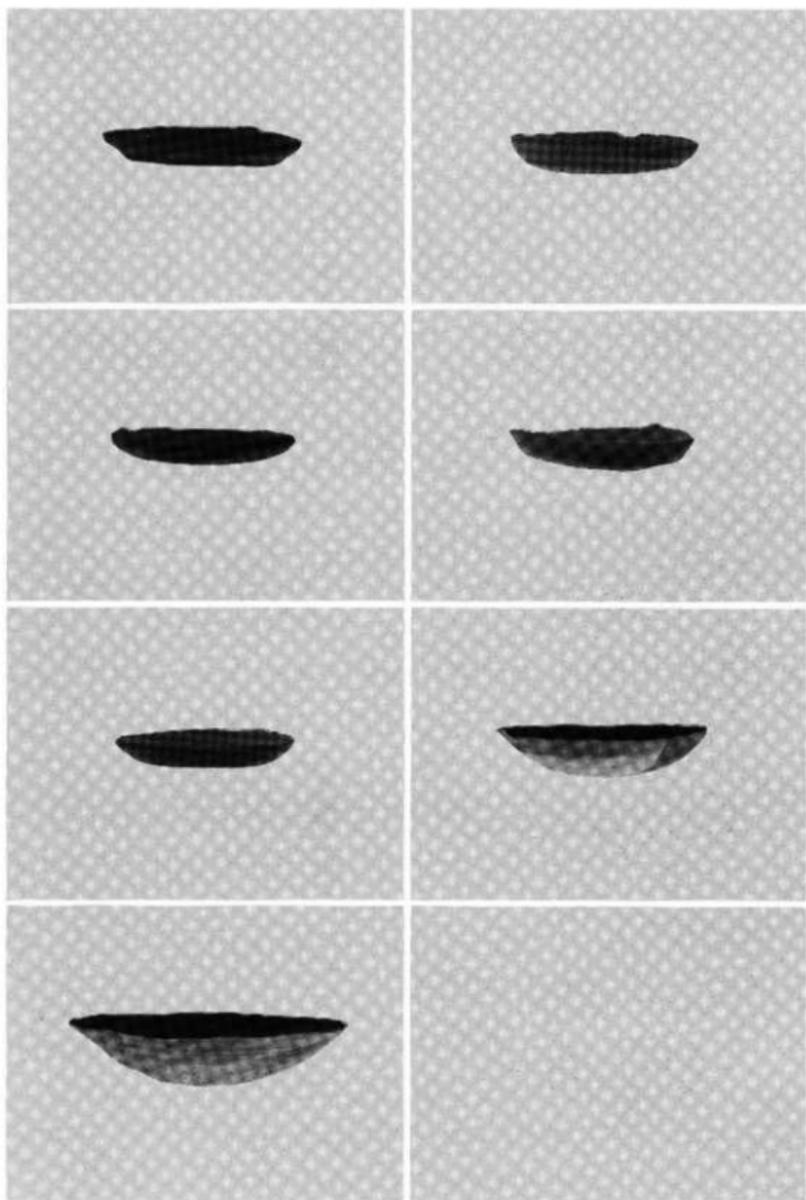


SD9瓦器繪

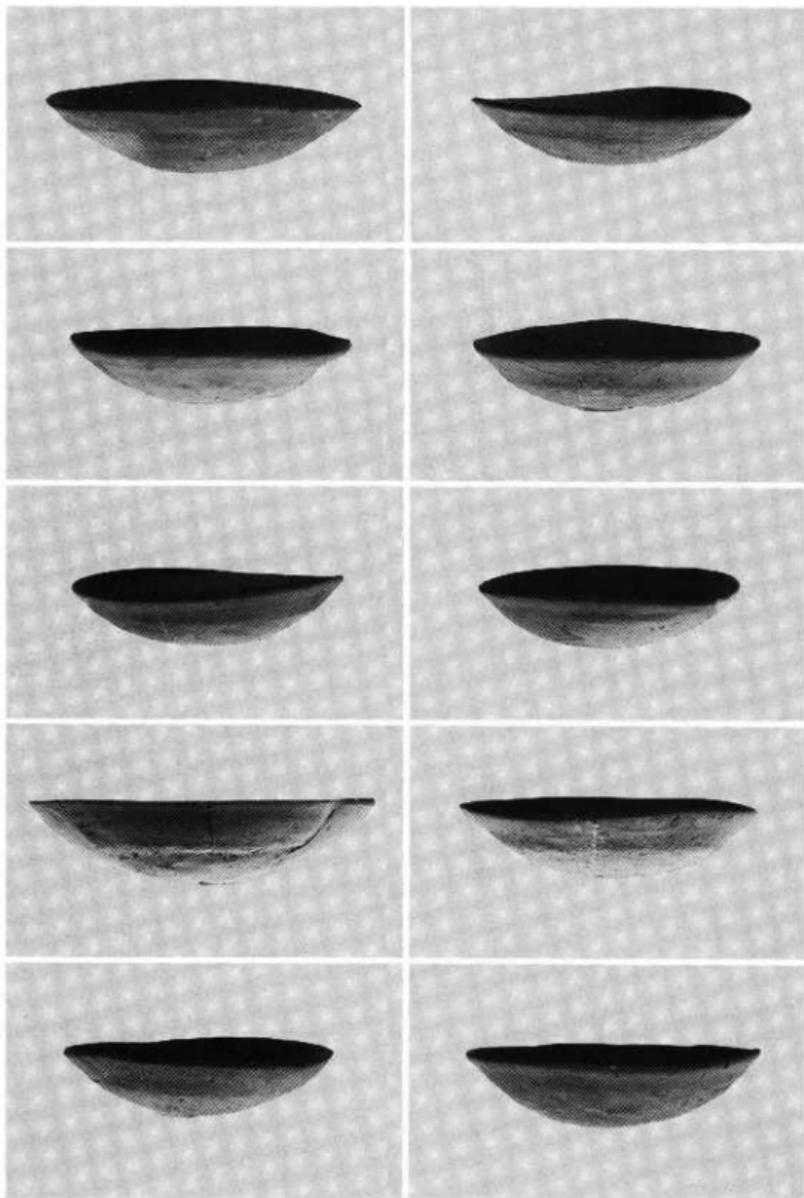




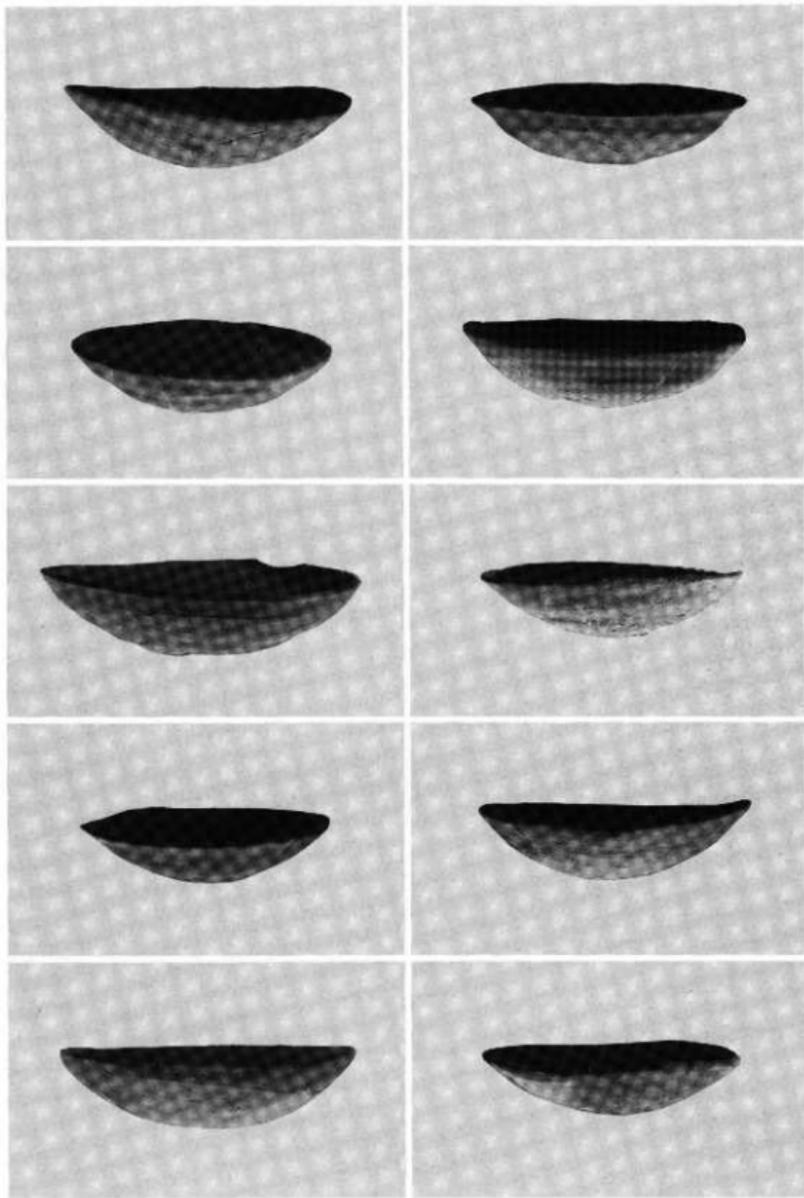
SD9土師器皿

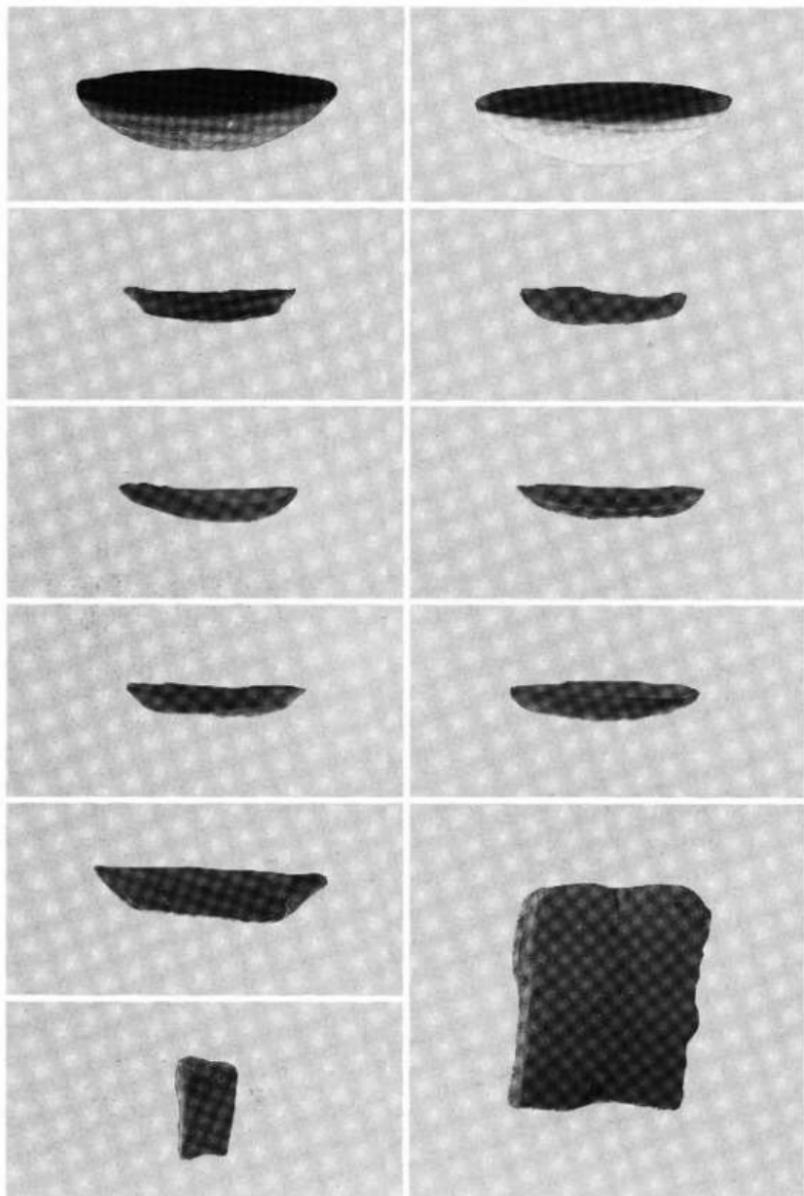


SD11土師器皿、瓦器模

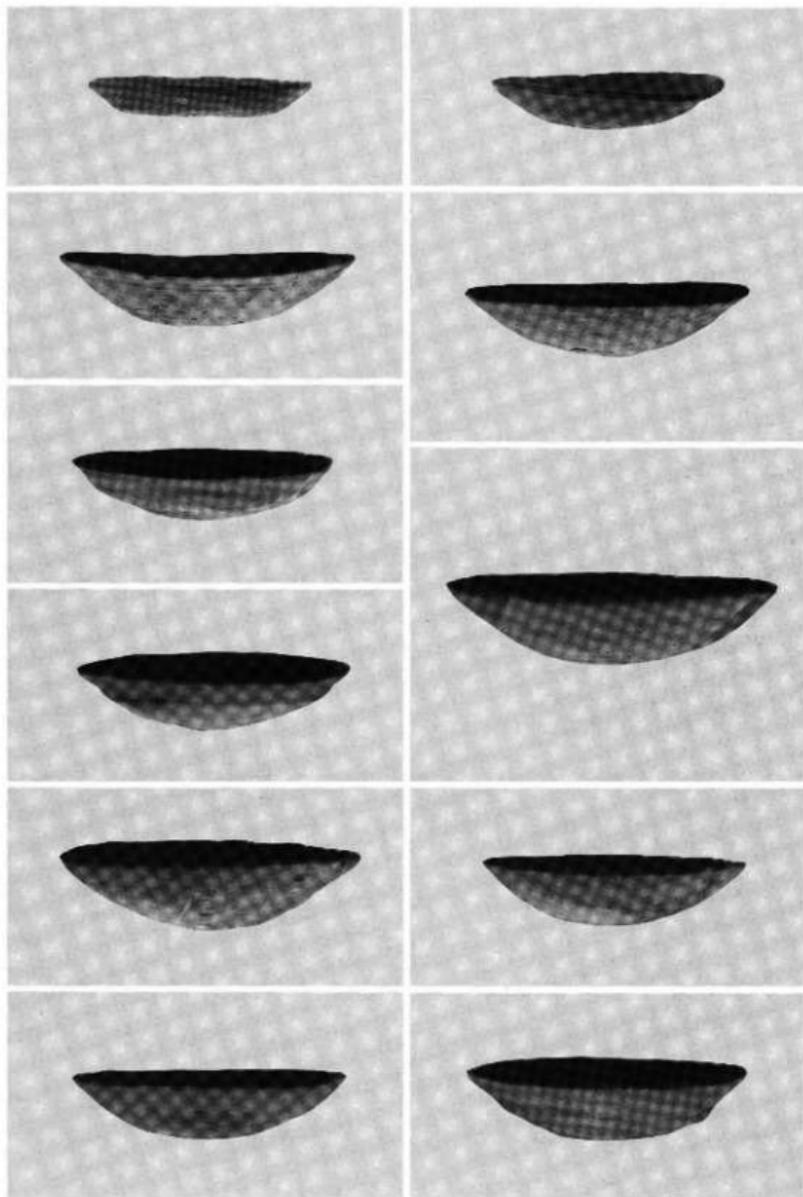


S D15瓦器柄

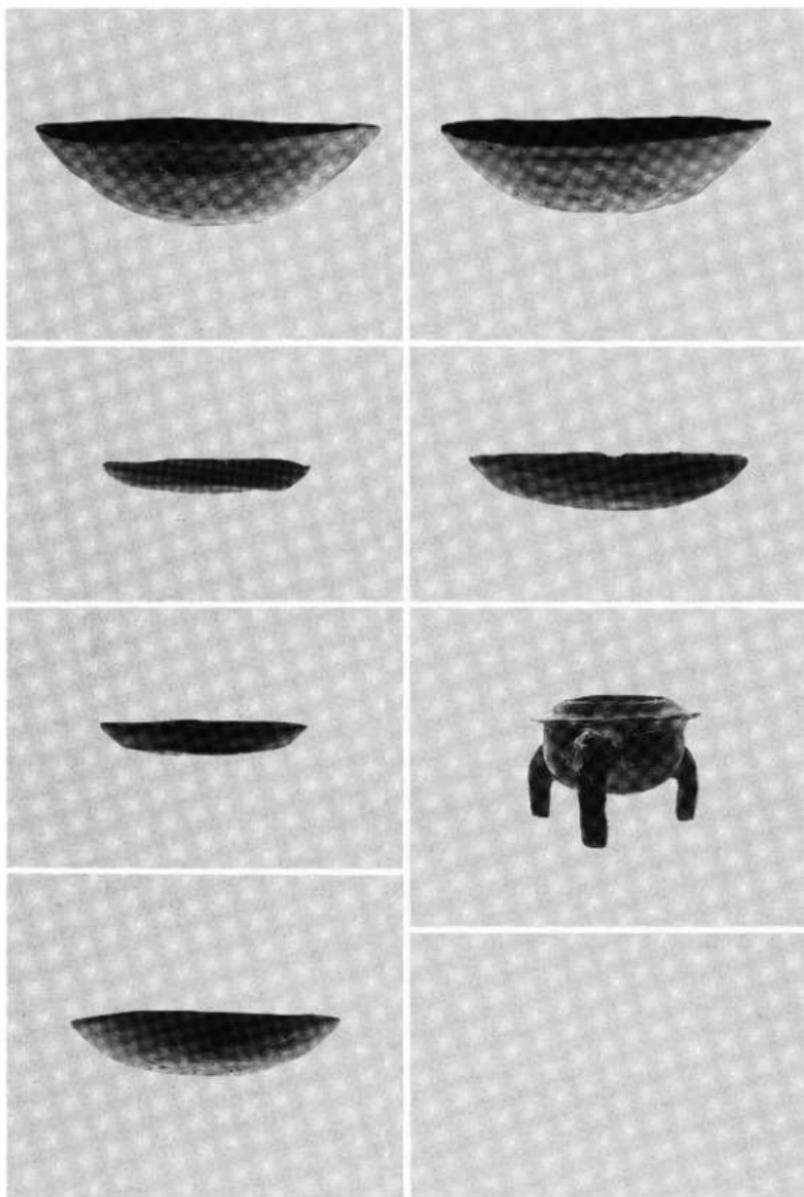




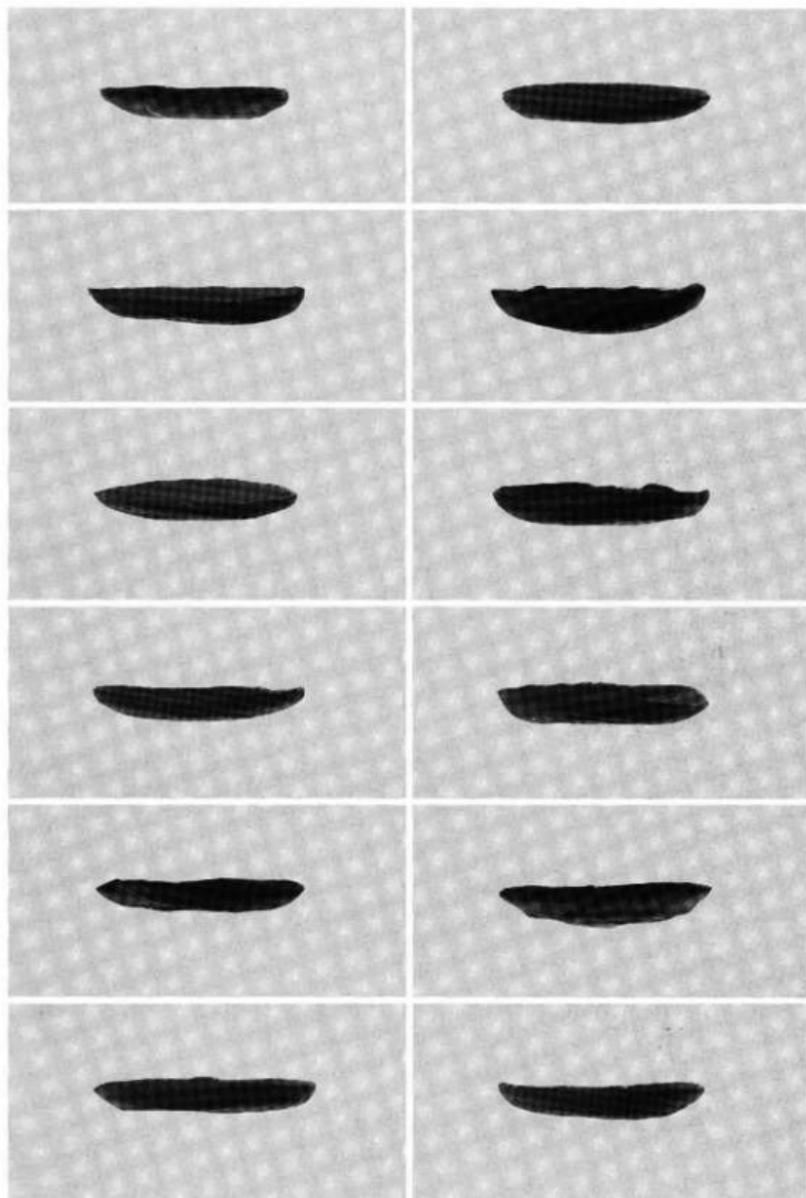
SD15瓦器碗、土器器皿、砾石

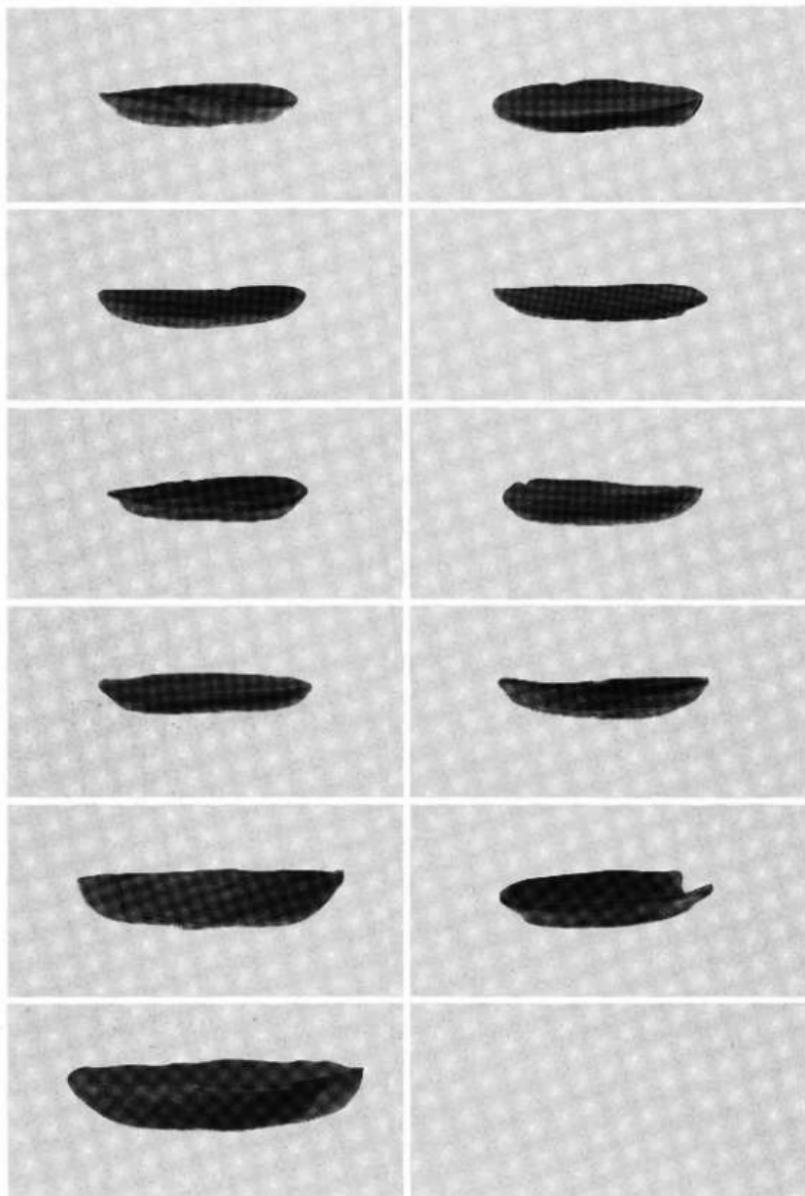


S D16土钵器皿、瓦器碗 · S D18瓦器碗

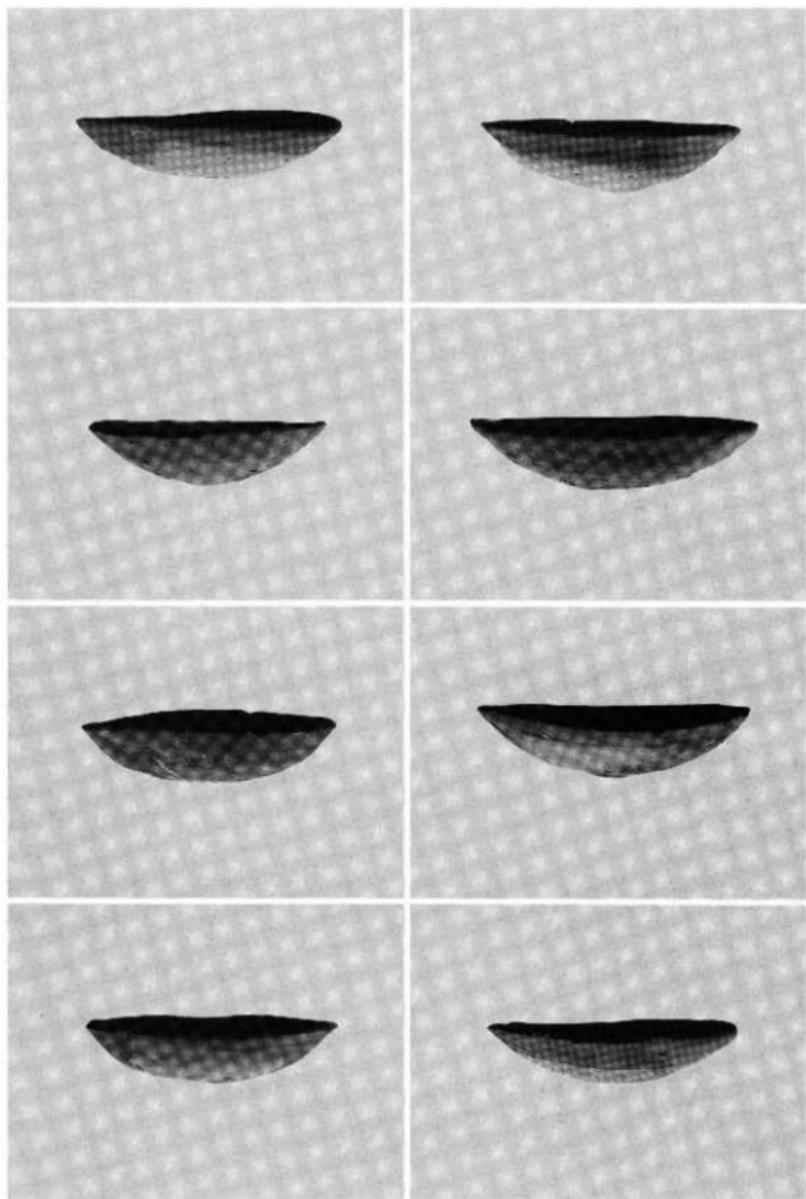


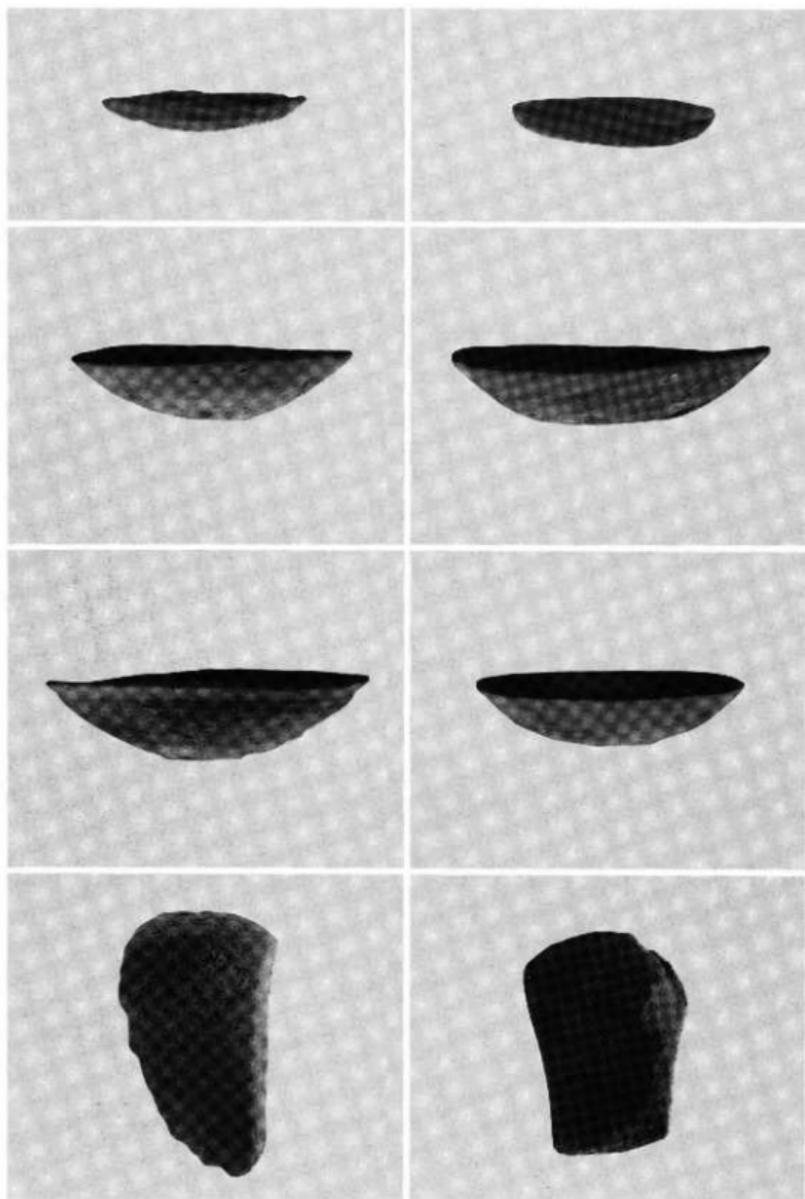
SK 2 瓦器碗・SK 3 土師器皿・SK 8 土師器皿、瓦器椀、ミニチュア足釜・SK 8 土師器皿



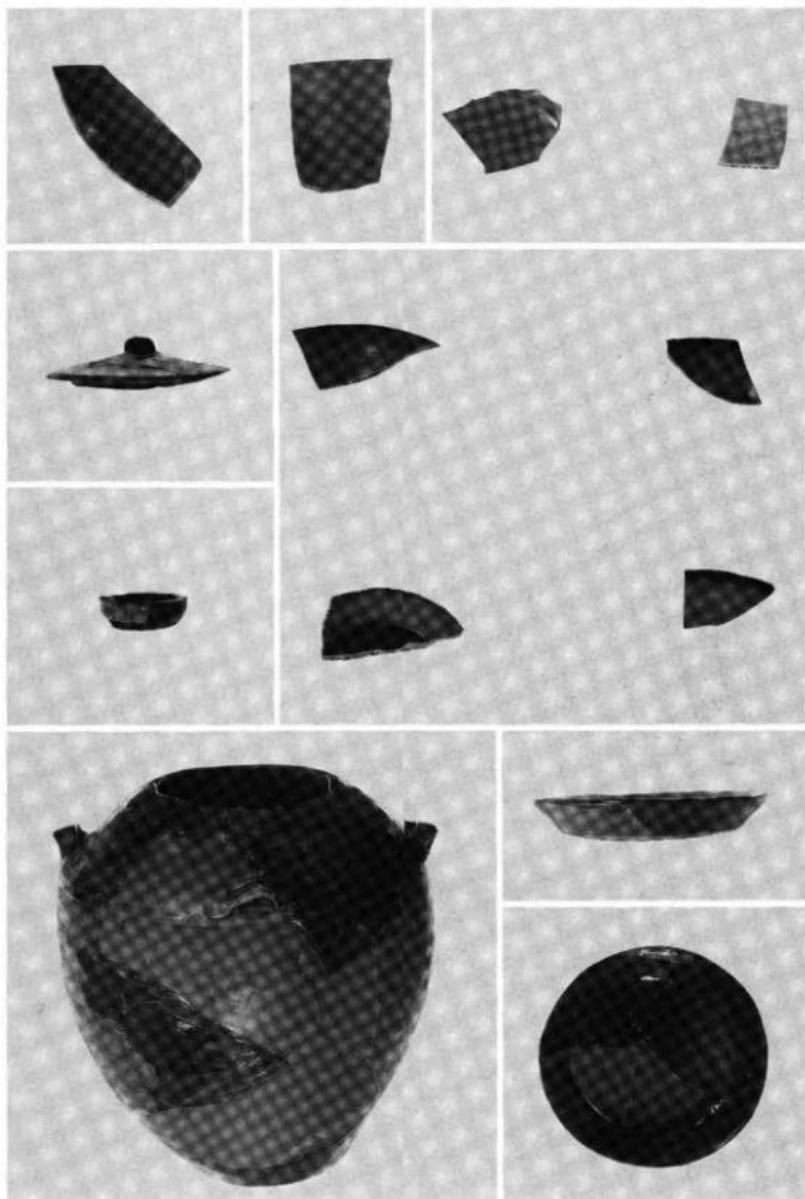


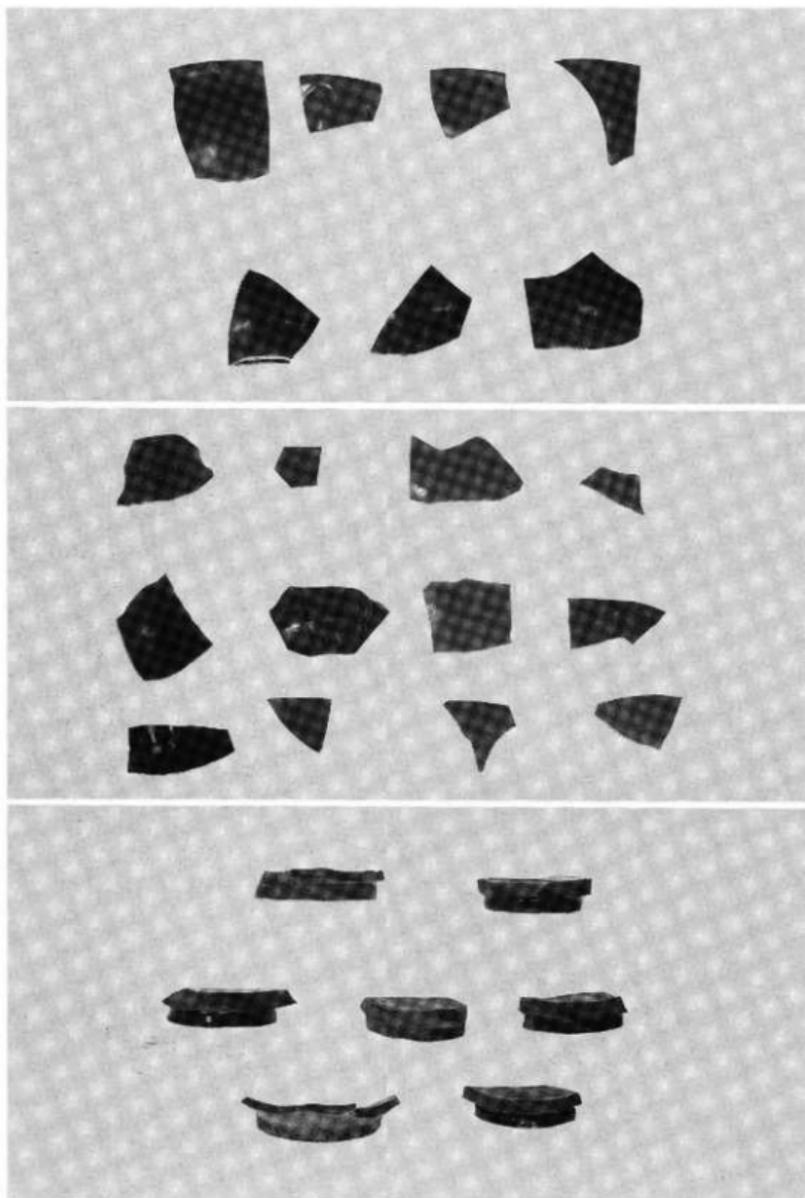
SK7土師器皿

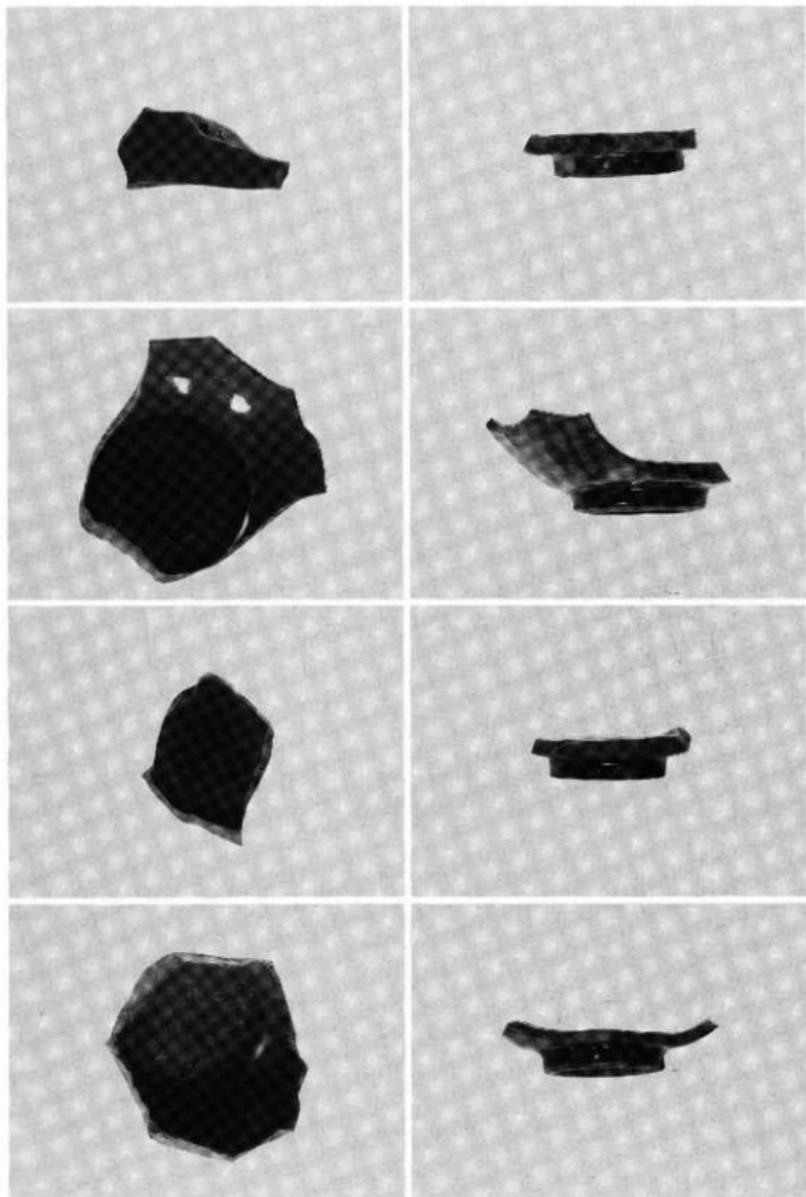


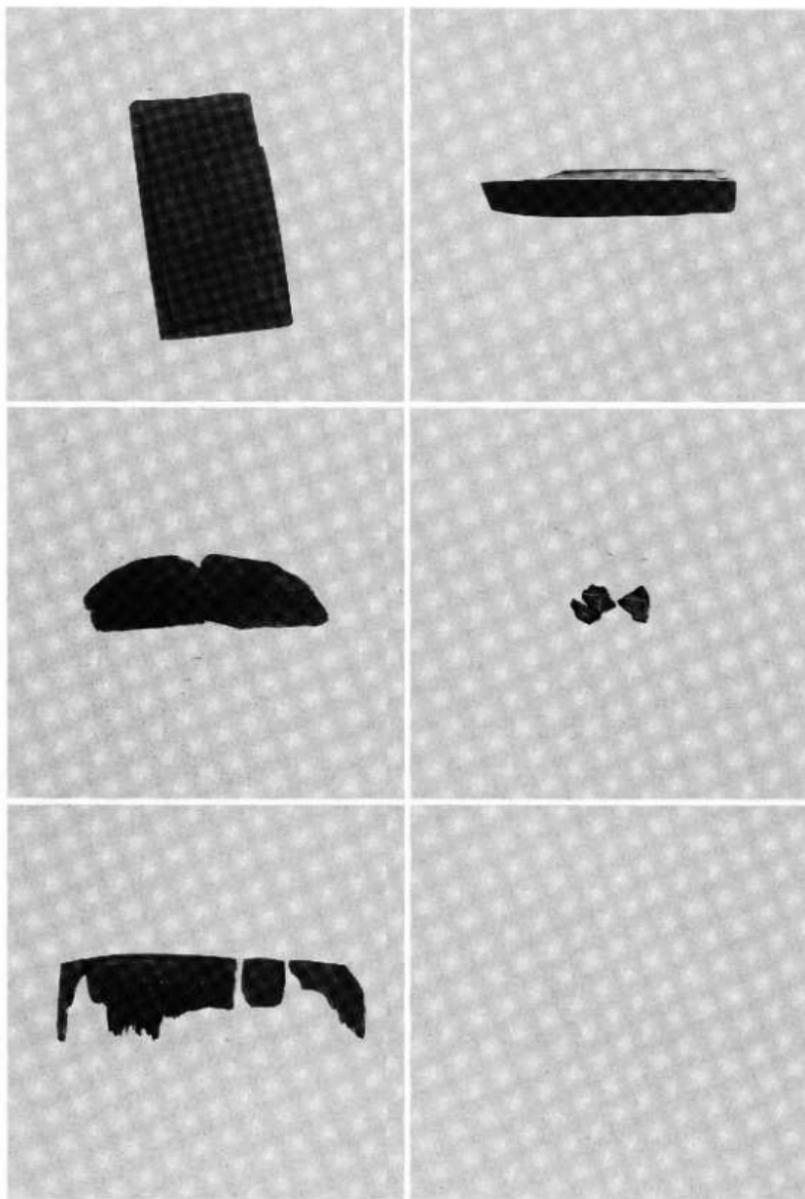


图版40 SG1土器器皿、瓦器柄、砭石

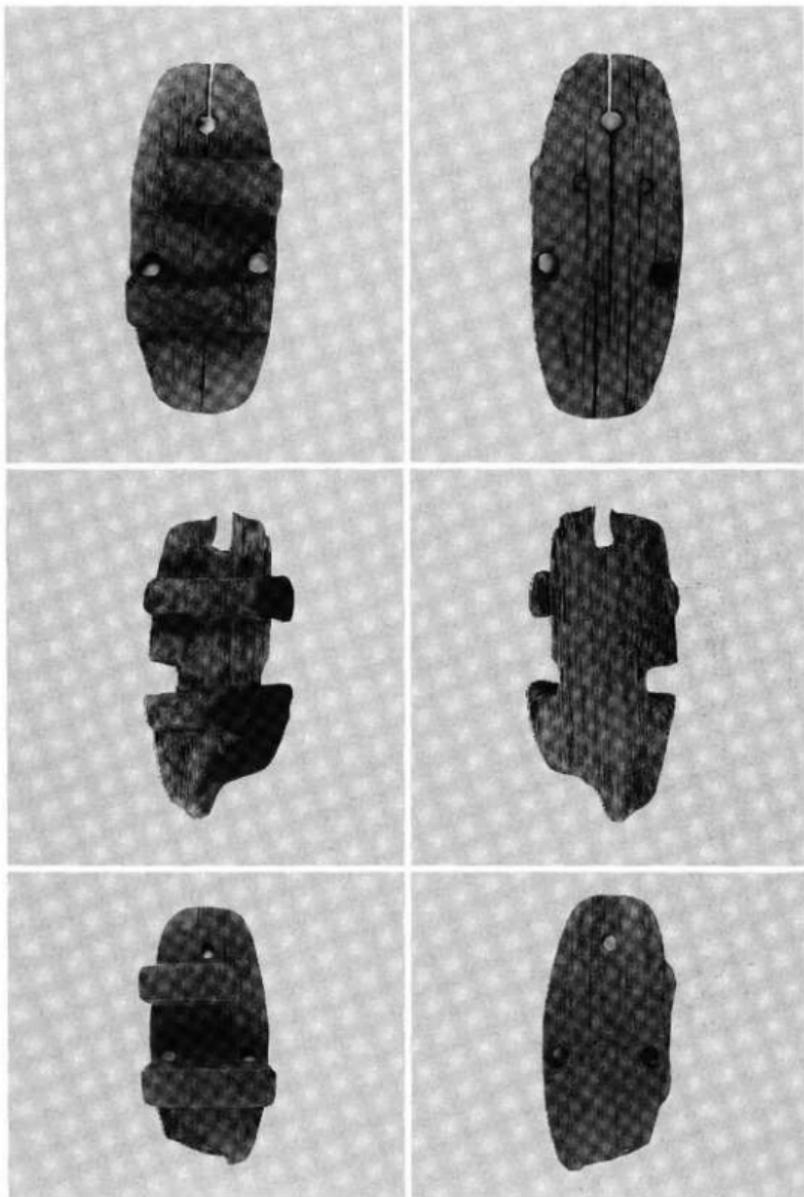


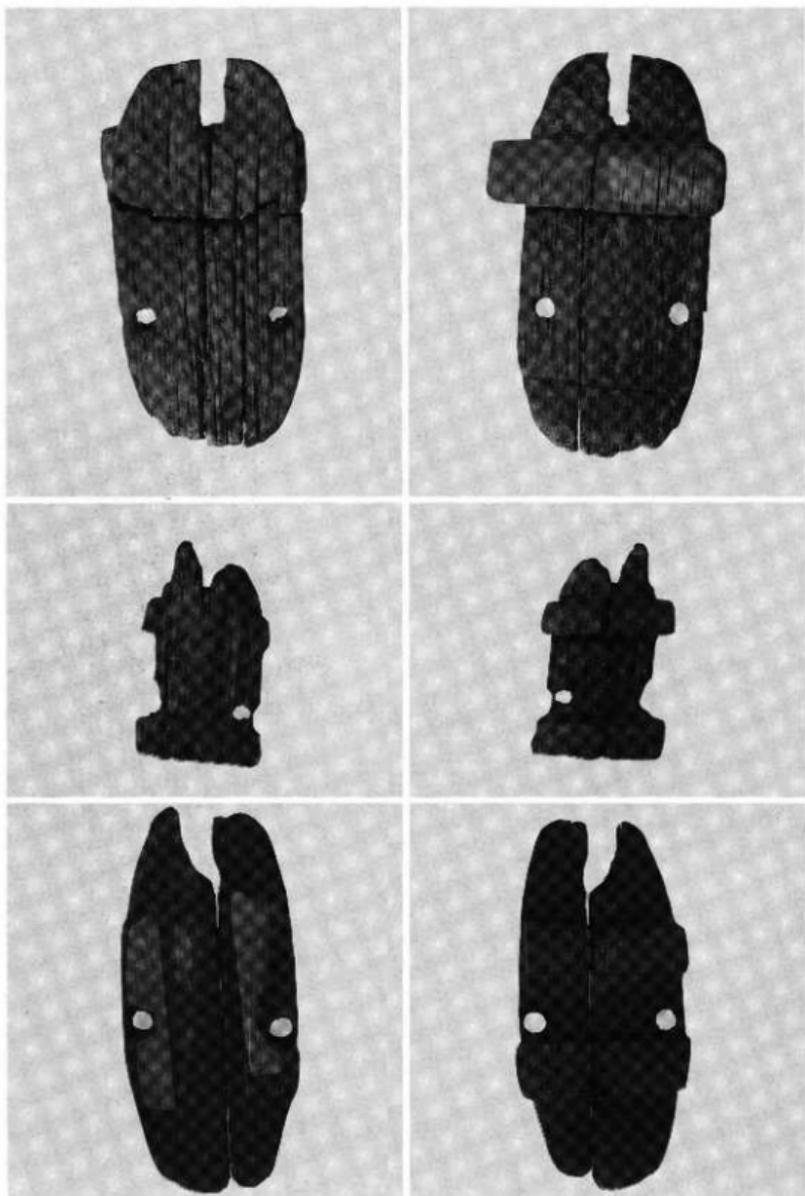


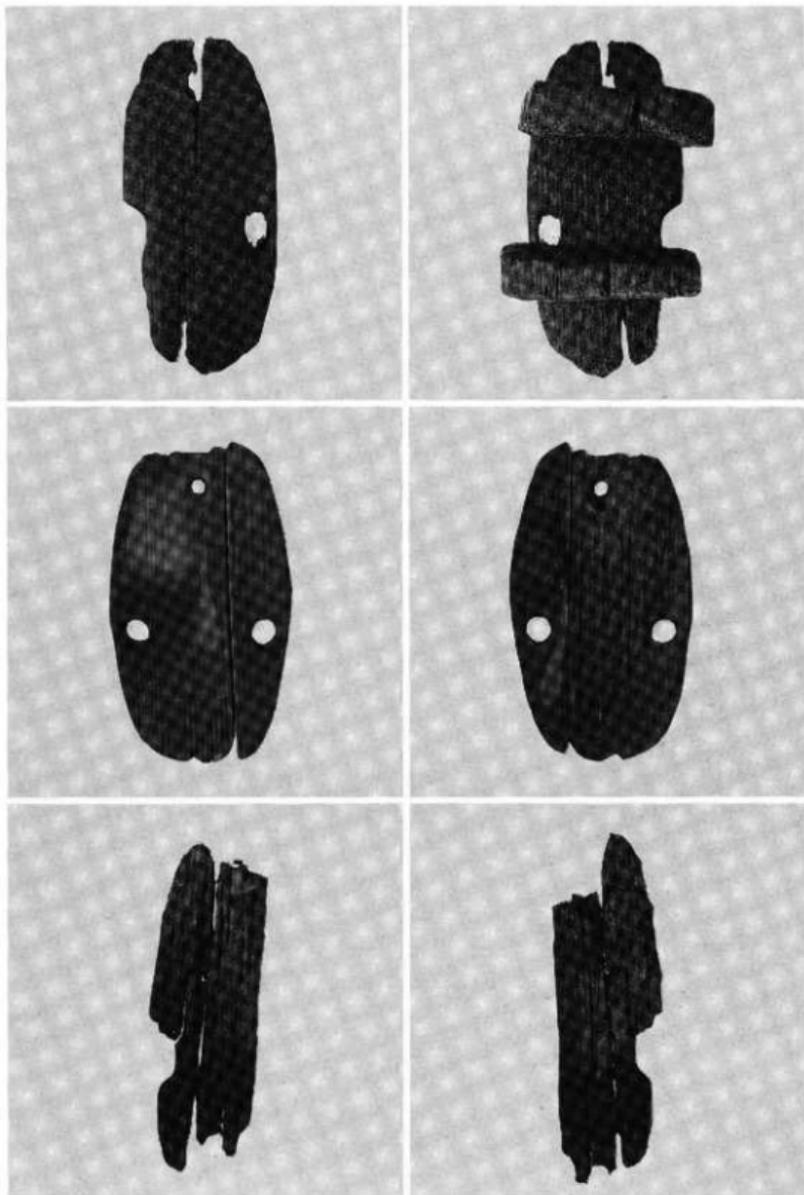


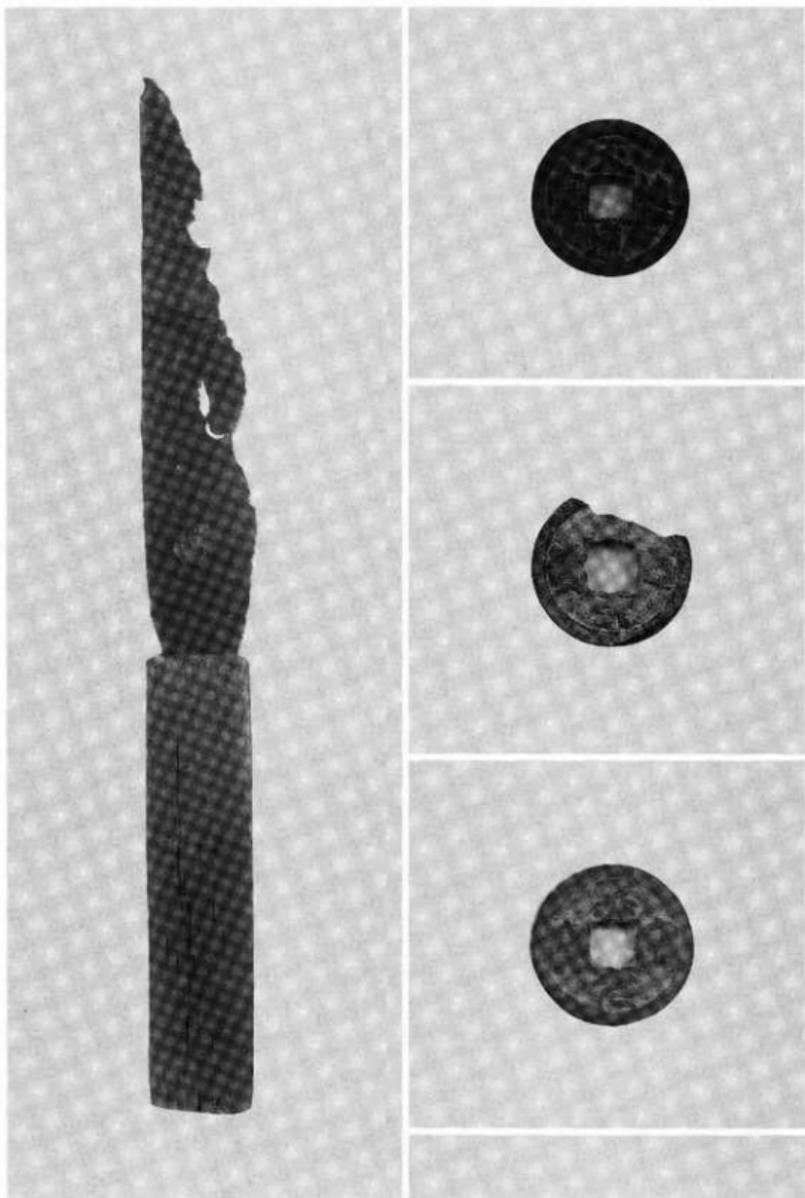


硯、漆器、銅

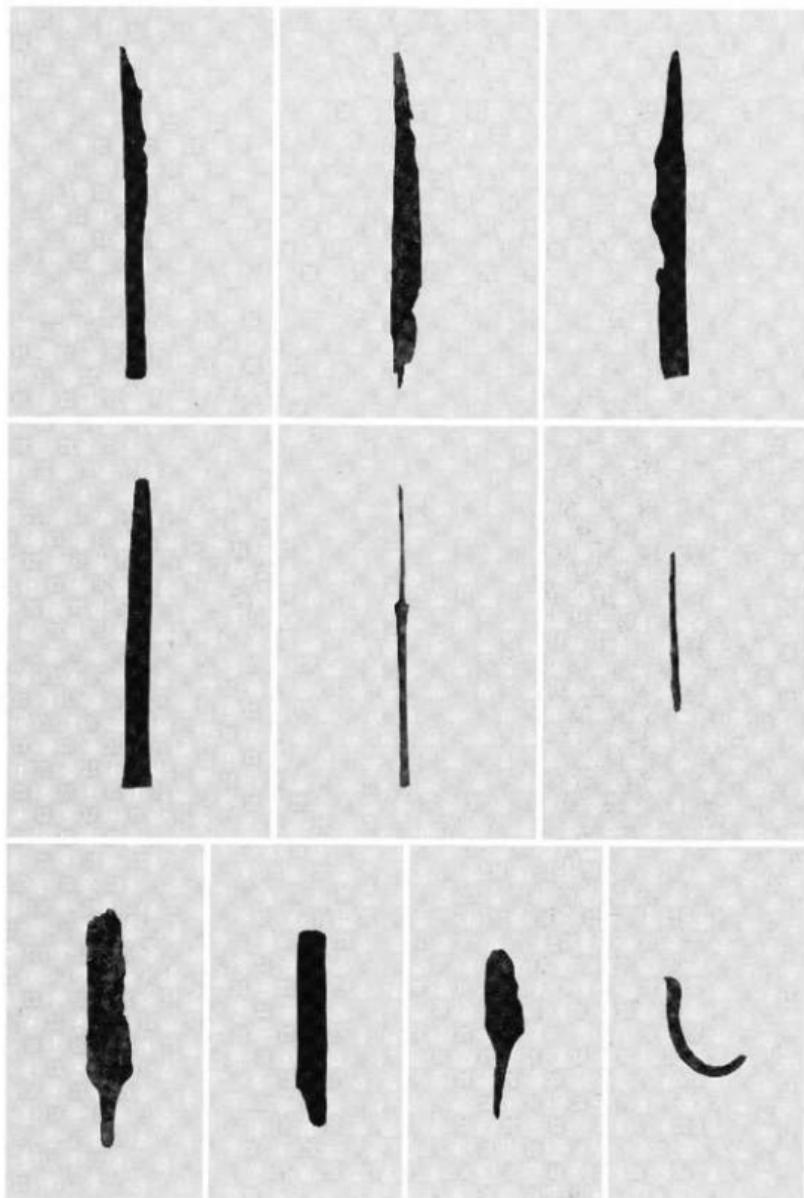








宋錢、包丁



(財)八尾市文化財調査研究会報告 24

福 万 寺 遺 跡

—上之島町北3丁目22-1の調査—

発 行	平成2年6月
編 集	財団法人八尾市文化財調査研究会 〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号 TEL (0729)94-4700
印 刷	近畿印刷センター 〒582 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号 TEL (0729)72-5918
表 紙	レザック66 (260 kg)
本 文	書籍用紙 (70 kg)
函 版	マットアート (135 kg)

